

大正五年二月一日

東蒙事情

第二號

參謀本部



始



326-124

東蒙事情 第二號

參謀本部寄贈本

目次

第一 東部內蒙古ノ風俗	一
一、概況	一
二、衣服	三
三、食物	四
四、住居	六
五、婚姻	〇
六、娛樂	〇
七、社會ノ狀態	〇
第二 東部內蒙古ニ於ケル教育並ニ宗教	二
一、教育	二
二、宗教	三
目次	一

大正
5. 2. 16
寄贈

第三 蒙古王公ノ一般財政狀態

一、收入.....二五

二、支出.....二六

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況(前號ノ續)

一、白音他拉.....二七

二、開魯.....二〇

三、平泉.....三一

四、經棚.....三三

五、林西.....三六

六、建昌.....三八

七、烏丹城.....三二

第五 東部內蒙古ニ於ケル曹達

一、產地.....三四

二、採取法.....四〇

三、製造法.....四〇

四、集散市場.....四二

五、用途.....四三

六、販路.....四三

七、精製法改良.....四四

八、企業トシテノ適否.....四四

第六 「タブスノール」ノ食鹽

一、名稱.....四四

二、位置及廣袤.....四五

三、鹽湖ノ景況.....四五

四、採鹽法.....四六

五、品質.....四七

六、產額.....四七

七、販賣方法.....四八

八、供給區域.....四九

九、運搬方法.....五〇

十、鹽湖ノ價值	五〇
第七 蒙古對露國貿易	五三
一、輸入	五三
二、輸出	五三
第八 滿蒙經營ト山東出稼苦力	五五
一、緒言	五五
二、出稼苦力ノ現況	五五
三、出稼苦力ノ經路及其範圍	五七
四、出稼苦力ノ就業場所	五九
五、出稼苦力ノ特性	五九
六、結論	六〇
第九 蒙古王公ノ支那官民竝ニ旗民ニ對スル勢力	六一
第十 滿蒙ニ於ケル通貨及金融機關	六四
一、通貨及金融機關ノ狀況	六四
二、通貨ノ種類及流通區域	六五

三、通貨ノ相場	七一
四、金融機關	七三
第十一 南滿洲ニ於ケル農事試驗成績	七八
第十二 赤峰官民ノ親日的傾向	八〇
第十三 滿蒙移住ニ就テ	八一
第十四 開魯附近ノ狀況	八三
一、概説	八三
二、物資集散概況	八五
三、商業	八六
四、運搬具及運賃	八六
五、家畜數	八七
六、野菜	八七
七、人夫	八七
八、開魯縣下ニ於ケル民間有力者	八七
九、物價	八七
目次	五

第十五 白音他拉ノ狀況

一、一般狀況	九六
一、通遼鎮行政區域	九六
三、人口及戶數	九六
四、大小街基ノ狀況	九六
五、官公所	九六
六、主ナル商家ト其財産額並小商店	九六
七、特殊ノ店舗數	九六
八、商 品	九六
九、商習慣	九六
十、各種傭人職工給料	九六
十一、借家料	九六
十二、借地料	九六
十三、街基ニ於ケル宅地ノ價格	九六
十四、運賃	九六
十五、通 貨	九六
十六、度量衡	九六
十七、白音他拉ニ於ケル日本人	九六
十八、白音他拉近傍ニ於ケル農業ニ就テ	九六

第十六 奉天省錦縣ニ於ケル石綿製造利用有限公司ノ狀況

第十七 滿蒙ニ關スル支那新聞ノ所論	一〇〇
一、東蒙ノ區域	一〇〇
二、遼西事件近聞	一〇〇
三、日本人滿蒙警察權ヲ覬覦ス	一〇〇

第十八 雜 件

一、内蒙兵備ノ實況	一〇四
二、内蒙警察創設ノ計畫	一〇四
三、赤峰商埠開設及交渉員設置ノ近聞	一〇四
四、内蒙學區ノ區劃	一〇四
五、察、熱、綏三特別行政區域教育振興策	一〇四

六、勝福ト呼倫貝爾副部統ノ任命	二二九
七、三特別區ノ道尹新設	二三〇
八、長春殖邊銀行支店開業	二三一
九、殖邊銀行ノ紙幣發行	二三三
十、營蓋輕便鐵道敷設	二三三
十一、鐵嶺縣外五縣ノ電話架設	二三三
十二、支蒙感情融和策	二三三
十三、蒙古ニ於ケル露人ノ事業	二三三
十四、達賴罕王旗下ノ土地拂下	二三四
十五、蒙古荒地無屑賣渡禁止通則	二三五
十六、東蒙旅行者ノ談片	二三六
十七、奉天省支那官憲ノ日支新條約ニ對スル態度	二三六
十八、袁世凱ノ密諭ニ就テ	二三九
十九、奉天省興京縣在留邦人ノ現狀	二四一
目次終	

東蒙事情 第一號

第一 東部內蒙古ノ風俗

一、概況

東部內蒙古ハ其區域廣汎ナルヲ以テ從テ其風俗習慣等地方ニ依リ多少ノ差アルヲ免レサルモ大體ニ於テ興安嶺ヲ以テ分界トシ其東南各地ト其西北各地トノ二ニ分ツヘク東南部ハ開拓地方ト開拓地方ニ接スル地方ト興安嶺山脈麓地方トノ三ニ分ツヲ得ヘシ

昔成吉思汗ノ鐵騎カ世界ヲ震駭セシメタルノ事蹟ヲ讀メルモノハ何人ト雖モ蒙古人ノ當時如何ニ慄悍勇武ナリシカヲ疑ハサル可シ今日猶ホ其容貌及風俗ヲ察スルトキ真ニ其然ルヘキヲ信セントスルモ仔細ニ真相ヲ觀察スレハ其然ラサルヲ發見スヘシ性質ハ朴直慇懃ニシテ親ムヘク感情的ニシテ怒リ易ク喜ヒ易ク愚鈍ニシテ粗野淡白ナルコト小兒ノ如シ是レ畢竟清朝累世ノ對蒙策ノ結果ニシテ喇嘛教教化ノ然ラシムル所タリ彼等ノ大部ハ生存競争圈外ニ超然トシテ利害ノ念ナク又其必要ヲ感セス牛羊ヲ伴侶トシテ喫茶、吹烟、眠食ヲ貪リ醉生夢死、只管讀經、念佛ヲ是レ事トシ後世ノ冥福ヲ希フニ餘念ナシ敢テ複雜ナル人世ノ苦難ヲ知ラス然レトモ若シ一ノ動機アリテ之ヲ刺激シ其性情ヲ反撥スルアラハ



東部內蒙古ノ風俗

將ニ必ス祖先ノ遺傳的性情ヲ喚發スルナルヘシ彼等カ驛馬ニ鞭チテ曠野ヲ疾驅シ縱橫無盡所謂鞍上人
ナク鞍下馬ナキノ勇壯ナル狀ヲ見レハ轉タ往昔ノ勇敢ナル氣象ヲ偲ハシム

蒙古人ハ人ニ接スルコト甚タ親切ニシテ其同族知己ノ間ニ於テハ勿論外來未知ノモノト雖モ一度相知
ルヤ一見舊知ノ如ク一家舉テ之ヲ歡待スルノ風アリ故ニ偶々旅客ノ驟雨ニ逢ヒ若クハ夜間一宿ヲ乞フ
モノアル時ハ其所屬ノ明カナルモノニ對シテハ常ニ同情ヲ以テ歡迎ス然レトモ由來人烟稀薄ニシテ行
政普及セス所在惡徒ノ出沒スルアリ且各村落ハ互ニ遠隔シ自村外ノ人ニ接スルコト極メテ少ナキヲ以
テ外來人ニ對シテハ頗ル恐怖シ或ハ卑下シテ容易ニ家ニ入ルコトヲ許ササルヲ常トス而シテ外來者ノ
人員多ク勢力大ナルモノニ對シテハ善惡ニ拘ラス其爲スカママニ任セ往々家ヲ空ニシテ逃去ルコトア
ルモ之ニ反シ小勢ナルトキハ侮蔑シテ一切取合ハサルコトアリ但シ外來者ニシテ土著ノ蒙古人ヲ伴フ
トキハ便宜多ク官ノ認許ヲ有スレハ更ニ便ナリ

右ノ如ク外國人ニ對シテハ之ニ接スルノ機會少ナキヲ以テ甚タ恐怖スルモ一度慣ルル時ハ轉シテ珍客
トシテ婦女小兒ニ至ルマテ親シク近接スルヲ常トス

蒙古人ハ喀爾喀族ニシテ軀幹長大ナラサレトモ體格強壯面貌扁平皮膚赫色ヲ帶ヒ頰骨高ク幼少ノ時ヨ
リ剃髮スルコトナク其性勇悍ニシテ能ク勞力ニ堪フ一般ニ族長制度ニシテ王公ハ其部族ノ總長タリ每
族各一人ノ族長ヲ設ク而シテ各家族ニ於テモ家長制ヲ採リ其家長タル男子一家ノ全權ヲ有シ相續ノ方

法等ハ我カ國ト同様ナリ而シテ家長數子アルトキハ長男ヲ留メ他ハ皆出家シテ喇嘛僧タラシムルヲ例
トセシモ近時數子アルモノハ分家セシメテ戶數ヲ増加シ喇嘛トナササルモノ少ナカラス又男女ノ關係
ハ男尊女卑ナリ

衣服

二、衣服

蒙古人ノ服裝ハ地方毎ニ多少ノ差異アルモ元來清朝ノ服制ニ由ルモノニシテ衣服、馬裝等各部略々其
揆ヲ一ニス唯之ヲ滿漢人ニ比スレハ一般ニ寬濶ナルト上衣ハ赤色紫色黄色等目立ツ色合ヲ用フル差ア
ルノミ而シテ其外被ハ通常丈ケ長クシテ束帶ヲ解ケハ地ニ達スヘシ故ニ就寢ノ際ハ以テ掛布團ノ代用
トナスニ足リ著裝時ハ僅ニ引上ケ絹又ハ木綿ノ帶ヲ以テ腰部ヲ緊束ス故ニ彼等ノ側背部ニハ著シク其
皺襞ヲ見ル帶ハ其中央ヲ背後ヨリ前方ヘ繞ラシテ交叉シ腰部ノ兩側ニ挿シ其端末ヲ垂下ス束帶ノ前部
ニハ嗅咽草入ヲ右側ニハ食事用ノ小刀ヲ後部ニハ燧石ヲ下ケ烟袋ハ左腰ニハ烟管ハ或ハ之ヲ長靴中ニ
挿入シ或ハ左腰ニ挿ムヲ普通トス而シテ其上ニ更ニ上衣(夏冬ノ二様アリ)ヲ用ヒ革製又ハ布製ノ靴ヲ
穿テ常ニ帽子ヲ冠リ或ハ手拭ヲ以テ鉢卷ヲナシ手ニハ珠數ヲ持テ頸ニハ佛像ヲ吊シ外出ニ際シテ必ス
鞭(長サ二尺餘ノ藤ノ杖多シ)ヲ携フ然レトモ開拓地方ニ介在スル蒙民ハ殆ント滿漢移民ト同一ノ服裝ヲナシ一見漢
民ト區別シ難シ

蒙民ハ滿漢人ニ比シ一般ニ貧窶ニシテ生活ノ程度低キカ故ニ絹布ヲ用フルコト少ナク概ネ綿布(凡テ

無地ニテ青、赤、淺黃等ノ染色ヲ好ムヲ用フ又喇嘛ハ黃服又ハ紅服ヲ著用スルモ高級喇嘛ハ專ラ黃服ヲ用フ

衣服ハ一度新調セラルルヤ爾後洗濯又ハ修繕ヲ加フルコトナク如何ニ汚垢ニ染ムモ如何ニ破損スルモ之ヲ留意セサルモノノ如ク大破シテ用ヲ爲ササルニ至リ始メテ之ヲ棄テ新衣ヲ購フ概シテ不潔ノ觀念ナク食後食指ノ汚レハ之ヲ衣服ニテ拭ヒ食器ノ汚塵モ亦自己ノ袖又ハ衣服ノ一端ニテ拭フ加之日自家畜ニ接シ馬ニ跨リ地上ニ坐シ風雨ニ曝サルヲ以テ衣服保存ノ難キハ當然ニシテ常ニ汚穢ニ染ミタル襤褸ヲ纏ヒ居ルモ亦偶然ニアラサルナリ

食物

三、食物

蒙古人ノ常食ハ大體ニ於テ乳、茶、羊肉及黍又ハ其他ノ雜穀、小麥粉、干饅飽等ナレトモ興安嶺ノ東南部開拓地方ニ在リテハ移住民ト均シク高粱、粟、黍其他ノ雜穀野菜類ヲ用ヒ牛乳及其製品ヲ用フルコト無シ開拓地ニ隣接セル地方ニ在リテハ黍及粟ヲ主食トシ、牛乳又ハ其製品獸肉ヲ混用シ、野菜類ヲ用フ又興安嶺山麓地方ニ在リテハ主トシテ牛乳、又ハ其製品及黍ヲ用ヒ、稀ニ野菜ヲ食シ獸肉ヲ用フ又興安嶺ノ西北部中、外蒙古及錫林郭勒盟地方ニ於テハ雜穀、野菜共殆ント耕作セラレサルヲ以テ黍ハ甚タ貴重ナリ故ニ一人一食僅ニ一握位ヲ食スルニ過キス此地方ニ於テ良食ト見ルヘキハ茶、乳及羊肉等ニシテ小麥粉干饅飽ノ如キハ珍ラシキ馳走トシテ富者又ハ王公等ニアラサレハ用フルコト稀ナリ又牛

乳ハ其儘飲用スルトキハ下痢ヲ起スノ恐アルヲ以テ普通夏季コレカ搾取ヲナシ、鍋ニ入レ沸騰セシメ、脂肪分ヲ集メテ「ウルモ」(支那語ノ奶皮子ヲ) 取り其殘餘ハ水分ヲ去リ乾カシテ「ウオチカ」又ハ「ボレ」(支那語ノ奶豆腐) ヲ作り冬季ノ食用ニ供シ又牛乳ヨリ酒ヲ製スル等各種ノ加工ハ巧ナリ

蒙古人ハ一般ニ茶ヲ喫スルコト極メテ多量ナリ茶ハ支那本土ヨリ輸入ス之ヲ用ユルニハ茶中ニ牛乳ト少量ノ食鹽トヲ混ス奶子茶又ハ蒙古茶ト曰フ蒙古ニテ單ニ茶ト稱スルモノハ即チ此茶ヲ指ス茶ノ飲用ハ時ヲ定メスト雖モ一日平均三回乃至六七回ニ及フ

蒙古人ハ一般ニ大食ニシテ又數十時間ノ絶食ニ堪ユ是レ畢竟食ヲ得ルコト困難ナルヨリ起レルモノナリ故ニ蒙古人ハ旅客ヨリ金錢ノ贈與ヲ受クルヨリモ食物ヲ與ヘラルルカ若クハ物品ヲ與ヘラルルヲ喜フヲ普通トス

酒ト烟草ハ多クノ蒙古人ノ好ム所ニシテ十五六歳以上ノ男子ハ蒙古小刀ト共ニ燧石ヲ腰ニス酒ハ乳酒ノ外滿漢人ノ輸入スル高粱酒ナリトス

蒙古ニ於ケル一般ノ燃料ハ獸糞ナリ獸糞中ノ最モ良好ナルモノハ羊及山羊ノ糞ニシテ其乾キタルモノハ容易ニ燃燒シ火力極メテ強シ蒙古人及西藏人ハ諸種ノ鐵器ノ製作ニモ亦此火力ヲ用フ鐵棒ヲ火中ニ置ケハ忽チニシテ白色ヲ放ツヲ以テ其火力ヲ推スヘシ羊糞ニ亞クモノハ牛糞ニシテ又之ニ亞クモノハ馬糞ナリ駱駝糞ハ燃燒惡シク最下等ト目セラル

四、住居

蒙古人ハ牧畜ヲ生業トスルヲ以テ其住居ハ毎戸廣大ナル地域ヲ要シ之カ爲メ村落ノ集團ヲ許サス點々散居シ其生業ヲ容易ナラシム故ニ一村多キモ二三十戸少ナキハ二三戸ニ過キス村落相互ノ距離亦著シク遠隔シ近キハ一、二里遠キハ數里若クハ十數里アリテ其寂寞全ク想像外ナリ故ニ蒙古ニハ開放地ヲ除クノ外全ク市街地ナシ

家屋ノ構造ハ地勢及水草ノ豊否ニ由リ大差アリ由來蒙古人ハ均シク天幕式蒙古包ニ住シタルモノナルモ人文ノ發達ニ伴ヒ漸次定住ノ家屋ヲ構フルモノアルニ至レルナリ而シテ現今興安嶺ノ東南部ニ在リテハ殆ント皆移轉セシ是レ水草共ニ潤沃ナレハナリ而シテ開拓地及其隣接地ニアル蒙民家屋ハ大抵滿漢式土塊又ハ煉瓦家屋ニ住シ其周圍ニハ土壁又ハ柳枝柵ヲ繞ラシ家屋門前ニハ經文ヲ書キタル尺大ノ白又ハ赤布ノ小旗ヲ樹テ家ノ附近ニハ家畜ヲ圍フヘキ土壁アリ家ノ前面又ハ側面ニハ燃料タル牛糞ヲ小丘ノ如ク積上ク沙漠中及興安嶺麓ニ在リテハ蒙古包ニ住シ或ハ蒙古包ニ類スル小土塊屋ニ住ス是等ハ常ニ移轉スルコトナク周圍ニ樹枝等ノ圍ヲ爲ス牛糞ノ堆積前者ヨリ小ナク小旗ハ多ク屋上ニ掲ケラレ家ノ周圍ニハ車輛アリ

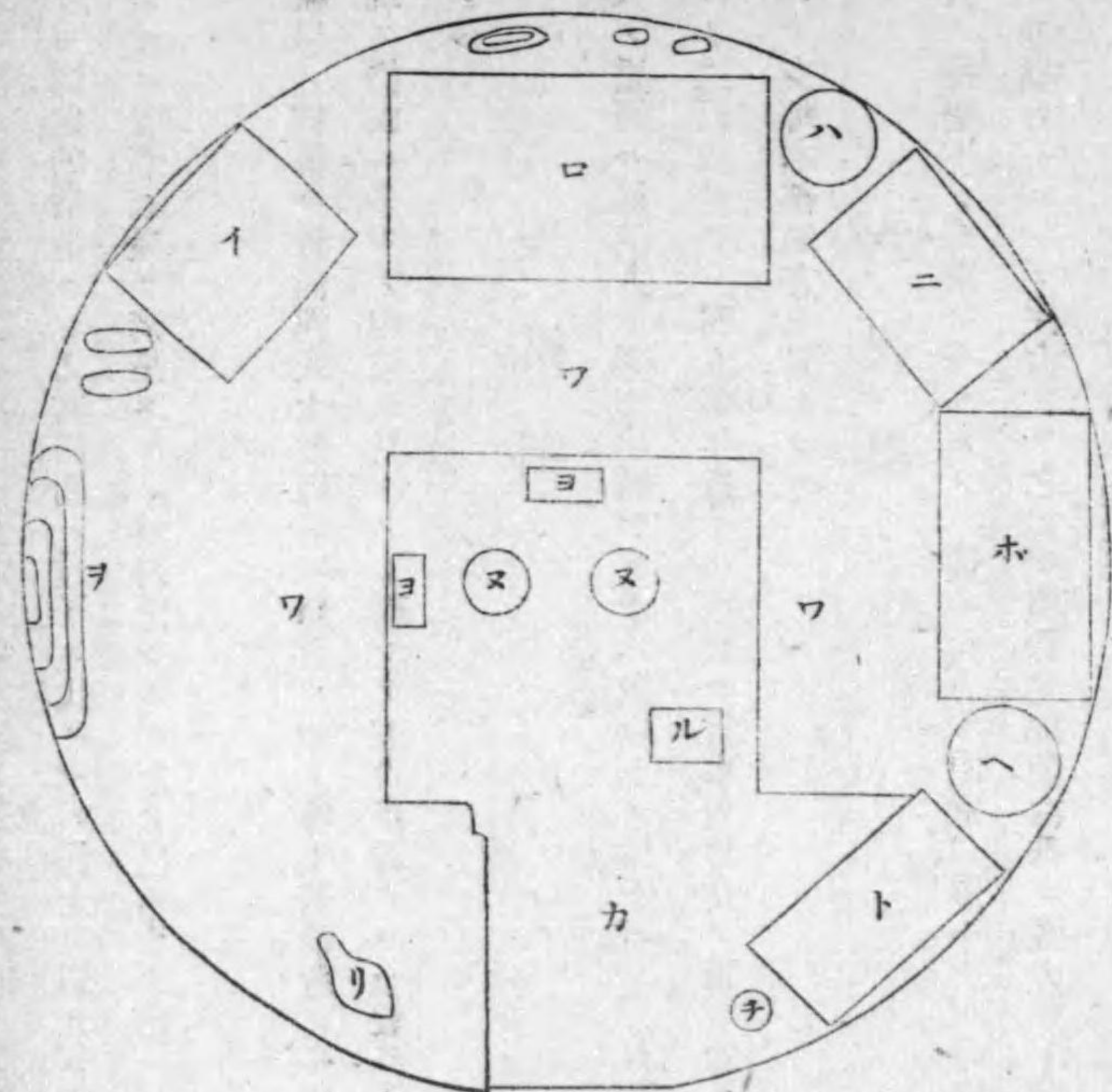
興安嶺西北部地方ニ在リテハ天幕式蒙古包ニ住シ春雪融解ノ頃ヨリ低平地ニ出テ水草ヲ追フテ移轉ス而シテ家屋ノ周圍ニハ常ニ車輛五六乃至十數輛ヲ排列シ常ニ移轉ノ準備ヲ爲シアリ炎天ニテ草少ナキ時ハ一所ニ牧養スルコト三四日ニシテ順次他ニ轉ス冬季結氷スル頃ニ至リテハ丘阜ノ陽部ヲ撰ミ定居ス是レ冬ハ山上ニ草顯ハレ平地ハ雪ヲ吹キ寄セ草ヲ沒シ且雪ヲ飲料ニ供スルヲ以テ低地ニアルノ必要ナキニ依ル是等ノ地方ニ於テハ家屋ノ周圍ニ何等ノ固定の設備ナシ只冬季移ルヘキ地ニハ牛糞ヲ集メアルニ過キス

蒙古包

蒙古包ニハ大小數種アルモ普通高サ約十三四尺下部ハ高サ約四尺中徑ハ家ノ大小ニヨリ七八尺乃至十七八尺ノ圓筒ヲ爲シ此圓筒上ニハ傘形ノ屋蓋ヲ載ス圓筒部ノ骨ハ徑一寸内外ノ柳條ヲ四ツ目ニ編ミシ弧形編條ヲ五個乃至六個連接シタルモノニシテ組立分解共ニ容易ナリ屋蓋ノ骨モ亦柳條ニテ作ラレ其形普通ノ傘骨ニ類シ且ツ自由ニ開閉セラル唯々尖頭部ニ特別ノ框ヲ附スルノミ斯ク組立テラレシ骨形ノ全部ハ羊毛ヲ重ネテ作レル毡子(毛氈)ニテ一重又ハ二重ニ包マレ其墜落又ハ飛散ヲ防ク爲メ駱駝ノ毛ニテ絢ヘル繩ヲ以テ外部ヨリ上下左右ニ捆縛シ尖頭部ニ限リ毡子ヲ遊動シ得ル如クシ必要ニ應シ繩ニテ開閉ス之ヲ開クトキハ光ヲ屋内ニ送り又烟ノ逃出ヲ容易ニスル恰モ我國ノ家屋ニ於ケル引窓ノ如シ小屋ノ入口ハ凡テ南々東ニ面シ高サ三尺五六寸幅二尺五六寸ノ框ヲ附シ之ニ二枚ノ小扉ヲ裝ス又此小扉ニ代ユルニ絨氈製ノ垂幕ヲ以テスルモノアリ或ハ之ヲ併用スルモノアリ烏珠穆沁部及其以北ノ純遊牧地帯ニ於テハ王公ト雖モ猶且ツ此蒙古包ニ住ス唯其異ナル點ハ其形稍々大ナルト家屋ノ頂上ニ赤色ノ絨氈ヲ用ユルノミ

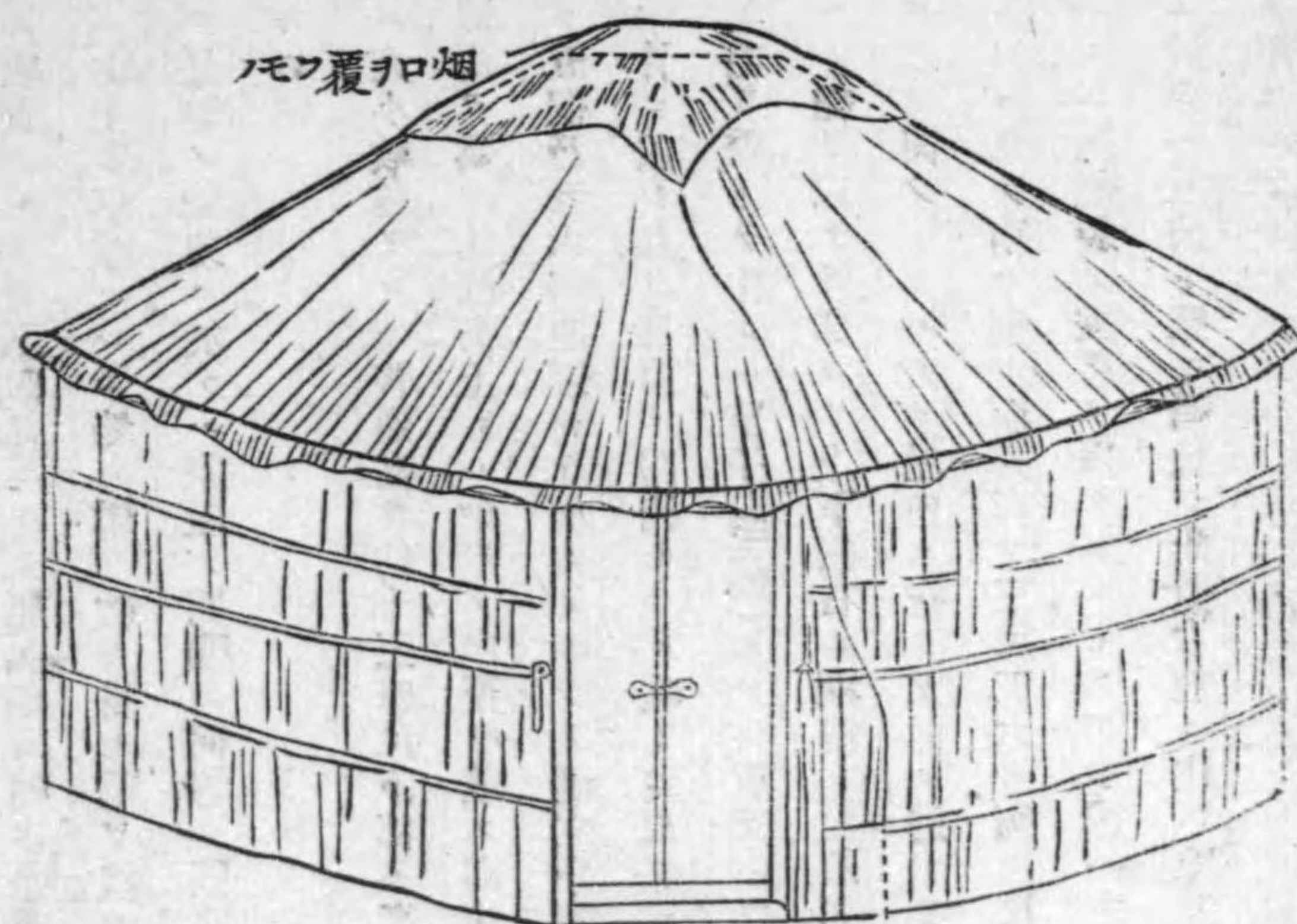
略概之列配具家置裝內包古蒙

第一 東部內蒙古風俗



- イ、佛壇
- ロ、主人ノ寢臺土間ヨリ一段高キヲ常トス中ニハ寢臺ハ稍、意匠ヲ凝セルモノアリ平土間ノモノモアリ
- ハ、木製ノ造酒壺
- ニ、衣類入箱
- ホ、食器置棚
- ヘ、牛乳壺(ハ)ニ似タリ
- チ、(ホ)ノ如キ机ニシテ茶入器搾乳器等ヲ併列ス
- カ、水桶 通常牛乳ノ容器ト兼用若クハ同一ナリ
- リ、空間ナレハ牛又ハ羊ノ幼兒ヲ養フモノ多シ
- ヲ、竈
- ル、牛糞入籠 柳ノ芽ニテ編メルモノ又ハ粗末ナル箱ヲ用ユ
- フ、不潔ナル寢具又衣類ヲ置ク
- ヲ、敷物 貧富ニヨリ不同ナレハ牛皮又ハ羊皮ノ鞆サ、ルモノ又ハ絨氈ヲ用ヒ更ニ其上ニ長方形又ハ方形(二尺位)ノ敷物ヲ置クモノアリ
- カ、土間ナルヲ常トシ敷物トノ接際ニハ木ヲ以テ體裁ヨク境界ヲ作り居レトモ移轉烈シキモノハ是等ノ設備ナシヨ、高五六寸位ノ机又ハ代用木ヲ置ク

圖之包古蒙



蒙古包ノ圓壁部ヲ被フモノハ凡テ屋蓋被覆物ト同シク羊毛ヲ以テ製セル粗絨氈ナリ

巴林、阿爾泰、察哈爾地方ニテハ夏季ニ於テ蓋又ハ小柳ヲ以テ作レルモノヲ用ユ

蒙古包ニ類スル土塊家屋トハ一ニ固定式蒙古包ト云ヒ蒙古包ノ進化シタルモノニシテ其外觀ニ於テ差異ナキモ固定的構造ニシテ其周圍ハ毡子ニ代ユルニ泥土ヲ以テシテ所謂蒙古包ヨリ家屋ニ移ル中間ニシテ要スルニ支那家屋ヲ構築スルニ材料乏シキヲ以テ已ムナク此ノ如キ雜種ノモノトナリタルモノナリ

定住家屋ノ結構ハ皆滿洲式土造若クハ磚造ニシテ唯々其構造ノ一般ニ宏壯ナラサルト室内ニ於ケハ窓牖及坑ノ構成ニ多少ノ相違ヲ見ルノミ而シテ五六戸若クハ十數戸ノ集團スルヲ常トシ三四十戸ヲ算スルモノ少シ

婚姻

五、婚姻

蒙古人ノ婚姻ハ滿漢人ト同様早婚ナリ十六歳以上ノ男子ニシテ有妻ナラサルモノ尠ナシ概シテ婦人ハ男子ヨリ二三歳若クハ四五歳年長ナリ婚姻ハ當事者男女ノ間ニ知ルナク父母ト媒介者ニヨリテ決セラレコト支那本部地方ト異ナラス

娛樂

六、娛樂

蒙古人ノ娛樂トシテ數フヘキモノハ僅ニ角力、唱歌、單一ナル音樂及競馬等アルノミ角力ハ彼等ノ最モ好ム遊戲ノ一ニシテ往古ヨリ之アリ現時北部蒙古殊ニ盛ナリト云フ

社會ノ狀

七、社會ノ狀

蒙古人ノ社會ハ極メテ單純ナリ其階級ハ大別シテ三トナス王族、喇嘛及平民(蒙古人ハ之ヲ黑人ト曰フ)之ナリ

王族ハ元朝ノ後裔若クハ其重臣ノ子孫ニシテ或ハ王公ノ爵ヲ受ケテ各旗ノ酋長以下其數極メテ多ク一旗内ノ人口三萬ヲ有スルモノニシテ王族約三四千ヲ數フルモノアリ即チ全人口十分一以上ヲ占ムル割合ナリ此ノ如キ多數ノ王族ハ其王族タル體面ヲ保持シ者ハサルハ明カニシテ彼等ノ内ニハ單ニ品級ヲ有スル外一物ヲ有セサルモノ多シ

黑人ニハ種々ノ種類アリ古代ニ於テ蒙古人ノ奴隸タリシモノノ子孫アリ或ハ滿漢人ノ土著セルモノアリ其他種々ノ區別アリト雖モ要スルニ王族若クハ喇嘛ヲ除ク外蒙古人ハ凡テ黑人ナリ是等蒙古人ハ政治上ニハ各旗長ノ下ニ隸屬シ精神的ニハ喇嘛ニ支配セラレツツ各自牧畜ヲ事トシテ今日猶ホ太古ノ風ヲ存シ簡易ナル社會的生活ヲ營ミツツアリ

東部内蒙古ニ於ケル教育並ニ宗教

第二 東部内蒙古ニ於ケル教育並ニ宗教

一、教育

支那ハ古來孔孟ノ教ヲ奉シテ讀書ヲ尊ヒ僻陬ノ村莊ニ至ル迄不完全ナカラ書房(寺小屋)ノ制アリテ教育機關ノ存在セルヲ認ムルモ蒙古ニ至テハ然ラス人民ハ水草ヲ追フテ移住スルヲ以テ殆ント教育的設

第二 東部内蒙古ニ於ケル教育並ニ宗教

備ヲ見ス只各旗ノ王府ニ旗内官吏ノ子弟ヲ教育センカ爲メ教師ヲ聘シ文字ヲ教ユルモノアルト旗内官吏ニテ自ラ教師ヲ撰ヒテ子弟ヲ教育スルアルノミ其目的ハ後來王府内ニ勤務シテ旗務ヲ掌ラシメンカ爲メニシテ一種ノ官吏養成法タリ

是等ノ子弟ハ八九歳ノ頃ヨリ入學シ初メハ五六ヶ月間單ニ蒙古ノ字母ヲ教ヘ次ニ日常觸接スル事物ノ名詞其他單語ヲ教授スルコト半歲而シテ字母ヲ諳ンシ多少ノ詞ヲ習得シタル後ハ公文書ヲ讀習セシメ傍ラ古英雄ニ關スル歌謠俚諺等ヲ教ヘ又時トシテ滿洲語ヲ教授スル所アルモ光緒以來著シク衰退シツツアリ元朝以後支那歷代ノ蒙古ニ對スル政策ハ成ルヘク蒙古人ノ智能ヲ開發セサルニ力メ殊ニ清初以來猥リニ蒙文ニ譯スルコトヲ禁シタルヲ以テ蒙古語ニテ記サレタル書籍極メテ少シ從テ蒙古人ノ認字比例ハ極メテ僅少ニシテ人口三百人ニ對シテ一人ヲ算スレハ則チ以テ教育ノ進歩ヲ誇ルニ足ルトナス而シテ蒙古ニ於テ比較的の文字ニ縁アル喇嘛ト雖モ其無學驚クヘキモノニシテ彼等ハ日々數回ノ讀經ハ西藏文ナルカ故ニ大多數西藏文ヲ知ルモ却テ蒙古文ヲ解セサルモノ多ク漢字ヲ知ルモノニ至ツテハ更ニ稀ナリ

以上ノ如ク蒙古人ハ概シク無學文盲ナルモ近來有力者間ニ教育ノ必要ヲ感知スルモノ漸次多キヲ加フルニ至レリ彼等ハ謂ヘラク漢人ノ日ニ月ニ移殖シテ之カ爲メ蒙古人カ其利益ヲ壟斷セラルル事實ハ蒙古人ノ無識ニ由ルコト多シトシ王府ニ支那書房の學堂ノ設立ヲ計畫スルモノ日ニ多シ然レトモ其普及

ニ至ルハ前途遠遠ト云ハサルヘカラス
然レトモ東部内蒙古特ニ興安嶺ノ東部ニ屬スルモノハ近時開墾地ノ擴張ト共ニ移住漢民ト接スルコト多ク從テ漸次漢語ヲ解スルモノノ數ヲ増シ稀ニハ漢字ニ通スルモノアリ南方遼河以南ニ住スル各旗民ハ殆ント滿漢人ト選フナキ程度ニ達シアル所ナキアラズ今左ニ東部内蒙古ニ於テ漢語ヲ解スル蒙古人ノ居住地方ヲ掲ク

- 喀喇沁全部 土默特全部 翁牛特過半 敖漢奈曼ノ過半 喀爾喀左翼 錫呼圖輝倫 喇嘛旗過半
- 郭爾羅斯三分ノ一 杜爾伯特、札賚特三分ノ一
- 科爾沁東南部ハ全部ノ四分ノ一ニシテ札魯特、阿爾科爾沁ニハ漢語ヲ解スルモノ殆ントナシ

宗教

二、宗教

蒙古ニ行ハルル宗教ハ喇嘛教、回教、基督教ノ三種ナルモ回教ハ主トシテ西部蒙古ニ行ハレ基督教ハ漢蒙邊境ノ地ニ於テ極メテ少數ノ間ニ信奉セラルルニ過キス而シテ其最モ勢力アルモノハ喇嘛教ナリ喇嘛教ニ對スル蒙古人ノ信念ハ頗ル強烈ニシテ冠婚、葬祭、吉凶、禍福等一ニ喇嘛教ノ關セサルハナク喇嘛ノ有德者ニ對シテハ之ヲ仰クコト神ノ如ク宗教以外活佛以外ニ於テハ帝王ノ權力ヲモ認メサルコトアリ之レ往古世界ノ大半ヲ震撼セシメタル彼ノ殘忍猛烈ナル性質ヲ化シ溫和猫ノ如キ今日ノ人民ヲ生セシメタル所以ニシテ又以テ如何ニ喇嘛教カ彼等ニ對シ深遠ナル感化力ヲ與ヘタルカヲ知ル

ニ足ラン

蒙古人中ニハ往々喇嘛教以外一種巫者ノ如キモノノ信仰セララルアリテ所謂薩滿ナルモノニシテ元來
佛教ノ一派ナリト稱スルモ今日ニ於テハ著シク變化シ病氣ヲ祈禱シ及魔鬼ニ附シテ奇怪ナル託宣ヲ與
フル等純然タル巫者ニ異ナラス

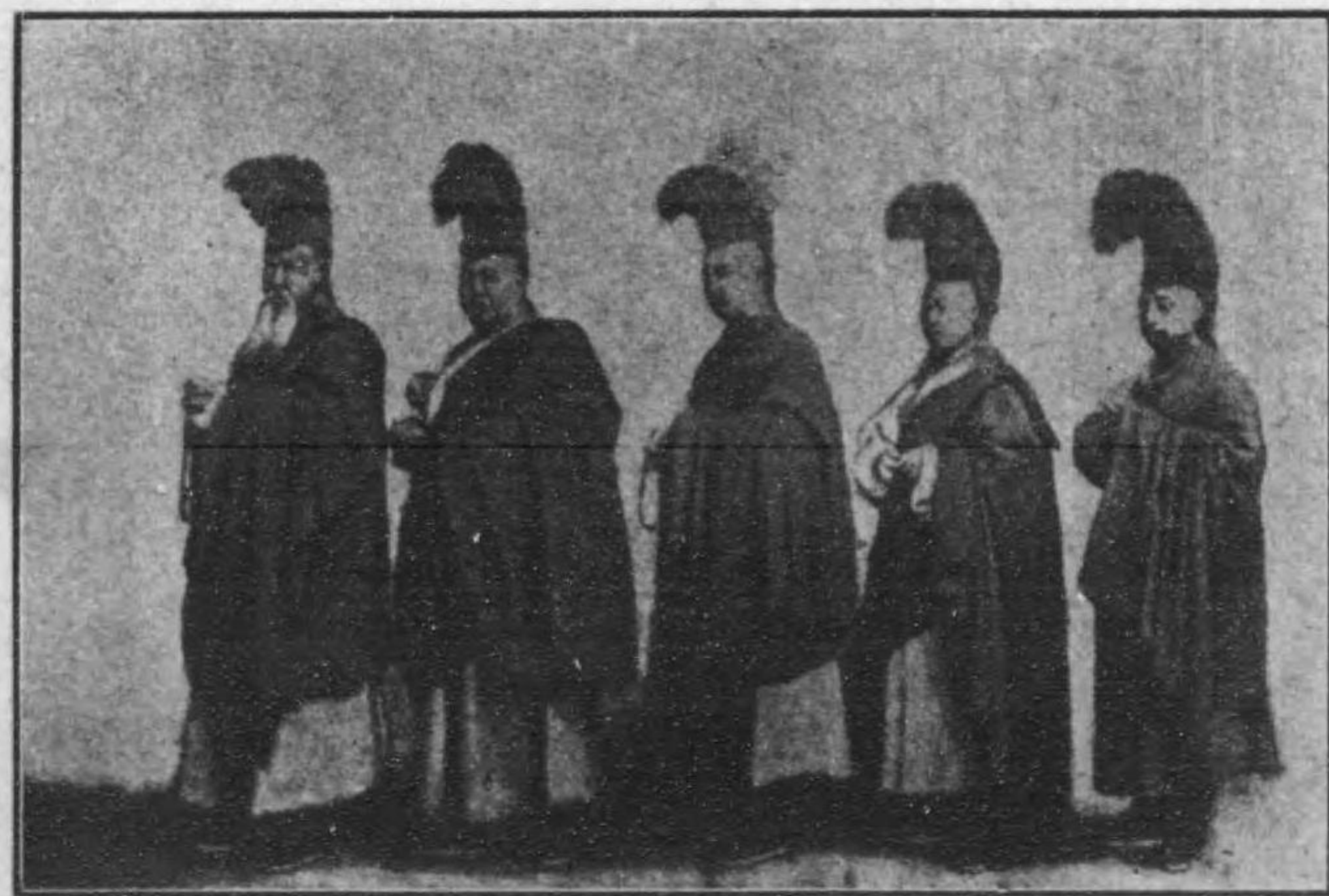
今少シク喇嘛教ニ就テ述ヘン喇嘛教ハ佛教ノ一派ナリ其喇嘛教ト稱スルニ至リシテ西曆六百四十年ノ
頃(唐太宗時代)ニシテ西曆千七百年代鄂爾多斯^{オルドス}蒙古人西藏ニ侵入シ凱旋ト共ニ若干ノ喇嘛ヲ得テ歸ル
ヤ之ヲ尊信スルコト甚タシク征服者タル鄂爾多斯人ハ是等喇嘛ノ爲メニ精神的ニ征服セラレテ改宗シ
熱心ナル喇嘛信者トナリ次ニ此信仰ハ諸方ニ傳播シ爾來永ク蒙古人ノ精神界ヲ支配セリ

清朝ノ起ルヤ外藩懷柔ニ意ヲ注キ就中西藏及蒙古ニハ最モ力ヲ盡シ其宗教ノ勢力ヲ利用シ巧ミニ之ヲ
保護シテ以テ一方漢人ヲ征服シ他方蒙古人ヲ籠絡スルノ便ニ供シタリ

現今喇嘛教ノ布教範圍ハ蒙古一帶及西藏ニシテ其寺院ノ最大ナルモノハ西藏ニアリ之ニ次クモノハ噶
倫ニシテ其小ナルモノニ至リテハ蒙古各地往ク處トシテ見サルナク稍、大ナル部落ニ於テハ必ス之ア
リ其建築ハ西藏式ナルアリ支那式ナルアリ或ハ蒙古風ノ天幕式ナルアリテ一様ナラサルモ概ネ莊嚴宏
偉ニシテ蒙古人カ住居ノ矮小ナルト比較シ來ラハ頗ル奇異ノ觀ナキ能ハス喇嘛教ノ教旨ハ佛教ノ真隨
タル苦ヲ脱シテ佛ノ本體ニ歸セシムルニアリテ貪、瞋、痴、慢、疑等ノ惡行ヲ慎ミ忠孝、信義、禮智ノ善行



大喇嘛



喇嘛ノ正裝

ヲ向上セシメ忍耐、苦行シテ俗界ヲ脱シ未來ノ受樂ヲ理想トシ巡禮、祈禱、喜捨、念拂ヲ以テ罪業ヲ贖ヒ幸福ヲ求ムルヲ最上ノ道トナシ汎ク因果ノ理ヲ教ヘ靈魂ハ不滅ニシテ輪廻轉生アルコトヲ説クニ在リ喇嘛トハ僧侶ノ通稱ニシテ蒙古ニ於テハ「ラーマ」若クハ「ラマドム」ト云フ種々ノ階級アレトモ單ニ喇嘛トハ喇嘛教ノ僧侶ニシテ寺院ニ在テ佛ニ奉仕シ民人ノ葬祭冠婚等凡テ人世ノ儀禮ニ與カルモノナリ

第三 蒙古王公ノ一般財政狀態

蒙古王公
ノ一般財
政狀態

蒙古王公ノ管理スル各旗ノ財政ハ之ニ關スル特別ノ機關アルコトナク殆ント全ク王公一家ノ私經濟ニシテ收支決算ノ如キモ何等書類ノ據ルヘキナク王公自身ト雖モ其明確ナル實數ヲ知ラサルノ狀態ニ在リ故ニ精細ニ至ツテハ知ルニ由ナシト雖モ今左ニ其梗概ヲ記サン

一、收入

王公ノ收入ハ其領域及開放地ノ廣狹、封爵ノ大小、高下、旗下人民ノ貧富等ニ依リテ異同アリト雖モ概ネ左ノ數種ヨリ成ル

イ、開放地ノ滿漢民ヨリ徵收スル地租

邊境ニ連接セル各部ハ其旗内ニ滿漢移民ノ居住開墾スルモノ多ク是等開墾地ヨリ地租ヲ徵收ス其額實圖ノ二萬餘元ヲ最少トシ札薩克圖ノ二十九萬餘元ヲ最多トス之レ實ニ此地方王公ノ重ナル財源ニシテ

開放地ノ面積ト王府收入トナルヘキ租率(一响ニ付三十錢)トヲ相乘シタルモノニシテ頗ル多額ニ上ルヘキ理ナルモ其實際ハ事ニ托シテ完納セサルモノ多ク而モ王公ハ是等ニ對シテ行政及司法權ナキヲ以テ如何トモシ難キ状態ニ在リ

ロ、支那政府ヨリ支給セララル俸祿

封爵ノ高下大小ニ依リ年俸少キハ五百兩ヨリ多キハ二千五百兩ニ至ル其他幣ト稱シテ緞綢即チ絹織物ヲ給與セララル亦各差等アリ

ハ、其他ノ收入

以上ノ外王公ノ私有ニ屬スル家畜及王公自家ノ爲メニ小作人ヲシテ耕作セシメアル土地ヨリ得ル若干ノ雜穀並ニ草刈稅、炭燒稅等少額ノ雜租アリ而シテ大清會典ノ規定ニ依ル旗民ニ對スル牛羊等ノ賦課ハ王公財政ノ貧富ニ依リ徵收スルモノト否ラサルモノトアリ然レトモ冠婚葬祭其他ノ出來事ニ際シテハ臨時賦課スルコトアリテ人民モ亦之ヲ拒マズ

二、支出

王公ノ支出ノ主ナルモノハ王公自身ノ用途タル生活費、旗内自衛ノ爲メノ軍費、喇嘛廟ヘノ寄進支那官吏ノ應酬等トス

前述ノ如ク其收支計算ハ漠然トシテ把握シ難キモ王公ノ財政日ニ月ニ窮乏ヲ告ケツツアルハ疑フヘ

カラサル事實ナリ而シテ其原因ヲ討ヌルニ地租ノ收入完然ナラサルト王公ノ驕奢トニ歸因スルカ如シ王公ノ驕奢ハ即チ支那政府ノ對蒙政策ノ成效ニシテ之ヲ具體的ニ説明スレハ支那政府ハ蒙古王公ノ入京ヲ機トシテ大宰ノ美味ヲ饗シ狹斜ノ花ヲ折ラシムル等諸種ノ手段ヲ講シテ彼等ヲ誘惑ス荒漠タル平野ノ間ニ生活シ家畜ノ外何等ノ樂ミヲモ有セサル王公ノ都門ノ繁華ニ眩暈シ其誘惑ニ陥ルハ又止ムヲ得サル人情ナリ斯ノ如クシテ入京屢ナルニ及ンテハ益、惑溺シテ遂ニ其收入ノ大部分ヲ此間ニ消費シ漸次負債ヲ加フルニ至ル茲ニ於テ支那官憲ハ負債償還ノ手段トシテ蒙地ノ開放ヲ迫リ王公モ亦止ムヲ得ヌシテ之ニ從フ最近ニ於ケル蒙地開放ノ手段悉ク之ニ依ラサルハナシ目下實施中ナル孔家窩棚(鄭家屯ト白音他拉トノ間)附近ノ拂下ケモ達賴罕王ノ財政難ニ原因ス獨リ達賴罕ノミナラス各王公共ニ已ニ北京榮華ノ味ヲ知レル爲メ王府ニ於ケル生活程度ノ如キモ漸次向上シツツアルニ拘ラス其財產ハ却テ減少スルノ有様ナレハ財政ノ困難益、増加スヘク從テ蒙地開放ノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ實ニ支那農民ニ土地蠶食ノ機會ヲ與ヘタルモノト謂フヘシ

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況 (前號ノ續)

一、白音他拉(通遼鎮)

其一、一般ノ狀況

東部內蒙古主要都市ノ狀況
白音他拉

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況

イ、位置及沿革

白音他拉ハ鄭家屯ノ西方約二百四十支里開魯ノ東方約百五十支里ニ在リ西遼河河孟ノ一畔千里肥沃ノ曠野ニ新設セラレタル一市街ニシテ民國元年八月卓哩克圖親王所有ノ土地ヲ拂下ケ設立シタルモノナリ元來白音他拉ハ小街基ノ地名ニシテ支那人ハ其西方約六百米ノ地ニ大街基ト稱スル市街ヲ建設シ之ヲ通遼鎮ト呼ヘリ(市街圖參照)

ロ、戸口

大正四年六月ニ於ケル戸數四百三十、人口二千三百アリ猶非常ナル速度ヲ以テ増加シツツアリ

ハ、市街ノ狀況及官公街

此地ハ設置日猶ホ淺キモ非常ノ勢ヲ以テ發展シツツアリ而シテ此發展ハ専ラ大街基ニシテ日々家屋ノ増築セラレ居ルモ小街基ハ之ニ反シ逐次衰退ノ狀況ニ在リ主ナル建築物ハ歩兵第七營、警察分署、捐稅局等ナリ

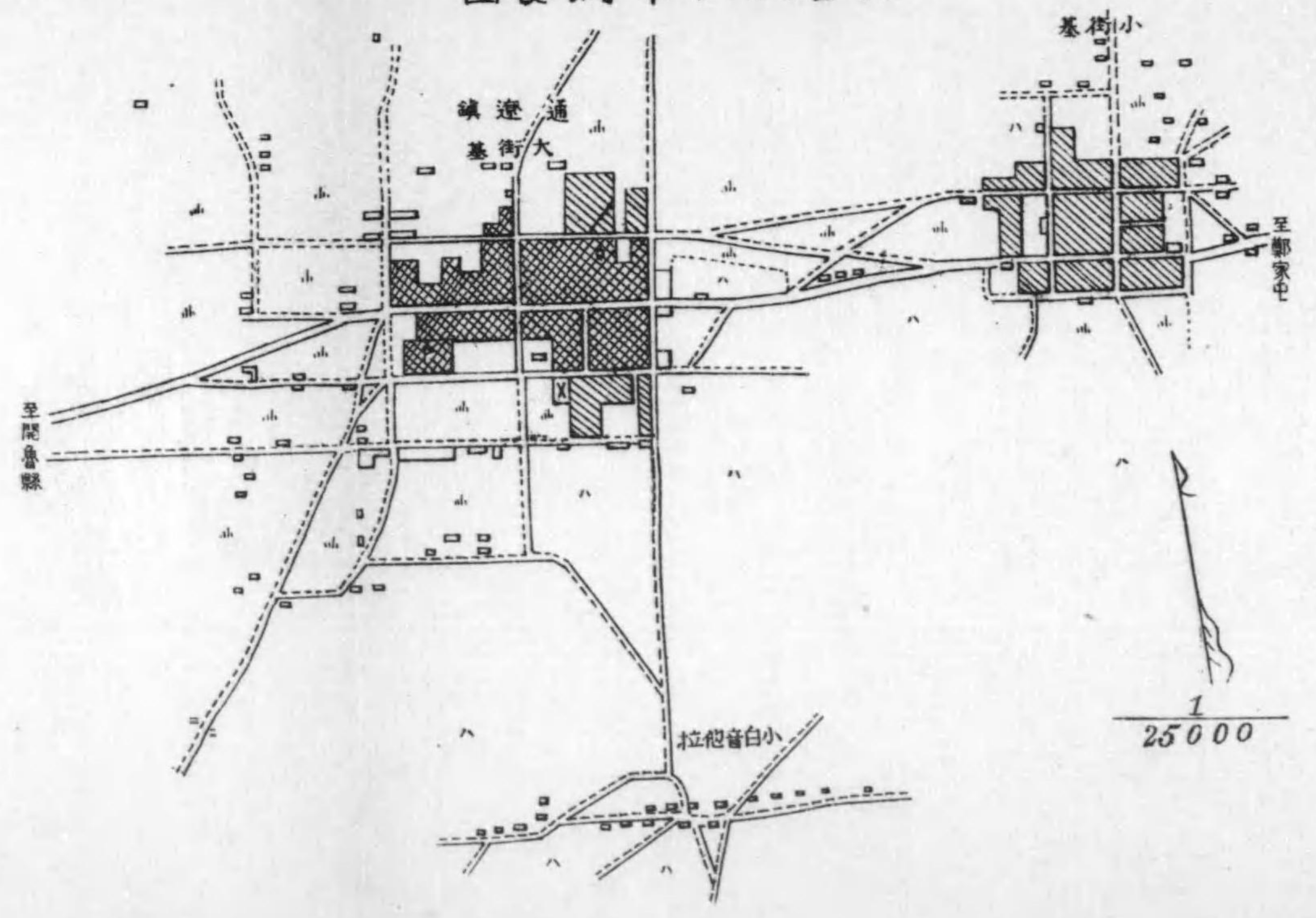
其二、商業

開市日猶ホ淺キモ市況甚タ活氣ヲ有ス

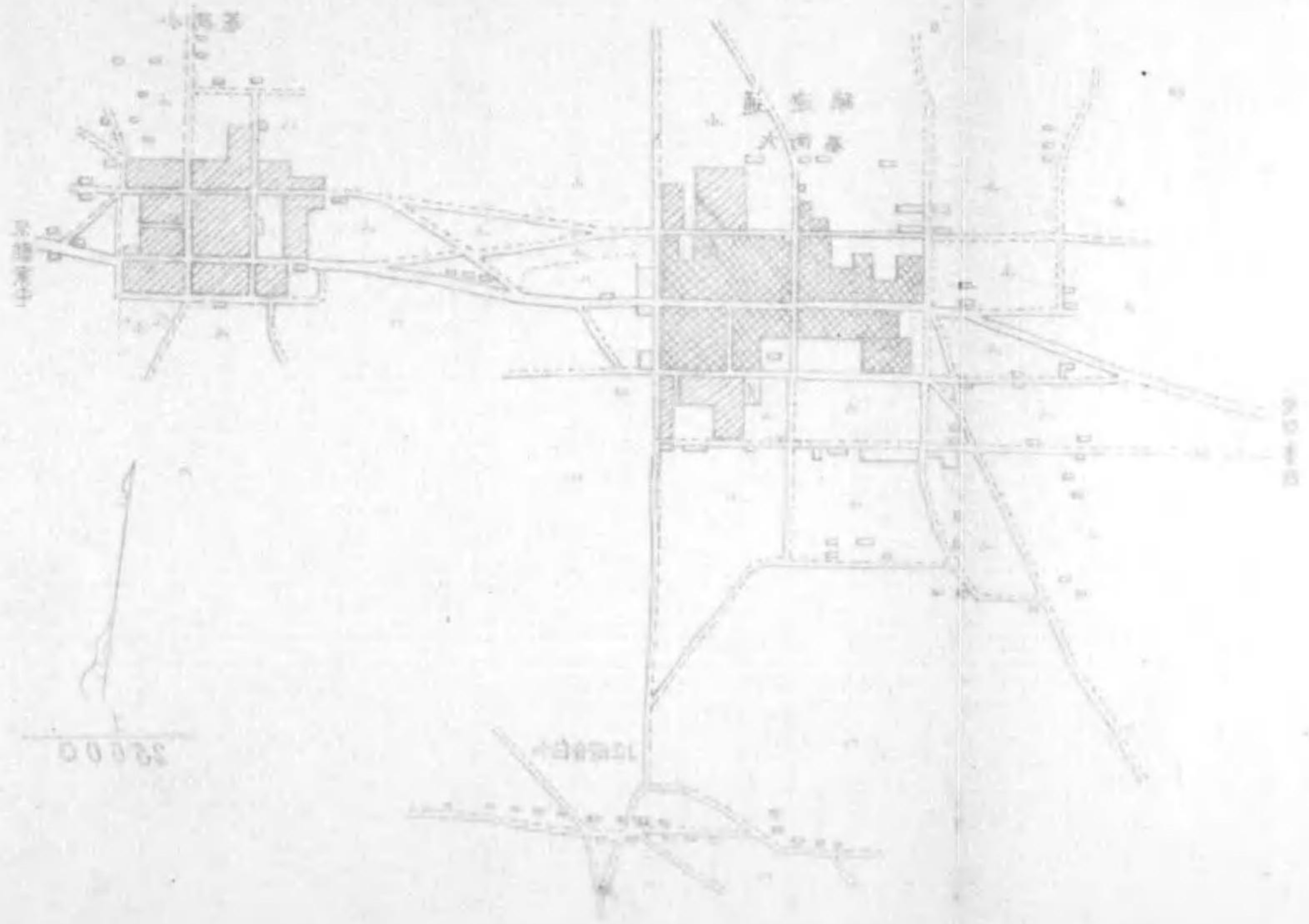
イ、商店

現在商店ハ約百五十戸ニシテ宏大ナルモノ四十之ニ次クモノ六十、小ナルモノ五十餘アリ

白音他拉市街要圖



白音其市街圖



ロ、商業状態

當市ハ商業上幾何ノ價值アルヤヲ判断スヘキ取引高其他ハ未タ數字ノ徵スヘキモノヲ得メ
取引ハ總テ蒙古人相手ナルヲ以テ貨物ハ彼等日用品及嗜好品即チ木綿布、小麥粉、油類(食用)燒酎、茶、
雜穀、葉煙草等ニシテ贅澤品ハ未タ少シ
蒙古人ト直接物々交換ヲナス主品ハ牛、馬、羊毛、皮類、木材トス
蒙古人需用品中日本産ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
各種布類(日本製木綿ノ賣行最モ多シ)、白葡萄、鐘詰、手帳(長四寸、幅二寸)、狀袋、赤白砂糖、クラブ齒磨
粉、石鹼

但シ普通支那市街ニ最モ大阪路ヲ有スル我系類及裝飾品雜貨ノ賣行ハ現在甚タ少シ是レ蒙古人ノ購買
力尙ホ甚タ幼稚ナルノ證ナリ又現在糧食品ノ大部ハ鄭家屯ヨリ輸入セラルルモ土地肥沃ナルヲ以テ今
後兩三年ヲ經過シ開墾發達セハ其需用ニ應シ尙ホ餘リアルニ至ルヘキハ明ナリ

其三、將來發展ニ關スル意見

當市ノ將來如何ニ有望ナルヘキカハ開設後一ケ年ヲ經過セサルニ既ニ戶數二百、人口一千五百ニ達シ其
後ノ一年即チ現今ニ於テハ更ニ前記ノ如キ數ニ増加セルノ狀況ヲ以テ推知スヘキナリ要スルニ白音他
拉ノ發展ハ期シテ待ツヘク其發展ト共ニ將來東部內蒙古ニ於ケル般盛ナル貿易市場トナルニ至ルヘシ

二、開魯

其一、一般ノ狀況

イ、位置及沿

開魯ハ札魯特旗ノ南隅ニ位シ鄭家屯ノ西方約六十邦里ヲ隔テ內蒙古進入ノ要路ニ當ル光緒三十四年開墾置縣セラレタルモノナリ

ロ、戶口

戶數約二百五十、人口千五百ニシテ內商戶過半數ヲ占ム

ハ、主ナル官公衙

縣衙門、郵便及電信局等アリ

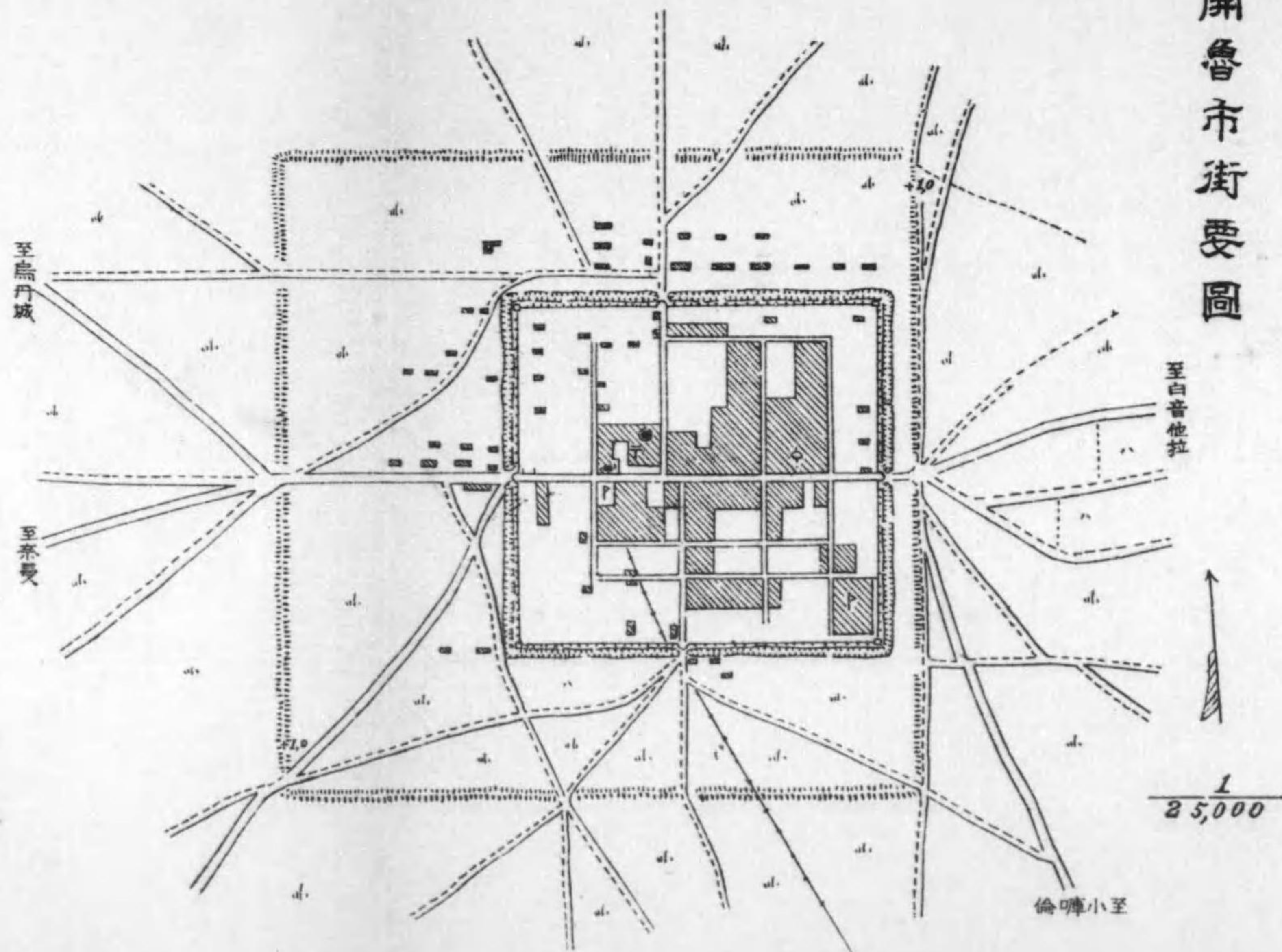
其二、商業

イ、物資集散狀況

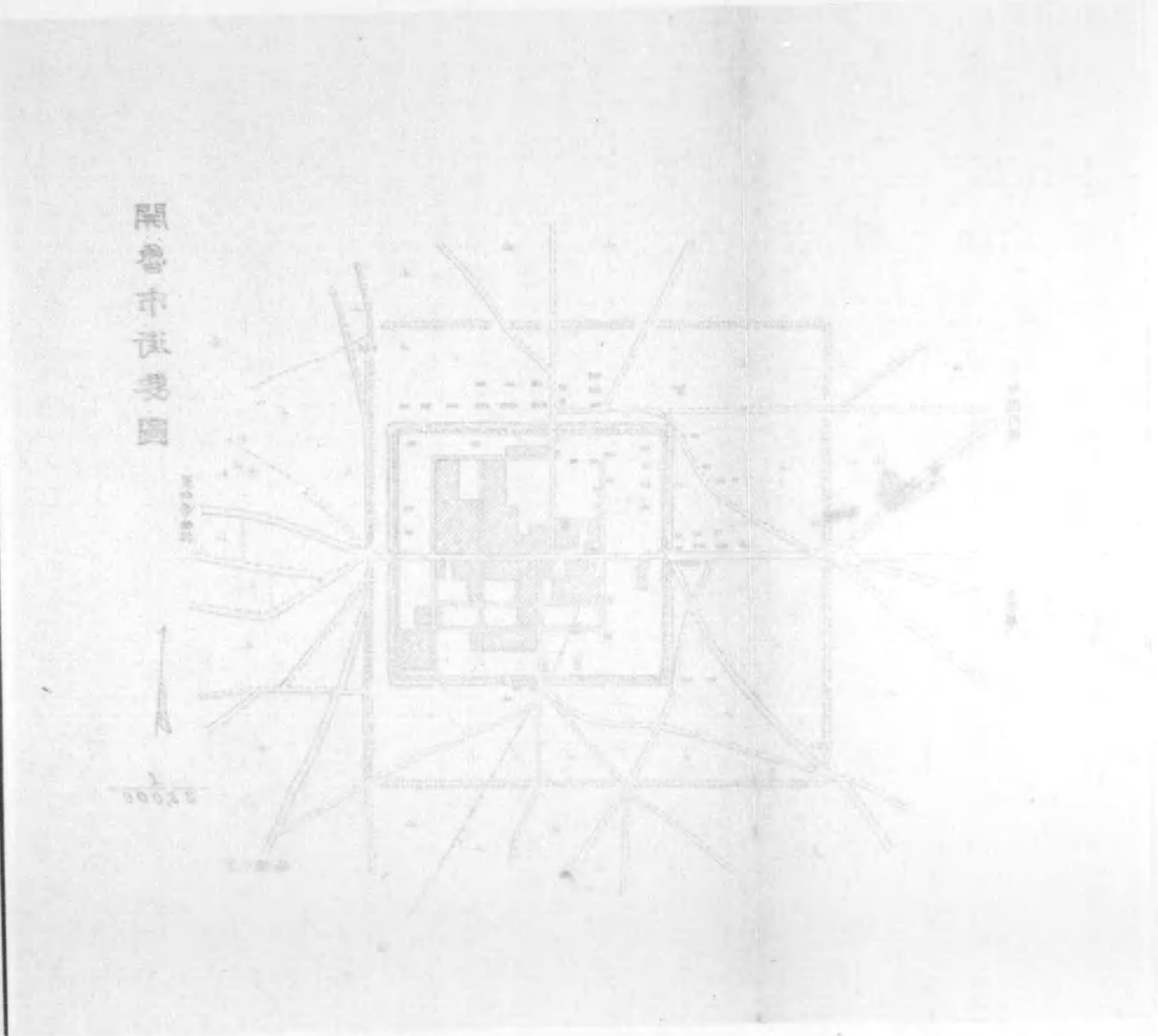
當地方ノ特產物ハ雜穀、瓜子、曹達、魚類(達里岡泡子ヨリ來ル)等ニシテ雜穀ハ主トシテ附近ニ於テ消費セラル

輸入品中綿布、雜貨、燒酎ハ主トシテ營口及小嘩倫ヨリ來リ穀類及綿布ハ鄭家屯、赤峰、林西等ヨリ來ルモノトス

開魯市街要圖



開魯市街道圖



輸出品中主ナルモノハ瓜子、曹達、牛、馬、羊皮ニシテ其輸出先ハ主トシテ鄭家屯、小暉倫、營口等トス
蒙古地方ヨリ輸入セラルルモノハ食鹽、牛、馬、羊皮、羊毛等ニシテ同地方ニ輸出スルモノ焼酎、炒米
ナリ

ロ、主要商店數

大雜貨三十戸、大店一、湯屋一、木舗二トス

其三 工業

當地主ナル工業ハ酒造、曹達製造等トス

其四、將來發展ニ關スル意見

當地ハ附近ノ開墾ニ伴ヒ繁盛ニ赴クヘキコト明ナルモ目下交通不便ナルヲ以テ若シ鐵道ヲ敷設シ交通
ヲ便ニセンカ將來蒙古市場トシテ重要視スヘキ有望ナルモノナルヘシ

三、平泉

其一、一般ノ狀況

イ、位置及沿革

平泉ハ舊八溝廳ノ地ニシテ承德ヲ距ル百四十支里(十五邦里)ニ位シ赤峰—遵化縣街道及朝陽—建昌—
承德街道ノ交叉點ニ於ケル要衝ノ地ニ當ルヲ以テ商賈稍盛ニ街衢大ナラサルモ南北中ノ三街ヲ有セ

ル一都會ナリ

ロ、戸口

戸數約二千 人口約一萬五千餘アリ

其二、物資集散狀況

イ、主要物資

當地ノ特産物ハ薪炭及穀類トス

冬期一日ノ入市高左ノ如シ

薪 三、四萬捆(一捆八十斤)

木炭 四、五萬斤

穀類(粟ヲ主トシ高粱、大豆之ニ次ク)

二、三十石

冬期中ニ存在スル額左ノ如シ

高粱 一萬石 粟 一萬五千石

ロ、輸出入

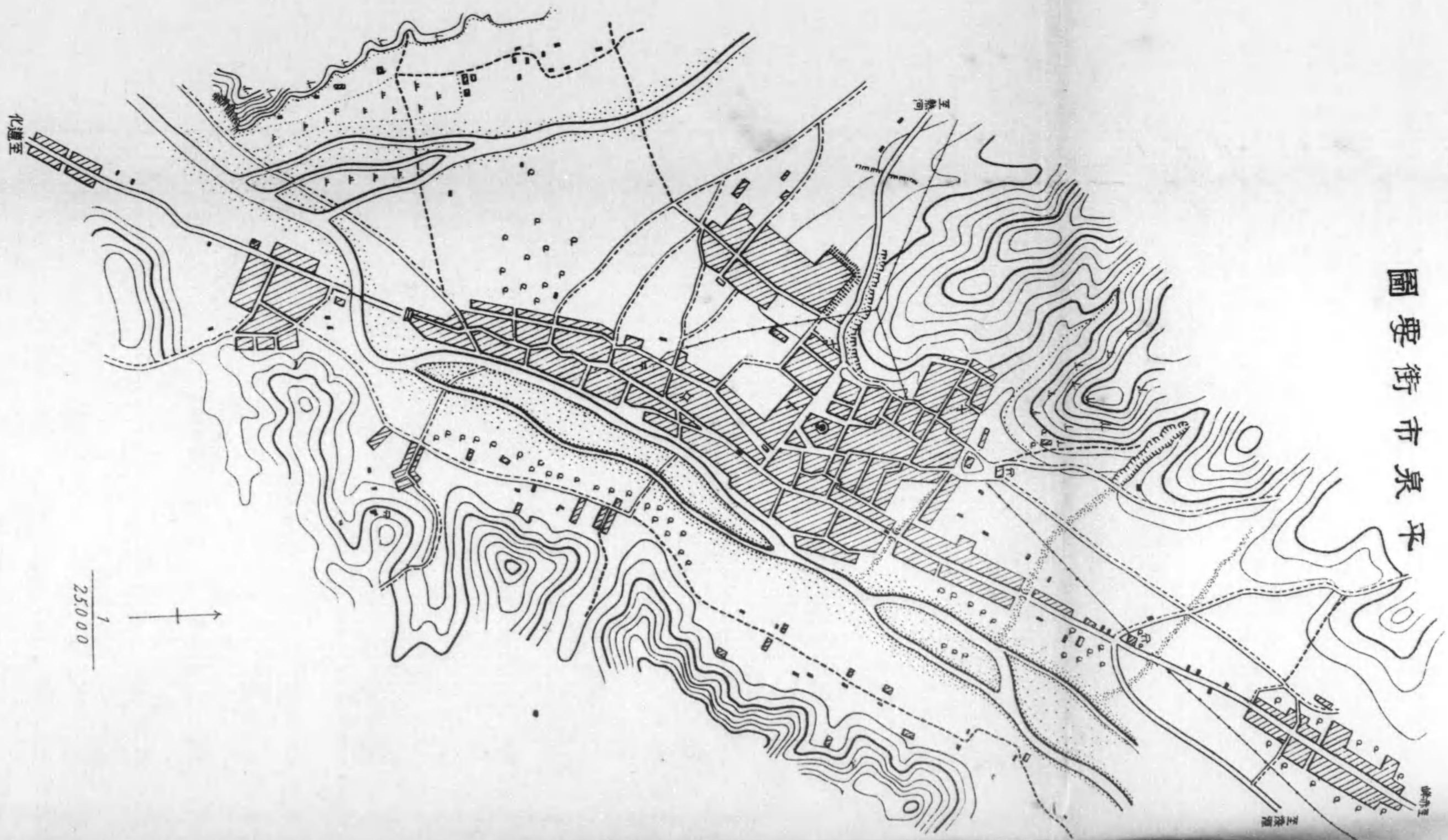
當市ヨリ輸出ノ主ナルモノハ穀類ニシテ輸出先ハ多ク濼州ニシテ濼河ノ水運ニヨリ搬出セラル

又杏仁、藍靛、煙草等ヲ産シ是等ハ多ク南方喜峯口方面ニ輸出セラル其輸出貨物年額約十五萬圓ナリ

輸入品、山東大布、粗布、洋貨、磁器、煤油等ハ喜峯口、濼州方面ヨリ雜貨、茶、鹽、砂糖ハ錦州方面ヨ



平泉市街要圖





リ京貨、雜貨、ハ熱河方面ヨリ來ル
輸入品ノ年額モ亦約十五萬圓ナリ而シテ當地ニ於ケル輸入外國品ハ年々増加ノ傾向アリト云フ

其三、商業

イ、商業範圍

東、朝陽、建昌、錦州ニ、西、熱河、古北口ニ、北、赤峯、瓦房、西橋、巴里罕、西公爺府ニ、南、寬城、喜峰口ヲ經テ長城內ニ又西南、下板城ヨリ水路ニ依リ灤州ヲ經テ北京、天津ニ到ル

ロ、商店

平泉商務會アリテ其加入商家數約四百戸アリ其內主ナルモノ左ノ如シ

客店七、糧店二七、當舖四、燒鍋八、皮店八

其四、工業

當地工業ノ主ナルモノハ燒酎製造、八溝製鹽及製革トス

其五、交通

物資運搬ノ爲ニハ灤河水運ヲ利用シ又駱駝及騾ヲ用フ

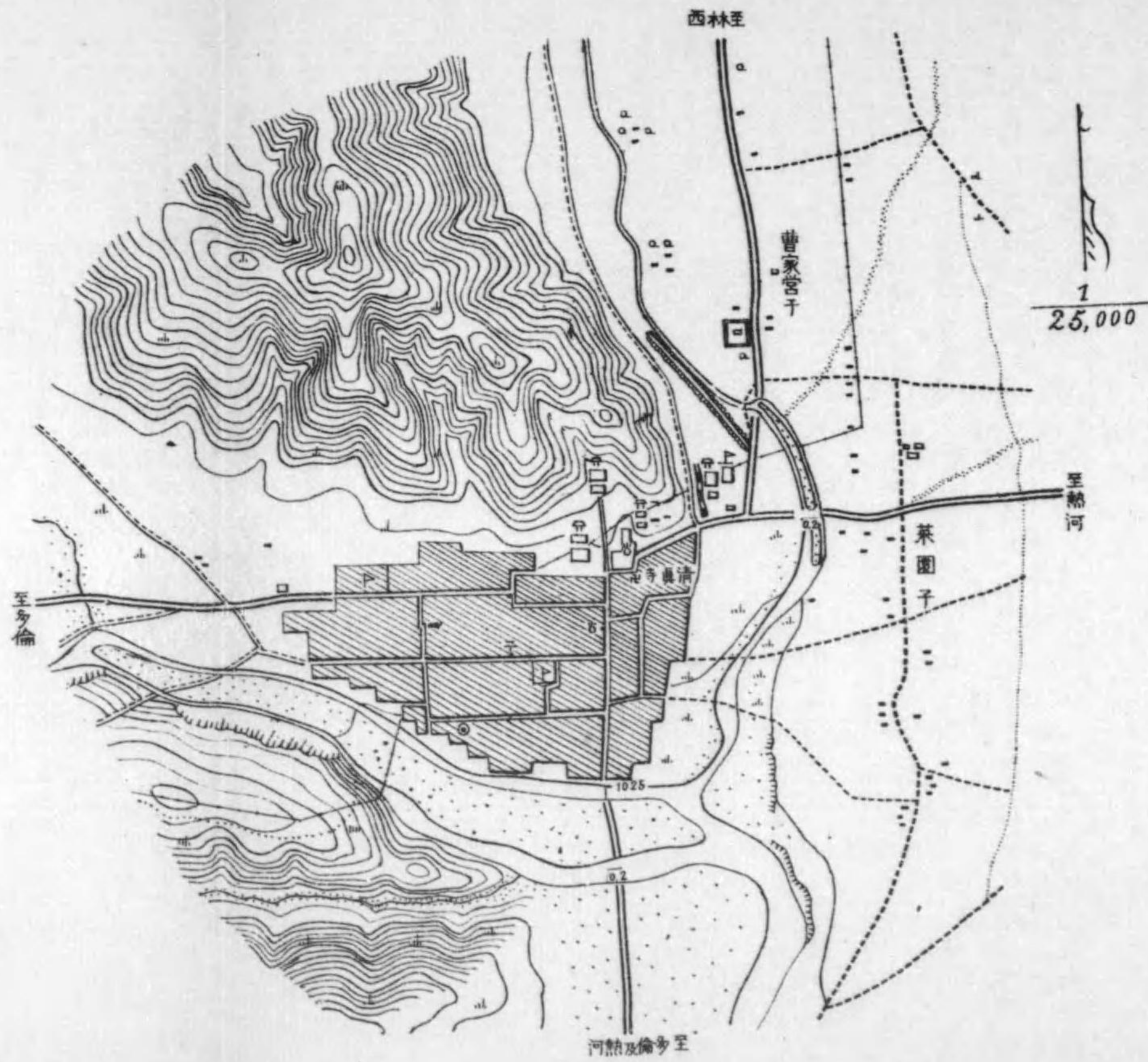
四、經 棚

其一、一般ノ狀況

經棚

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況

經棚市街要圖



イ、位置及沿革

經棚ハ多倫諾爾ノ東北約四十邦里ニ位置スル東部內蒙古西北部ニ在ル重要市街ナリ此地康熙年間頃ハ蒙古ノ一小市場ナリシモ嘉慶年間ニ至リ人民増加シ道光年後ニ至リ大ニ隆盛ヲ極メ現今ニ於テハ内外蒙古物資ノ一大集散地トナルニ至レリ

ロ、戸口

戸數四百五十、人口約二千八百ニシテ商戸約二百五十ヲ算ス

ハ、官公衙

鎮守使衙門、張統領部、兵營、清鄉局、縣衙門商務會等アリ

其二、物資集散狀況

イ、集散範圍

農産物ノ約十分ノ六ハ附近蒙古及管内ニ於テ消費セラレ残り四分ハ赤峰多倫諾爾ニ輸出ス
當地ニ來集スル雜貨ハ赤峰、多倫諾爾、寧豐等ヨリ家畜、羊毛、皮革及鹽ハ蒙古各地ヨリ來集ス

ロ、産額

縣内産額左ノ如シ

農産

歸附市街要圖



燕麥十五萬石、小麥十萬石、豌豆二萬石、粟一萬石、馬鈴薯多量

畜產

馬約二萬頭、牛十五、六萬頭、驢二、三千頭、駱駝五千頭、騾二、三百頭、鷄約十萬羽、豚四五萬頭

蒙古遊牧地ヨリ當市ニ來集スルモノ

牛約二千頭、羊約二萬頭、馬約四千頭、駱駝一千頭、羊毛三、四十萬斤、羊皮四千張、羊絨駝毛約六萬斤、タプスノール産鹽年額約百五、六十萬斤(?)

其三、商業

イ、主要商店數

雜貨店十五(内ハ磨房ヲ併業ス)、鐵匠爐(鍛冶屋)一、當舖一、毡舖(絨緞商)二、靴舖洋行一、當地商人ハ直隸、山西兩省人最モ多シ

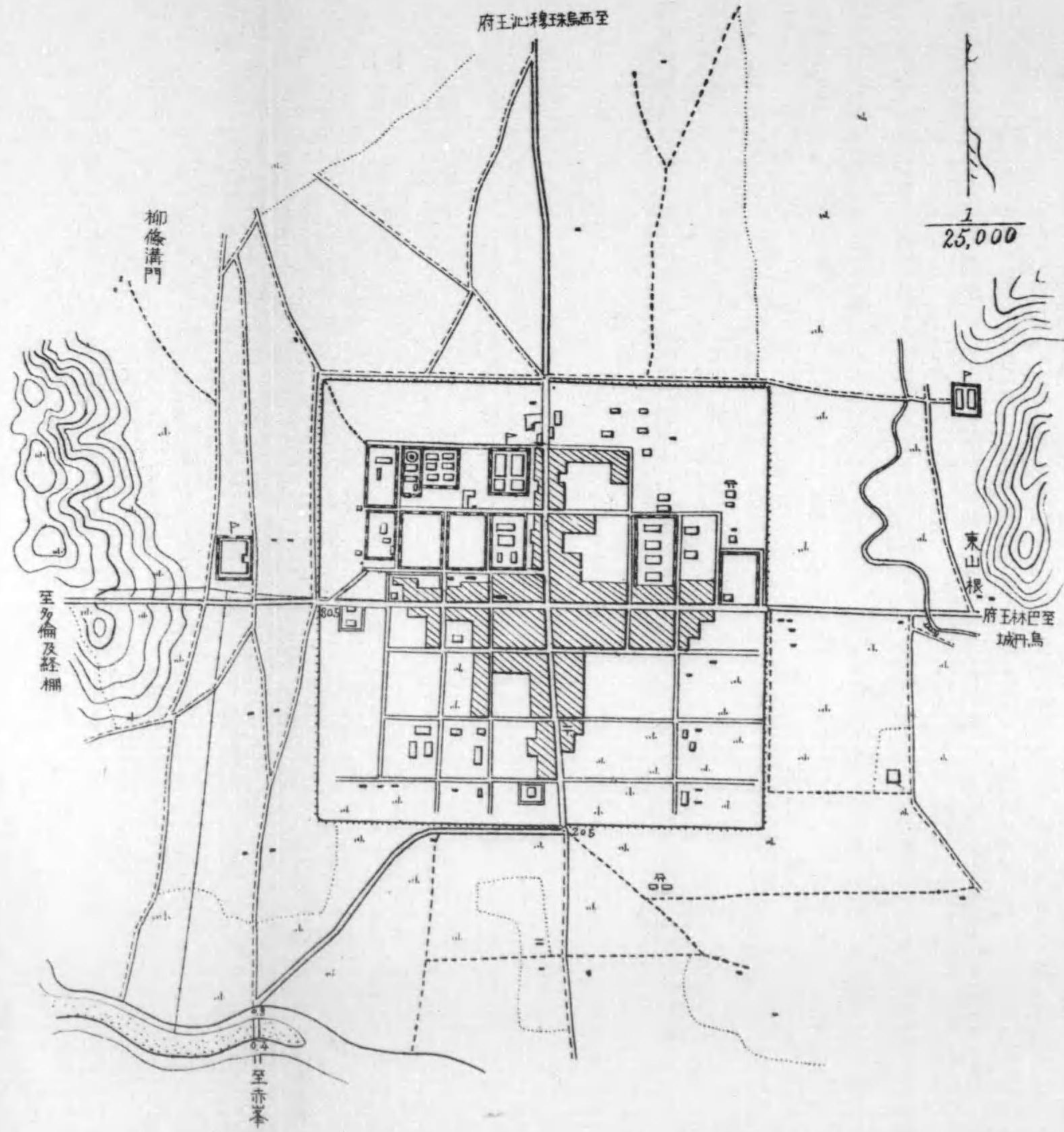
ロ、商況

當地ハ資本家少ナキニ拘ハラズ割合ニ廣ク商業ヲ營ミ來リシモ光緒三十二年當地西北方約八百支里外蒙古車臣汗ニ馬賊起リ當地ニ在ル支店ノ多クハ之カ爲ニ多大ノ現銀ヲ強奪セラレ其餘弊未タ恢復セサル狀況ナリト云フ

其四、工業

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況

林西市街要圖



工業トシテ未タ特ニ記スヘキモノナシ

其六、交通

交通機關トシテ主ニ牛馬車ヲ用キ其他駱駝及騾驢ヲ用フ

五、林西

其一、一般ノ狀況

イ、位置及沿革

林西ハ赤峰ヲ距ル北々西約三百支里(約四十五邦里)ニ位スル一部落ニシテ光緒三十三年置縣セラレタルモノナリ

ロ、戸口

戸數約千二百ニシテ商戸ハ其約半數ヲ占メ人口約六千ヲ算ス

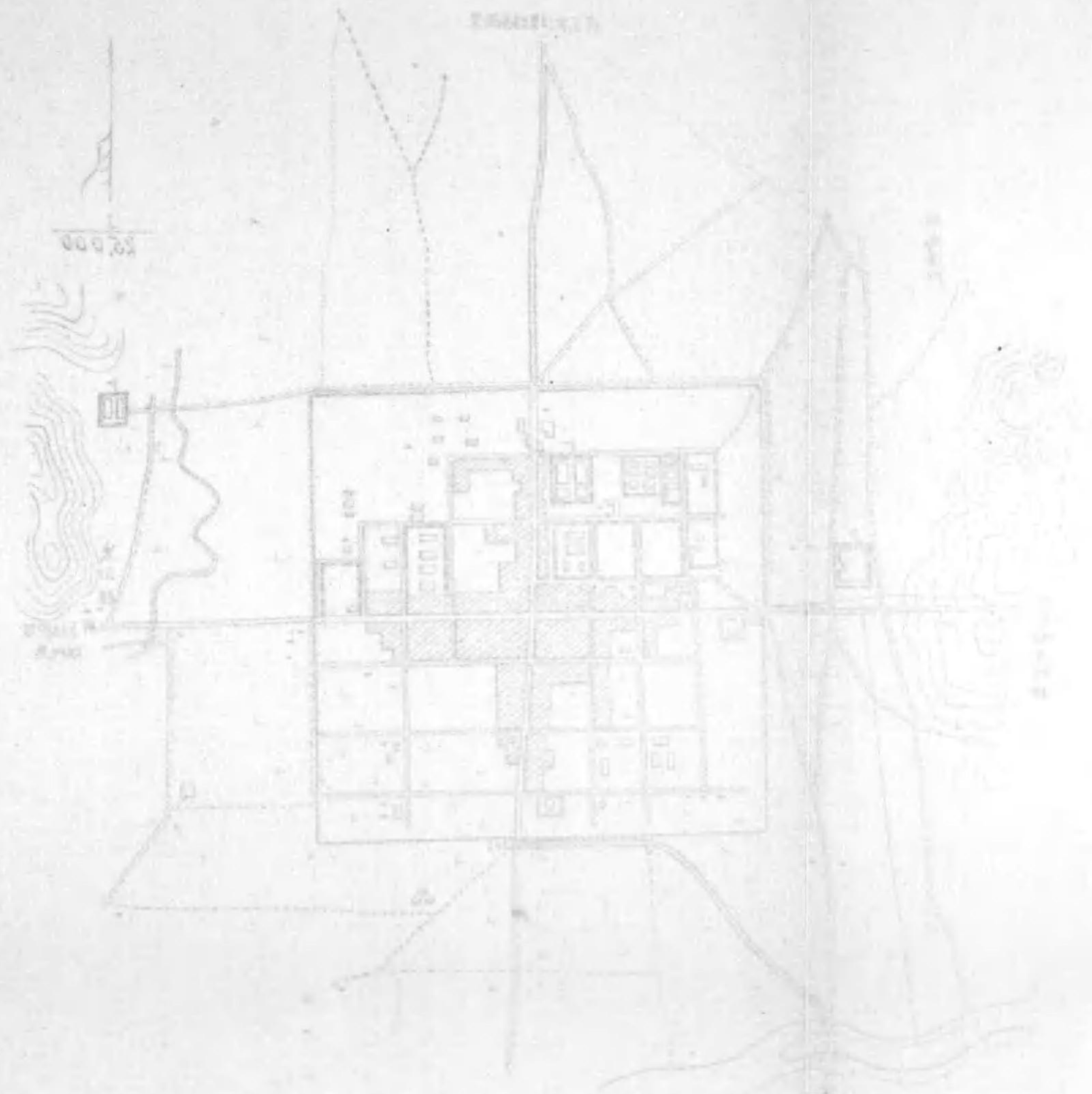
其二、商業

イ、物資集散範圍

當地市場來集物資ノ範圍ハ東方大板上及其以東ヨリ西方三十支里ニ亘リ南方ハ烏丹城ニ北方ハ遠ク四百支里ニ及フ

ロ、主要物資

圖委街市西林



來集物資

雜穀一萬五千石、羊皮百餘萬枚(九月、十一月、十二月ニ多シ)、牛皮二、三萬枚(十一月、十二月ニ多シ)、達子皮十萬枚

其他ノ獸皮約一萬枚、羊毛五十萬斤(春毛三十五萬斤、秋毛十五萬斤)、羊絨十萬斤(六月頃)

右ノ內穀類ハ不足ナルヲ以テ赤峰烏丹城ヨリ輸入スルモノ尙ホ一萬石以上ニ及フ毛皮ハ主トシテ「イクチヨル」廟ヨリ來ル

木材ハ圍場及烏珠穆沁、大巴林ノ境界「ハオプト」地方ヨリ來ル輸入雜貨ハ主トシテ赤峰ヨリ來ル

輸出品

「イクチヨル」廟へ

雜貨、燒酎、煙草、砂糖

烏丹城及赤峰へ

皮革、羊毛、小麥

蒙古地方へ

黍、粟、麵、油、燐寸、煙草等

ハ、主要商店數

當地ニハ商務會アリテ屋號ヲ有スル稍、大ナル商店約四十戸アリ

其三、工業

當地ハ若干ノ酒造ノ外未タ見ルヘキ工業ナシ

其四、將來發展ニ關スル意見

第四 東部內蒙古主要都市ノ狀況

當地附近ハ地味肥沃ニシテ從來經棚ノ有セシ商業範圍ノ一部ハ自ラ林西ニ移ルト共ニ將來蒙古西北部ニ於ケル重要ナル市街トシテ發展スルニ至ルヘシ

建昌

六、建昌

其一、一般ノ狀況

イ、位置及沿革

建昌ハ一ニ塔子溝ト稱シ朝陽ノ西南約二百支里ノ所ニ在リ陽朝—承德街道及錦州—赤峰街道ノ交叉點ニ當リ樞要ノ地ナリ

乾隆三年塔子溝應ヲ設ケ同四十三年縣ニ改メ承德府ニ隸シ又光緒二十八年朝陽府ニ隸屬セシカ民國元年現縣制トナル

ロ、戶口

最近ノ調査ニ依レハ戶數二千五百餘戶、人口一萬三千アリ

ハ、市街ノ狀況

市ハ南北ニ高山聳立シ白浪河西北ヨリ東南ニ回流ス

市街ハ城壁ヲ有セス方五支里アリ東西三條南北三條ノ街路アリテ商家櫛比シ物資集散大ニシテ商況殷盛ナリ

ニ、官公衙

縣衙門、警察事務所、稅務局、電報局、商務會、小學校、巡防隊、教會、寺院等アリ

其二、物資集散狀況

イ、商業範圍

北、赤峰、東、朝陽、南、錦州方面、西、平泉ニ及フ

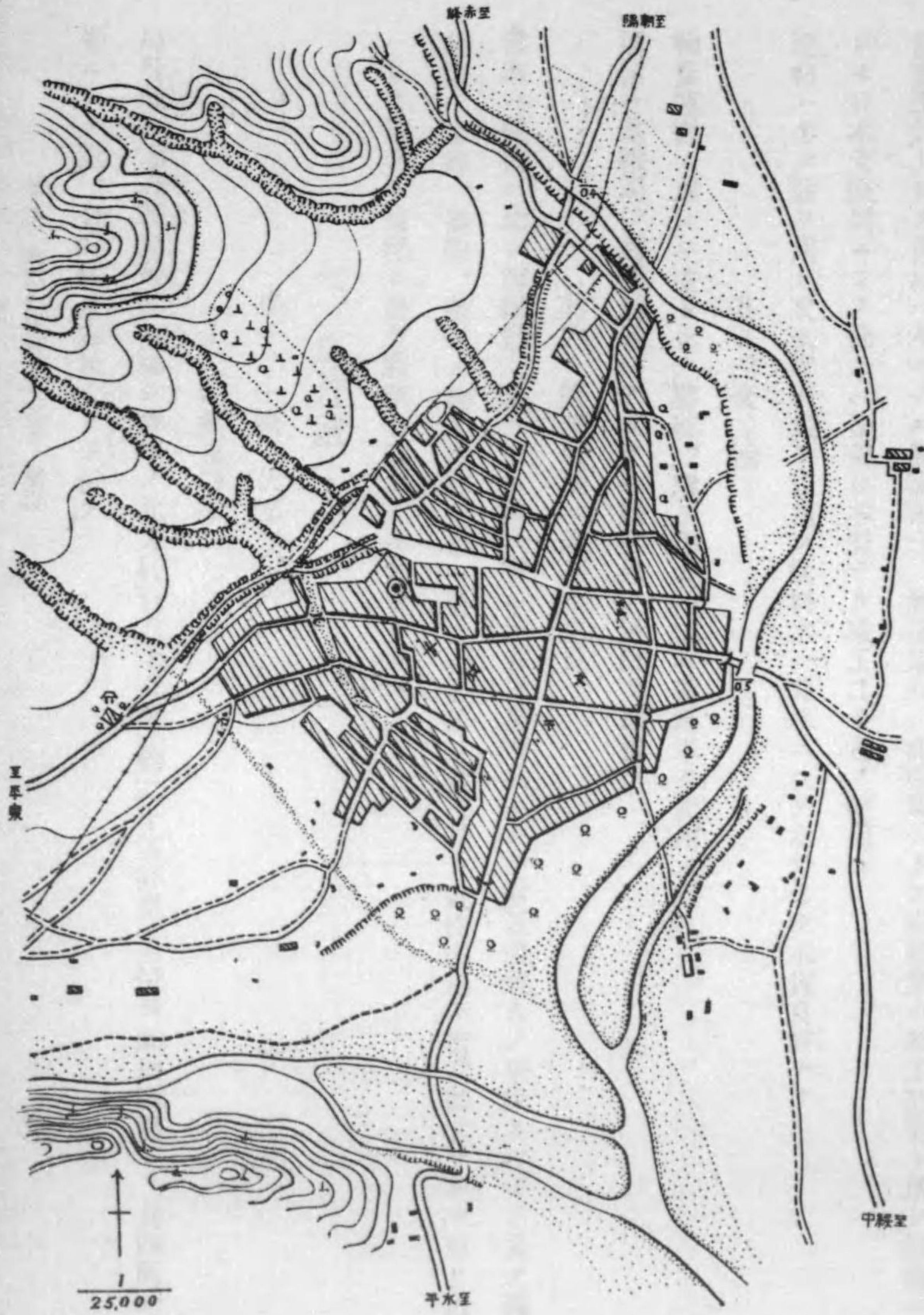
ロ、主要物資並ニ輸出入狀況

此地ニ集散スル物資ノ主ナルモノハ雜穀等ノ農產品其他馬、牛、羊等ノ畜類、皮革、羊毛、藥材ニシテ其輸出數量左ノ如シ

羊絨	一萬餘斤
羊毛	七、八萬斤
綿羊皮	一萬枚
牛皮	二、三千枚
豚鬃	二、三千斤
豚毛	二萬斤
甘草(藥劑)	錦州ヲ經テ營口ヘ

主トシテ天津ヘ

建昌市街要圖



雜穀 永平、遷安縣地方へ

輸入品ハ其年額二百萬兩ニシテ其主ナルモノ左ノ如シ

大連布、花旗布、綿糸、砂糖、洋油、紙類、煙草等天津、錦州ヨリ來ル

洋貨ハ主トシテ日本品多ク次ハ英、米、獨ナリト云フ

小麥若干 赤峰ヨリ來ル

其三、商業

イ、商店

當市ニ於ケル商業ハ當行、燒行、錢行、店行、雜行、布行、估行、糖行、工藝行ノ九行ニ分チ營業戶數百九十二アリ

商人ハ直隸人約十分ノ七ニシテ雜行、燒行、店行ニ屬スルモノ多ク山西人約十分ノ二ニシテ錢舖、當舖ヲ營ムモノ多シ

ロ、開市

畜類ノ市ハ毎日開カルルモ其數少ク其最モ多數ニ集マル時ニ於テモ百餘頭ヲ算スルニ過キス其内馬ヲ第一トシ牛、羊、驢ハ少シ來集ノ最モ多キハ四、五、六月頃トス

其四、工業

烏丹市要圖



當市工業トシテ見ルヘキモノハ製油業三、酒造業八、機織業一トス機織業ハ織工公司ト稱シ織機ハ何レモ日本大阪製ニシテ綿糸ハ全部日本製ナリ職工二十名ヲ使用ス

燃料ハ多ク薪ヲ用ヒ又氷溝石炭ヲ使用ス飲料水ハ井水ニシテ水量多ク水質良好ナリ

其五、交通

物資運搬ノ爲ニハ主トシテ駱駝、騾ヲ用ヒ一部ハ荷馬車ヲ使用ス
通信ハ電報局、郵便局各一アリテ一般公衆ノ通信ヲ取扱フ

其六、將來發展ニ關スル意見

當市ハ往昔ニ比シ市況稍、衰ヘシト雖モ猶ホ地方貿易市場トシテ附近漢蒙人ノ來集スルモノ多ク殊ニ朝陽、赤峰、錦州、承德ノ如キ主要都市ニ通スル要衝ニ當リ且ツ近傍各地ハ皆其顧客ナルヲ以テ市場ハ日ヲ追ウテ盛況ニ赴キ將來有望ナルモノナリトス

烏丹城

七、烏丹城

其一、一般ノ狀況

イ、位置及沿革

烏丹城ハ赤峰縣烏丹鄉ニ屬シ赤峰ノ北方約百六十支里(約二十五英里)ニ位ス此地城跡アリ其四周ハ土壘ニシテ遼、金時代ノ古址ナリト云フ

ロ、戸口

戸數三百、内商戸百餘戸、人口約二千五百アリ

ハ、官公衙

赤峰分縣、電報局、郵便局、駐屯兵營(步騎各一營)、商務會、稅局アリ警察事務所ハ民國二年末分縣衙門ニ合セラレ

其二、物資集散狀況

イ、集散區域

北方三、四百支里蒙古、東方百支里沙汗塔拉、西方八十支里廣德公、南方六十支里張家店トス

ロ、主要物資

當地主要物資數量左ノ如シ

糜子(稷)二千石、粟三、四千石、高粱一千餘石、麥一千餘石、蕎麥五百石、其他合計一萬石

其他當地特産物トシテハ硝石製紙原料(德利蘇草)藥材トス

其三、商業

イ、輸出入

當地輸出入品ハ多クハ赤峰ヲ經由シ一部ハ蒙古地方ニ仕向クルモノトス

輸入雜貨ハ洋布及其他ノ日用雜貨物ニシテ日本品多シ蒙古地方ヨリ來ルモノハ皮類、家畜、羊毛、黃油、奶皮子等ヲ主トシ穀類、雜貨、日用品ヲ同地方ニ輸出ス

ロ、商店

當市商店中主ナル營業戸數左ノ如シ

飲食店六、染業店六、成衣舖五、鐵爐五、木匠五、湯屋一、肉屋三、藥舖三、雜貨一七、棧店六、粉屋四、羊毛皮問屋一

又商業機關トシテハ商務會アリ

其四、工業

當地ハ未タ工業トシテ見ルヘキモノナシ

其五、交通

運搬ノ爲ニハ車馬其他ノ家畜ヲ有スヘキモ詳ナラス
通信ノ爲ニハ郵便局及電信局アリテ一般公衆ノ通信ヲナス

其六、將來發展ニ關スル意見

當市ハ赤峰ヨリ巴林部ノ大板ニ到ル通路上ノ市街ニシテ其以南ハ開墾地多ク以北ハ之ニ反シ住民稀薄ニシテ大板ヲ除クノ他ニ物資集散ノ市場ナキヲ以テ附近土人ノ來往頻繁ニシテ商業殷盛ナルカ如キモ

事實ハ然ラス之レ蓋シ近ク二十五邦里ノ地ニ赤峰ノ大市場ヲ有シ蒙古内地ヨリ來ル貨物モ此地ニ止マ
ルモノ少ナク大抵赤峰ニ直通シ現今ノ狀況ニアリテハ大ナル發展ノ域ニ達セサルモノノ如シ

東部内蒙
古ニ於ケ
ル曹達

第五 東部内蒙古ニ於ケル曹達

一、產地

東部内蒙古ニ於ケル曹達ノ存在ハ頗ル豊富ニシテ沙地帯ノ湖沼附近ハ勿論東部滿洲接壤地方到ル處多
少ノ存在ヲ見サルコトナシ其最モ饒多ナルハ哲里木盟ニ在リテハ杜爾伯特旗、郭爾羅斯旗、達賴罕、
博王、賓圖各旗、昭烏達盟ニ在リテハ札魯特、阿爾科爾泌、奈曼、喀爾喀左翼、卓索圖盟ニ在リテハ
土默特左翼地方トス
其他察哈爾八旗、烏刺忒地方亦多少ノヲ産ス(挿圖參照)

曹達産出ノ場所ハ概ネ四圍小丘ニ圍繞セラレタル低平地ニシテ其一隅ハ水溜ヲ形成セルヲ常トス然レ
トモ亦稀ニ河邊又ハ山麓ニ産スルコトナシトセス

曹達ノ産出状態ハ地下ヨリ自然ニ湧出スルモノニシテ恰モ生石灰ノ風化セル如ク灰狀ヲ呈シ地表ニ噴
出凝固スルヲ常トス而シテ其産出盛ナルトキハ附近ノ草木枯死シ水色ハ灰濁色ヲ呈ス産出量ハ所ニ依
リ同シカラサルモ盛ナルモノハ日々ノ産出地上二、三寸ニ達シ少キモ寸餘ヲ下ラス其一度採取スルモ

數日ニシテ再ヒ原形ノ如ク露出結晶シ回数ヲ重ヌルモ決シテ盡クルコトナク殆ント無盡藏ト稱スヘキ
モノナリ

東部内蒙古中有名ナル曹達採取地ハ鄭家屯附近溫都魯王府管内、玻璃山附近、及南郭爾羅斯旗管内、
前大布蘇ニシテ其兩旗ニ於ケル概況ヲ述フレハ左ノ如シ

(A) 前大布蘇

前大布蘇ハ南部爾羅斯旗管内ニシテ洮南縣ノ東南約百六十支里長春縣ノ西北約三百支里新安鎮ノ北
東二百支里ノ處ニ在リ土人ノヲ大布蘇城泡ト稱ス(大布蘇トハ天然ノ食鹽又ハ曹達ノ如キモノヲ産
スル處ノ意義)城泡(城ハ曹達、泡ハ)ハ一大凹地ニシテ高サ二十尺乃至三十尺ノ丘陵ニ依リテ圍繞セ
ラレ其廣サ南北二十支里、東西十二支里トス

從來該城泡ノ城土ハ其採取ヲ公許スルコトナク只蒙古人及滿漢人ノ竊取スルニ放任シタリシヲ天惠
公司(支那人)ノ承辦ニ委シタル以來公司ハ竊取取締ノ爲メ城泡ノ周圍ニ鐵條ヲ繞ラサントシタルモ其
冗費ニ堪ヘスシテ之ヲ停止シ自ラ之ヲ採取販賣セントシ明治四十二年ノ秋末結氷ノ際ヨリ始メテ之
カ採取ニ著手シ僅ニ千五百萬斤餘ヲ採取シタルモ其産出ノ無限ナル之ヲ採取スレハ從テ産出シ其産
出ノ豊富ナル到底自家ノ力ヲ以テ處シ難キヲ以テ上海獨逸商人及佛國商人ニ計リ一面販路ヲ本邦ニ
求メントセシカ今ニ其事成ラス漢人之ヲ經營シツツアリ

城土ハ秋末乾燥ノ候ニ至レハ結晶凝固シテ積雪ヲ見ルノ觀アルモ春末解氷降雨ノ期ニ至レハ次第ニ融解シテ一大水泡ト變ス其水色淡黃色ヲ呈シ之ヲ口ニスレハ鹹味舌ヲ刺戟ス硬度ハ降雨ノ多寡ニ依リテ異ナレリ

每年秋期舊曆九月ノ候ニ至レハ泡水漸次乾燥シ十一月ノ候城泡沿岸ノ乾瀉地ニ結晶露出スルモノトス其結晶城土ノ種類左ノ如シ

氷城土、略巴城土、汗城土、胡酒子城土ノ四種トス

一、氷城土 其名稱ノ如ク純白ノ結晶氷狀ヲ爲スモノニシテ雜分ヲ混スルコト少ナク最モ良好ナル

結晶城土トス然レトモ産出ノ量ハ多カラヌ城泡内産出ノ區域ハ水深ノ地即チ水底泥土ト接觸スル

コトナキ地域ニ結晶スルモノニシテ採取期ハ毎年十一月ヨリ翌年三月迄トス本土ニ付南滿鐵道會社試驗所分析試驗成績左ノ如シ

明治四十三年第二八號

一、曹達灰 三種

右試驗ノ爲メ本所ニ差出シタル品ニ付施行セル定量分析試驗成績ニ依レハ本品百分中ニ含有スル主要成分ノ量左ノ如シ

區	分	胡酒子、汗城土產	略巴城土產	氷城土產
不溶	殘渣	四九、六八〇	三、二三二	一、二七七
可溶	成分	五〇、三二〇	九六、七六八	九八、七二三
可溶成分中				
水	分	一七、四〇一	五七、二一一	五五、四六三
亞爾加里(Na ₂ Oトシテ)		一〇、〇七五	一三、七九五	一六、二二〇
ク	ロ	三、七二三	〇、五一五	〇、六三八
硫	酸(SO ₂ トシテ)	三、四一〇	五、三九八	五、六三八

苛性加里ハ微量

右ノ成績ニ徴スレハ本品ハ多量ノ硫酸「ナトリウム」及「クロール、ナトリウム」等ヲ夾雜スル不純ノ曹達灰ト認ムト之レ至當ノ事ニシテ大布蘇城泡ヨリ採取シタル曹達灰製造原料タル城土其儘ヲ提供シタルモノナレハ曹達灰製造用原料城土ノ分析試驗成績トス

二、略巴城土 氷城土ニ比スレハ多少ノ雜分ヲ混スルノミナラス不定ノ結晶氷狀ヲ爲スモノニシテ

産出區域ハ城土全面積ノ約三分ノ一ヲ占メ産出量ニ至リテハ無限無盡藏ト稱スルモ可ナリ雜分ヲ

混スルハ水深ノ淺キ地域ニ結晶スルヲ以テ採取ノ際底泥ヲ混スルカ故ナリ採取期ハ通常毎年十一

月前後ヨリ翌年三月迄トス

三、汗城土 略巴城土ニ比スレハ雜分ヲ混スルコト多シ之レ氷城土、略巴城土ノ如ク結晶厚カラヌ

シテ薄ク地上ニ露出結晶スルモノナレハ採取ノ際之ヲ掃キ寄スルヲ以テ泥土雜分ヲ混スルコト多シ
シ產出地面積ハ城泥全面積ノ三分ノ一弱ニシテ干瀉地ニ四時結晶露出スルヲ以テ四季共ニ採取ス
產出量ハ無盡藏ト稱スヘシ

四、胡酒子城土 汗城土ト殆ント識別シ難ク只タ結晶ノ狀汗城土ニ比シテ薄シ是レ城泡周圍沿岸ノ
干瀉地ニ結晶露出スルヲ以テナリ產出ノ量ニ至リテハ四季共ニ快晴ノ際周圍ノ沼澤、干瀉地ニ結
晶スルモノナレハ其量多クシテ亦無盡藏ト稱スルヲ得ヘシ

今前項二、三、四ノ城土ニ付中央試験所ノ分析成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

工報第五六三號

分析報告書

- 一、供試品 曹達灰
- 一、製造者 東京府荏原郡品川町南品川五五三 茂木重次郎
- 右供試品定量分析ノ成績左ノ如シ(百分中)
- 一、曹 達 五二、七〇〇 一、加里 現有セス
- 一、炭 酸 (CO₂) 二四、三二二 一、硫 酸 (SO₃) 二〇、五二二
- 一、鹽 素 二、〇四

明治四十三年六月三日

工業試験所第一部長 山村 銳 吉
同 所長工學博士 高山 甚 太郎

備考 供試品タル曹達灰ハ大布蘇略巴城土ヲ以テ製シタル曹達ニシテ右成績ヲ換算スレハ即チ曹
達灰百分中炭酸曹達五八、六四硫酸曹達三六、四二鹽化曹達三、八二殘一、一二ハ試驗中ノ消失ト
ス故ニ四割内外ハ他物トス

本城泡ニ於テ天惠公司ノ採取スル一ケ年ノ產額ハ五百九十一萬餘斤價格小洋六萬四千五百元ニシ
テ主トシテ吉林、奉天ノ諸省管内ニ販出ス

(B) 溫都魯王府管内玻璃山附近

玻璃山附近曹達產出地亦少ナカラス鄭家屯魚城公司ハ此地東西三十支里南北百四十支里ノ土地ヲ王
府ヨリ借入レ魚類ノ漁獲及曹達ノ採取ニ從事シ一ケ年曹達ヨリ二千元魚類ヨリ四千元ノ税金ヲ王府
ニ納付ス

曹達ノ採取時期ハ春季ニシテ一ケ年ノ製造高約五十萬斤ト稱セリ遠ク北京方面ニ輸出セラル然レト
モ製造力未タ盛ナラス是レ現地ニ於テ製造スルハ王府ノ種々ナル迷信ニ依リ詐可セサルヲ以テ土城
ヲ鄭家屯迄運搬シ製造スルノ不便アルト資金ノ少ナキヲ以テナリ故ニ無盡藏ノ寶庫モ未タ十分ニ其

採取法

價值ヲ發揮シ得サルノ憾アリト謂フヘシ

一、採取法

曹達ノ採取ハ地表ニ現ハレタル曹達灰ヲ手又ハ箒ニテ掃キ蒐メ之ヲ容器ニ入レ濾過シテ水ニ溶カシ煮テ結晶セシムルナリ
曹達ハ春秋ノ頃ニ於テ其產出最モ盛ンニシテ降雨多キ夏季及降雪多キ冬季ニ於テハ少シ故ニ之カ採取ハ普通春季兩季節ニ於テシ夏冬ノ二季ニ採收スルハ稀ナリ
採取ハ概ネ漢人ノ手ニ依ルノ現狀ニシテ唯々其產地ノ多クハ蒙古人ノ所有ニ屬スルヲ以テ中ニハ蒙古人ニテ採取シ之ヲ漢人ニ賣却スルモノアレトモ監視ナキ地點ハ漢人ノ爲ニ掠奪セララルルヲ常トス

製造法

二、製造法

曹達ハ俗ニ面城^{オシエン}又ハ單^{チン}城ト謂フ其製造法ハ先ツ原料タル天然產ノ面城ヲ清水ニ溶解シテ小渠アル板面ヲ稍、傾斜シ之ニ徐々注流ス然ルトキハ水ハ流レテ溜容器ニ注キ水中ニ混合セル砂石及塵埃ハ板ノ下部ニ備付ケタル排斥器ニ止マルニ於テ貯溜セル沈澱物ヲ釜ニ汲ミ入レ煮沸スレハ水分ハ漸次蒸發シテ其主精分ヲ留ムルヲ以テ之ヲ冷却スレハ釜底ニ淡黃赤色ナル固形物ヲ沈澱ス是レ則チ粗製曹達ナリ更ニ之ヲ水ニ溶解シ純精分ヲ沈澱シ之ヲ釜ニ入レ水分ヲ去ル等前ノ操作ヲ反覆スルトキハ稍、精製ノ曹達ヲ得ヘシ如斯繰返スコト三回ニ至レハ半透明ナル結晶ヲナス此二回又ハ三回精製セルモノハ多ク顔面又ハ頭髮ヲ洗フニ用ヒ粗製ノモノハ衣服ノ洗濯等ニ用ヒラル曹達ノ製品ハ哲里木盟ノ開拓地方ニ於テハ徑一尺五六寸厚八九寸位ノ鍋型ニシテ一塊二十五斤乃至三十斤ナリ西部張家口附近ニテハ長方形ニ造ル

又別ニ原料ヲ水ニ溶解セシメ沈澱セルモノヲ煮沸スルコトナク數回清水沈澱ヲナシ砂土及塵埃ヲ除去シ之ヲ晒シ^フ麩糊^フ様ノモノヲ混シ煉瓦型ニ練製セルモノアリ多ク染料ニ用ヒラル如斯面城ノ天然原料ヲ煮沸結晶セシムル製法ヲ燒城ト云ヒ其製造所ヲ城鍋ト云フ又原料ヲ採取スルヲ掃城ト云フ

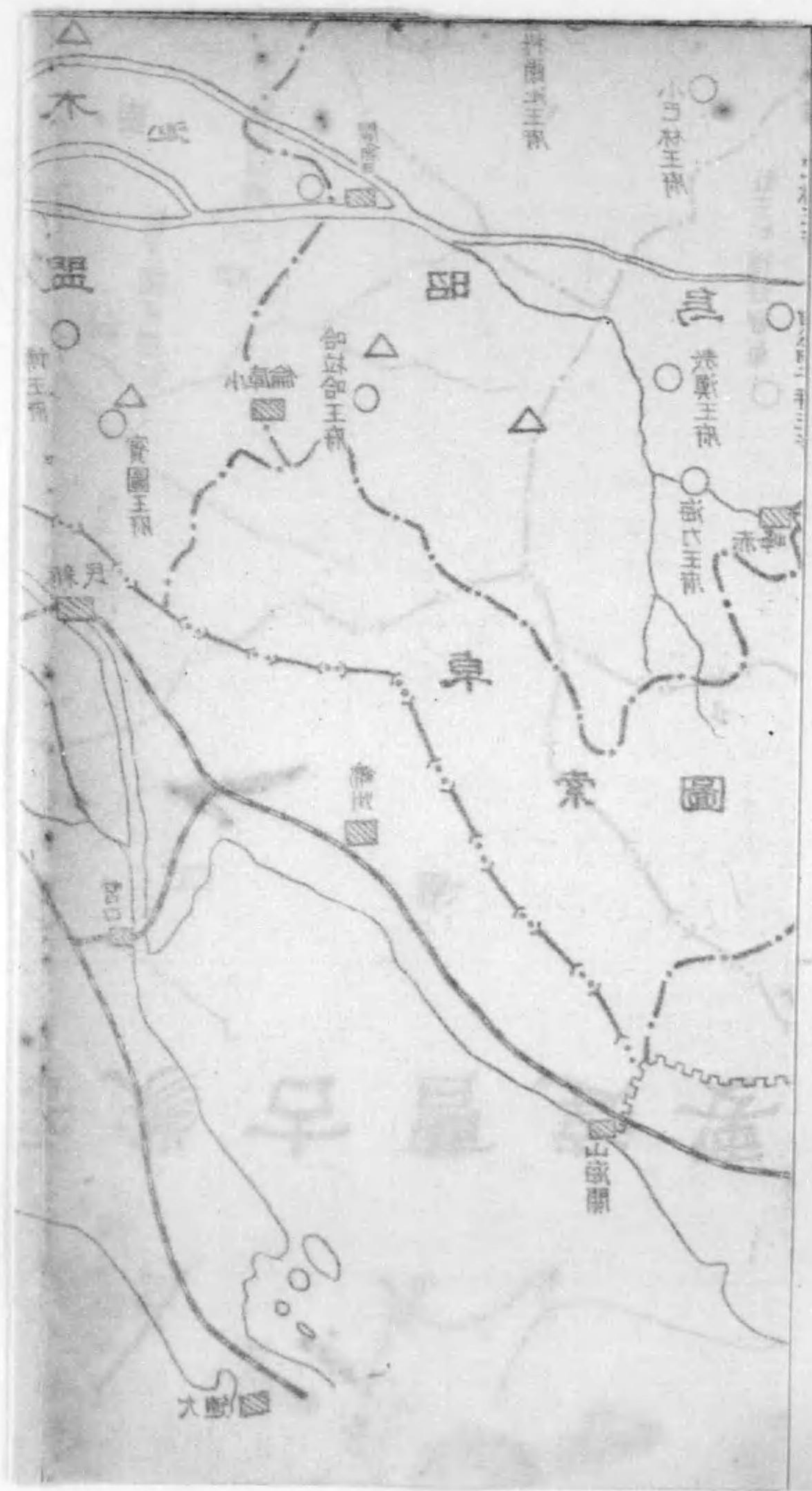
鄭家屯附近ニ於ケル城ノ種別ハ面城、磚城、生城、城土ノ四種トス面城ハ城鍋ニ於テ生城、城土ヲ原料トシテ製造シタル粗製ノ洗濯曹達ニシテ支那人ノ一般ニ常用スル粗製曹達ナリ

磚城ハ又缸城ト稱ス之レ大ナル煉瓦形ニ固メタルヲ以テ磚城ノ稱アリ此ハ粗製ノ猶ホ粗ナルモノニシテ支那ノ染房即チ染物業者ノ藍ヲ仕込ムニ使用ス

生城ハ城土產出地ニ於テ蒙古人ノ手ニ依リテ加工粗製シタルモノニシテ支那人ハ之ヲ原料トシテ面城ヲ製造セリ

城土ハ原產地ニ於テ產出ノ儘採取シタルモノニシテ面城、磚城製造ノ原料トス

鄭家屯ニ集來スル城土ハ達拉罕王府管內產出城ノ土ナリ其產出期ハ陰曆二、三月頃一ヶ月間位ノ期間地上ニ厚サ二分位ニ露出スルモノヲ採取ス採取料ハ掃城稅トシテ採取人一人一ヶ年銀十元ヲ達拉罕王



府ニ納ムルモノトス其採取者一ケ年約二千人ノ多キニ達スト云フ
 城土賣買ハ斗量ヲ用フ上等城土ハ一斗四十斤乃至四十六斤ナリ下等城土ハ一斗八十斤アルモ雜物及泥
 土ヲ混スル爲メ重シト云フ

相場ハ一斗ニ付上等銀五十仙、下等銀十仙ナリ城土百斤ノ内ヨリ上等五十斤、下等二十斤ノ面城ヲ製
 造スルヲ得ト云フ

八月産出ノ土城ハ百斤中ヨリ面城八十斤ヲ得ヘキモ冬期ノ土城ニ在リテハ六十斤ヲ出テスト云フ
 磚城ハ一塊(約五斤)銀十仙乃至十二仙面城ハ一盒(百六十斤立相場ニシテ大ナル供ヘ餅ノ如キ形狀ヲ
 ナスモノ二塊ヲ合セテ一盒トナス)銀四元乃至五元ナリ

集散市場

四、集散市場

曹達ハ東部内蒙古接壤地方市街何レモ多少集散セサルナキモ其主ナル集散市場ヲ舉クレハ

一、鄭家屯

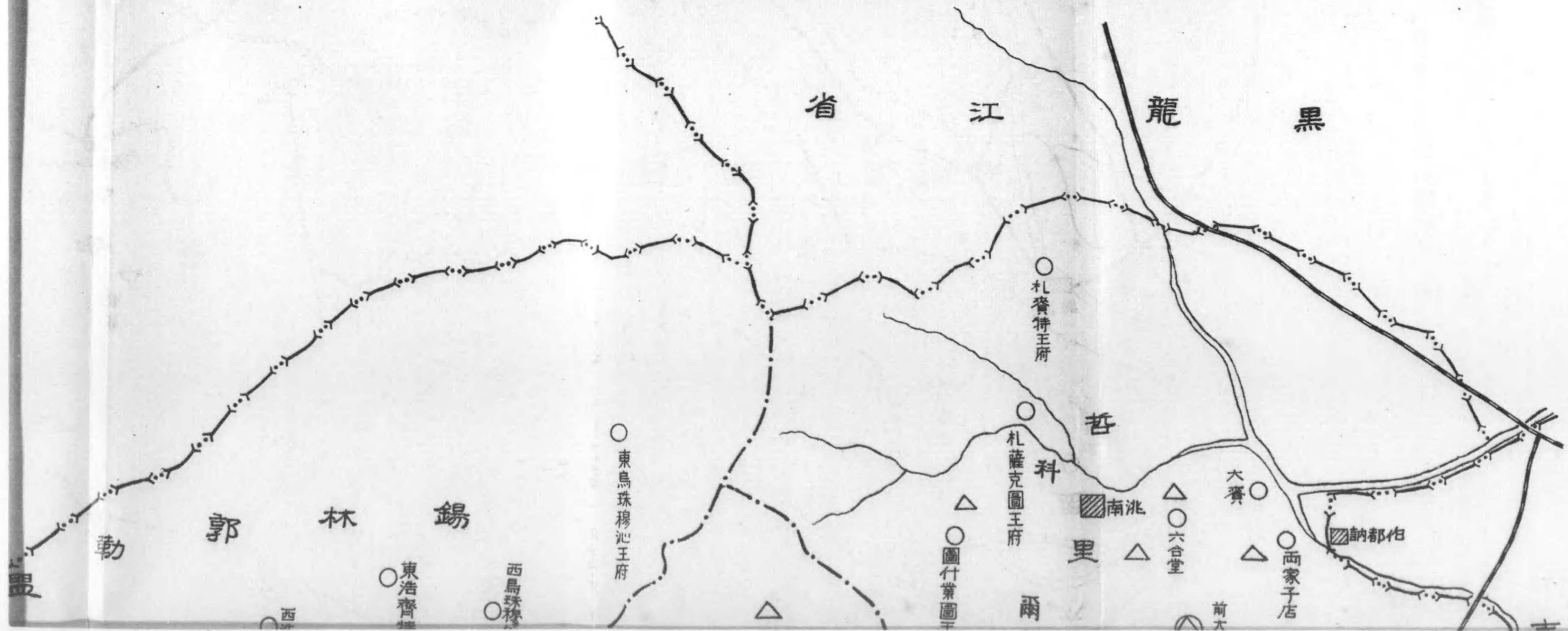
其年ノ天候ノ狀況ニ依リ製産額ニ影響ヲ及ホスヲ以テ一定セサルモ略ホ左ノ如シ

面城 百九十二萬斤 磚城 四十萬斤

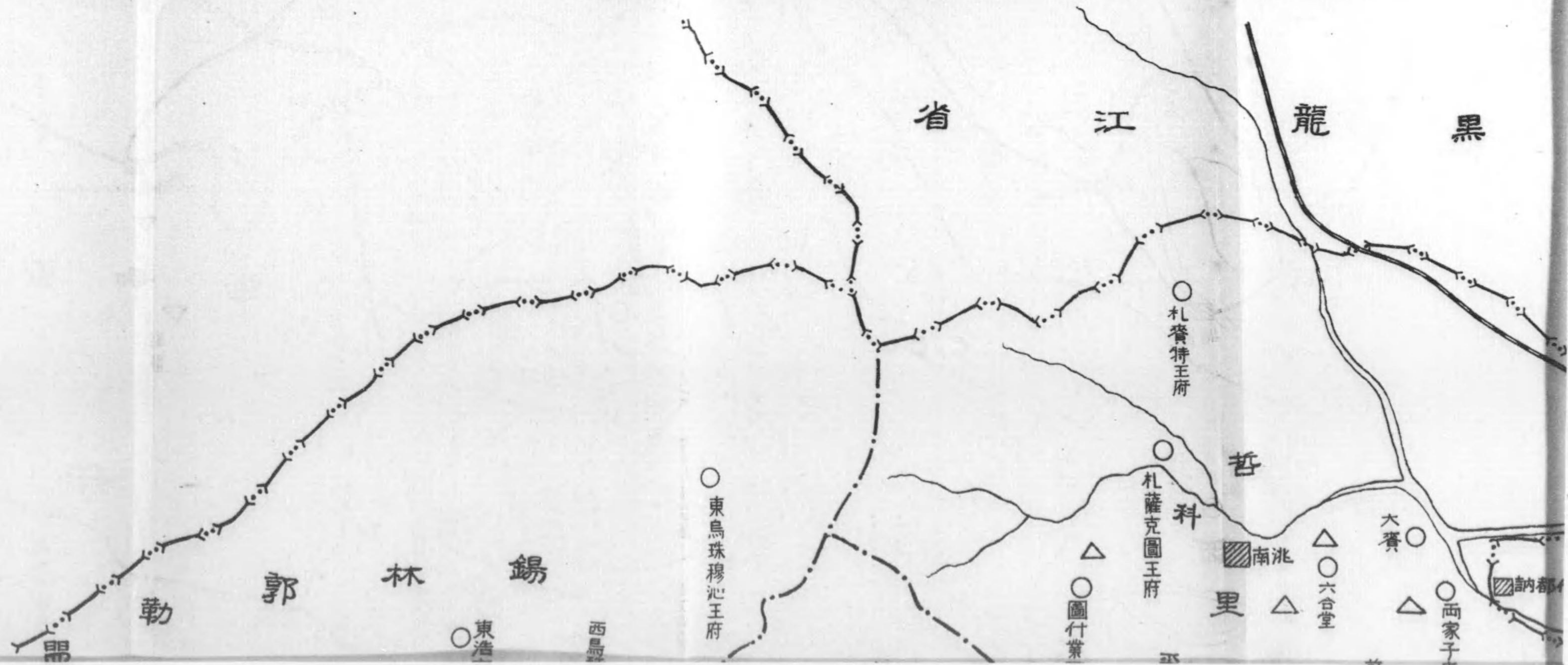
二、小嘩倫

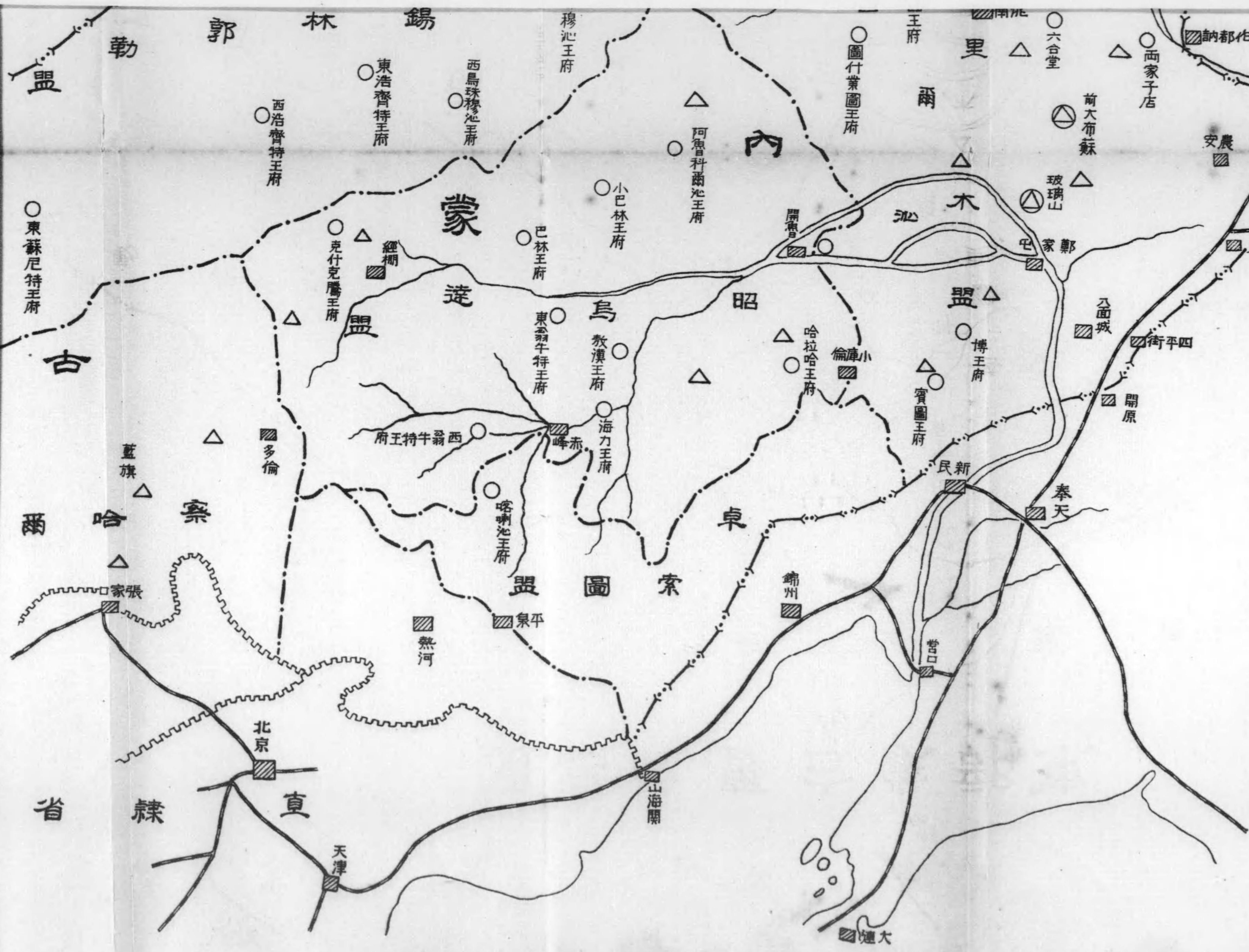
面城 百二十八萬斤

東部蒙古古達要圖



東部蒙古古達要圖



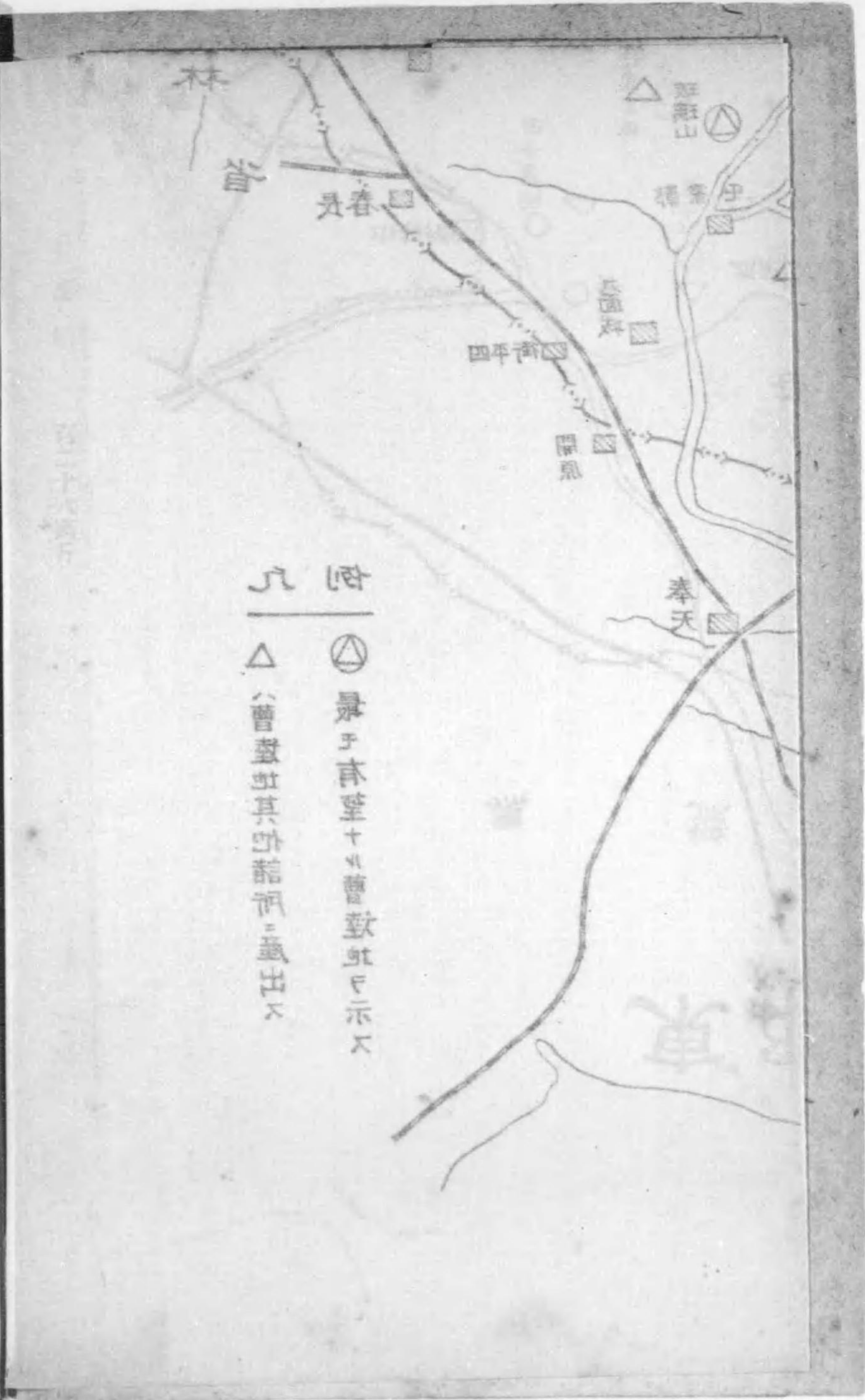


凡例

△ 八曹達地其他諸所產出ス

⊙ 最モ有望ナル曹達地ヲ示ス





三、赤峰
面城 八十二萬斤
磚城 二十五萬斤

用途
一ヶ年ノ曹達灰ノ輸入高六十萬斤之ヲ張家口ニ於テ精製スルトキハ約半量ノ面城トナル
曹達ハ工業其他ニ應用セララルコト大ニシテ其主ナル用途ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、石鹼、玻璃製造ノ原料
- 二、染色、漂白、磨擦光澤發起用
- 三、絹糸、棉花、綿糸等ノ漂白洗滌用
- 四、羊毛、其他各種毛皮等ノ漂白洗滌用
- 五、洗滌、洗衣、煮食、藥用等
- 六、其他各種製造工業ニ用フルコト枚舉ニ遑アラズ

販路

六、販路
東部內蒙古東部各地ノ產出ハ吉林、奉天省管內ニ南部各地ノ產地ハ錦州及直隸各地ニ西部察哈爾各地ノ產出ハ直隸山西等ノ各地ニ供給セラル

以上各項ニ於テ述ヘタル如ク東部内蒙古ニ於ケル曹達ノ原料ハ殆ント無盡藏ニシテ豊富ナルヲ以テ精製ヲ完全ニシ輸送ヲ容易ナラシメ歐洲品ト均シキ純良ノ精品ヲ製出シタランニハ歐洲曹達ヲ驅逐シ得ヘキノミナラス朝鮮及支那全省ニ販路ヲ擴張シ得ルコト容易ナルヘシ

精製法ノ改良

七、製精法ノ改良

現今土民ノ製造ニ係ルモノハ單純ナル製法ニ依レルカ故ニ雜分ヲ混スル結果品質上歐洲品ニ比シ劣等タルヲ免レス故ニ之カ製法ニ注意ヲ加ヘ且ツ夾雜物ヲ排除スルノ設備ヲ遺憾ナカラシメ歐洲曹達灰同様ノ製品ヲ製出スルコトニ努力シ以テ之カ輸入ノ驅逐ニ供スルハ最モ緊要トスル處ナリ

企業トシテノ適否

八、企業トシテノ適否

東部内蒙古ニ産出スル曹達ハ以上述ヘタル如ク豊富ニシテ其用途モ亦大ナリ故ニ經營其宜シキヲ得製品ノ販出ニ滯滞スルコトナクハ歐洲ヨリ日本ニ輸入スル舶來品ヲ驅逐シ朝鮮及支那全省ヲシテ低廉ナル精製曹達使用ノ恩澤ニ浴セシムルニ至ラシメ以テ國益ノ一端ヲ補フコトヲ得ヘシ

「ダブスノール」ノ食鹽

第六 「ダブスノール」ノ食鹽

名稱

一、名稱

抑、「ダブスノール」トハ蒙古人ノ稱スル所ニシテ從來支那地圖地誌ニ固爾班泊クルマン泊ト記セルモノナラント

位置及廣表

二、位置及廣表

「ダブスノール」ハ西烏珠穆沁王府ノ西北四十餘里東浩濟特王府ノ北方十三四里ノ所ニアリ恰モ兩旗ノ境界ニ介在スル鹹鹽泡子ニシテ數百年前ノ發見ニ係リ其名夙ニ世ニ喧傳セララルモ其沿革ニ至リテハ何等記録ノ徵スヘキモノナシ(挿圖第一參照)

昔ハ其周圍一層廣カリシモ漸次狹少トナリタルカ如ク現今周圍約五里東西一里半南北約一里許ニシテ中央ヨリ西半ハ水ヲ湛ヘ東半ハ通常白皚々タル食鹽ヲ露出ス但シ時季ニヨリ湖水漲溢シテ湖中東方ニ偏セル部ニ於テ周圍約一里半ノ島ヲ露出スルコトアリ

鹽湖ノ景况

三、鹽湖ノ景况

夏季南方里許ノ地ヨリ眺ムル時ハ水蒸氣ノ發散ト湖ノ東半ニ白ク結晶セル食鹽ノ日光ニ反射スルトニ由リ恰モ北岸山麓ニテ火ノ燃ユルニアラサルヤヲ疑ハシム
更ニ近ツキテ仔細ニ觀察スレハ東半ハ小砂表面ニ顯レ其間大小幾多ノ小孔アリテ孔ノ周圍ニ五寸乃至一尺餘ノ層ヲナシ其上部ハ直ニ日光ニ觸ルル如ク食鹽表面ニ露出シ二、三分乃至三、四分ノ方形ニ結晶シ頗ル美觀ヲ呈ス此小孔ハ甚タ深クシテ底ヲ測知シ難シ然レトモ小孔ノ間人ノ歩行シ得ラルル砂地ア

リテ湖内ノ交通自由ナリ而シテ其東岸及北岸ハ一帯ニ水深クシテ近ツキ難キ所多キモ一部ノ採鹽者ハ之ヨリ侵入ス東岸部ノ南岸ニハ三十米乃至五六十米ノ所迄牛車ヲ牽キ入レ得ル所アルモ水深〇米五〇乃至〇米八〇ノ所アリ稍、泥濘ニシテ車行困難ナレトモ採鹽者ハ主トシテ南方ヨリ入りテ採鹽シ牛車ヲ牽キ入レ之ヲ運ヒテ陸上ニ送ル採鹽ノタメ湖ニ入レル人畜上陸スルヤ足脚皆白色ヲ呈ス

湖ハ山又ハ丘陵ニテ取圍マレタル平地ノ中ニアリ水邊ヨリ丘陵ニ到ル間ハ南方十五支里北方五支里東方十支里西方里十支位ナリ
湖ノ水ハ雨水ノ滲溜シタルモノニシテ敢テ他ヨリ注キ來ルコトナク毎年舊五月ノ雨期ニ至レハ増水シ周圍海岸ノ如ク砂地ニテ歩行ニ困難ナリ湖水ノ北岸ニハ一ツノ喇嘛廟アリテ僧侶二百餘名之ニ住ス是レ今ヨリ三十年前「ホゴチンソム」ヨリ移住シ來レルモノナリト云フ蒙古人ハ此湖水ニ鹽ヲ産スルハ佛ノ御蔭トシ毎年採鹽前必ス水中ノ佛ニ對シ僧侶ヲシテ祈禱セシメサルヘカラス否ラサレハ鹽ノ産出杜絶スト迷信シ居レリ又水ヲ恐ルルコト甚タシク未タ曾テ此湖水中ニ入レルモノナク隨テ水深ノ如キ從來不明ナリ

採鹽法

四、採鹽法

採鹽者ハ主トシテ南方ヨリ又一部ハ東部及北部ヨリ牛車ヲ牽キ入レ之ヲ運ヒテ陸上ニ送ル採鹽ノ方法ハ圓匙様ノモノヲ用ヒ無雜作ニ小孔ノ邊リノ鹽層ヲ掬ヒ取り之ヲ粗造ナル容器（八、九斗至乃一石入

リ）ニ入レ一牛車毎ニ一容器ヲ載セテ陸ニ運フ採鹽ハ烏珠穆沁、浩濟特二部四旗ノモノニ限り之ヲ許シ一切他旗ノモノ又ハ滿漢人ノ採鹽ヲ許サス

採鹽者ハ一組普通數人ニテ百輛内外ノ牛車ヲ牽キ數日湖邊ニ野宿シ日々採鹽シテ全車輛ノ積載量ヲ採鹽シ終レハ之ヲ目的ノ地ニ運搬ス

鹽湖ハ冬季氷結スルコトナク四季共ニ採鹽シ得ラルヘシト雖モ通常冬季ハ日光弱ク春季ハ降雨多ク共ニ結晶充分ナラス雨期後夏季ニ於テ最モヨク結晶シテ採鹽ニ適シ産出量モ舊三月中旬ヨリ舊十月ニ至ル間ニ於テ多量ナリ

品質

五、品質

鹽ノ結晶ハ水平層ヲナシテ存在シ上層ハ所謂上製シテ純白不透明結晶大粒ニシテ降雨期ト雖モ液化スルコト少ナク本邦食鹽ノ如ク下層ニ鹽水ノ溜マルコトナシ主トシテ王府ノ使用ニ供ス

下層ハ之ヲ下製ト稱シ稍、灰色ヲ呈シ一般人民ノ使用スル所ナリ

概シテ何等ノ設備ナク天然ニ産スルモノナルヲ以テ外觀頗ル美ナラサルモ鹽分ノ強キコト到底海鹽ノ及フ所ニアラス

産額

六、産額

鹽ノ産額ハ無盡藏ニシテ毫モ人工ヲ加フルコトナク採鹽ノ盛ナル期節ニハ日々牛車五六百輛（一輛三

十貫—五十貫積)ノ輸出量アリ此ノ如クシテ採鹽スルモ隨テ探レハ隨テ凝結シテ際限ナク其產出額ハ採鹽者ノ多少ニ比例スルノ狀況ニアリ
本鹽ノ赤峰ニ出ツル量ハ年々夥シキ數ニ上リ專ラ松嶺山脈以北ノ各地ニ消費セラル明治四十三年中ニ赤峰ニ移入セル數量大約三十五萬五千貫ナリ
現在本鹽ノ一ケ年採取量ハ漠トシテ不明ナルモ各種ノ方面ヨリ推定スルニ少クモ二百五六十萬貫ヲ降ラサルハ確實ナルヘシ

七、販賣ノ方法

販賣ノ方法

烏珠穆沁、浩濟特二部四旗以外ノモノ食鹽ヲ要スル時ハ是等ノ旗民ヨリ之ヲ讓受ケ其代價ハ家畜又ハ雜穀等ヲ以テス又兩部ノ旗民ニシテ他旗民ノ需要ニ應スルタメ牛車ニ積ミ遠ク他旗ニ運ヒテ雜穀其他ト交換スルモノアリ
採鹽場ニハ收稅官吏的ノ者ナシト雖モ道路ノ出口ニ臺吉ヲ分屯セシメ若干ノ兵員ヲ附シ出入者ヲ監視シ左記ノ標準ニ依リ旗民ニ課稅ス但シ烏珠穆沁、浩濟特二部四旗民ノ自家用ハ無稅ナリ
巴 林 二 旗 一車輛(八、九斗乃至一石) 銀四錢(邦貨約五十錢)
克 什 克 騰 旗 一車輛(八、九斗乃至一石) 銀三錢(邦貨約四十錢)
阿霸琰、阿巴哈納爾各旗 同 銀二錢(邦貨約二十六錢)

其他距離ノ遠近ニ因リ多少差異アリ而シテ兩部王府ハ均分スルコトナク各自旗民ノ採收セルモノニ就キ納付セシムルノミナリ

漢商ニシテ同鹽ヲ求メントスル時ハ旗民ト約シ之ヲ烏丹城、赤峰、多倫諾爾、經棚、張家口等ノ地ヲ指定シ蒙古人ヲシテ運搬セシメ同地ニ於テ受領ス蓋シ漢人ノ鹽ヲ運搬スルコトハ嚴禁スル所ナレハナリ是レ其奸狡ナル竊盜ヲ免レントスル手段ニ外ナラス

如斯此食鹽ノ販賣ハ一種特別ニシテ他旗又ハ漢民ヲシテ直接採鹽又ハ運搬スルヲ禁シ自己ノ旗民ヲシテ之ヲナサシメ鹽稅ハ直接買主ニ課セスシテ賣主タル自己旗民ニ之ヲ課ス其方法恰モ我邦ノ間接稅ニ類似ス而シテ採鹽ニ從事セル旗民ハ前ノ如ク納稅スル外採鹽並ニ販賣等ノ爲メ使用スル人畜ノ費用トシテ一車ニ付平均我三四十錢ニ相當スル金品ヲ要スルニ過キス

八、供給區域

供給區域

此ノ食鹽ノ供給區域ハ頗ル廣大ニシテ東ハ洮南、鄭家屯附近ニ及ヒ北ハ海拉爾ニ南ハ赤峰、熱河、張家口ニ西ハ嘩倫附近ニ及ヒ蒙古人ノミナラス右區域附近ニ住スル滿漢人モ皆其ノ供給ヲ受ケサルナシ需用此ノ如ク廣大ニシテ他ノ產地少ナキヲ以テ產額多量ナルニ拘ラス赤峰ニ於ケル鹽ノ價格ハ一貫目三十八九錢乃至四十錢ニシテ之ヨリ運搬費及手数料ヲ差引クモ原產地ニ於テ一ケ年ノ產出價額少クモ五六十萬圓ニ相當スルナラン

九、運搬方法

食鹽ノ運搬ハ悉ク牛車ヲ以テシ普通七八十輛乃至百餘輛ヲ以テ一組トシ百輛ニツキ六七人乃至十人ノ馭者附隨シ是等運搬人ハ天幕、食料品、飲料水、其他必需品ヲ携ヘ先頭中央後尾等大抵十輛位ニ一人ノ馭者乗車シ先ノ車ニ後ノ牛車ノ繩ヲ結ヒ悠々徐行シ一日ノ行程五六里ニ過キス每一二里ニ休憩シテ牛ヲ放牧シ夜間ハ野宿シテ遠ク多倫諾爾、赤峰等ニ運搬ス(挿圖第三參照)

此ノ如ク連日徐行シテ開拓地方ニ入ルトキハ耕地ノミニシテ牧草ナキヲ以テ輓牛ハ飽食スル能ハス且ツ日々勞働スルヲ以テ著シク瘦セ衰弱スルヲ常トス烏珠穆沁ヨリ赤峰ニ到ル百二十餘里間十七日乃至二十日ヲ要スト云フ

車輛ノ構造ハ實ニ粗造ニシテ重量四五百斤以上ヲ積載スル能ハス且ツ途中屢々修繕ヲ要スルコトアリ

赤峰附近ヨリ西南ノ道路ニテハ駱駝ヲ用フルモノアリ食鹽ノ運搬ハ九、十月頃盛ニシテ烏珠穆沁ヨリ多倫諾爾又ハ赤峰等ノ各地ニ通スル道路上ニハ實ニ數千ノ車輛絡繹タリ

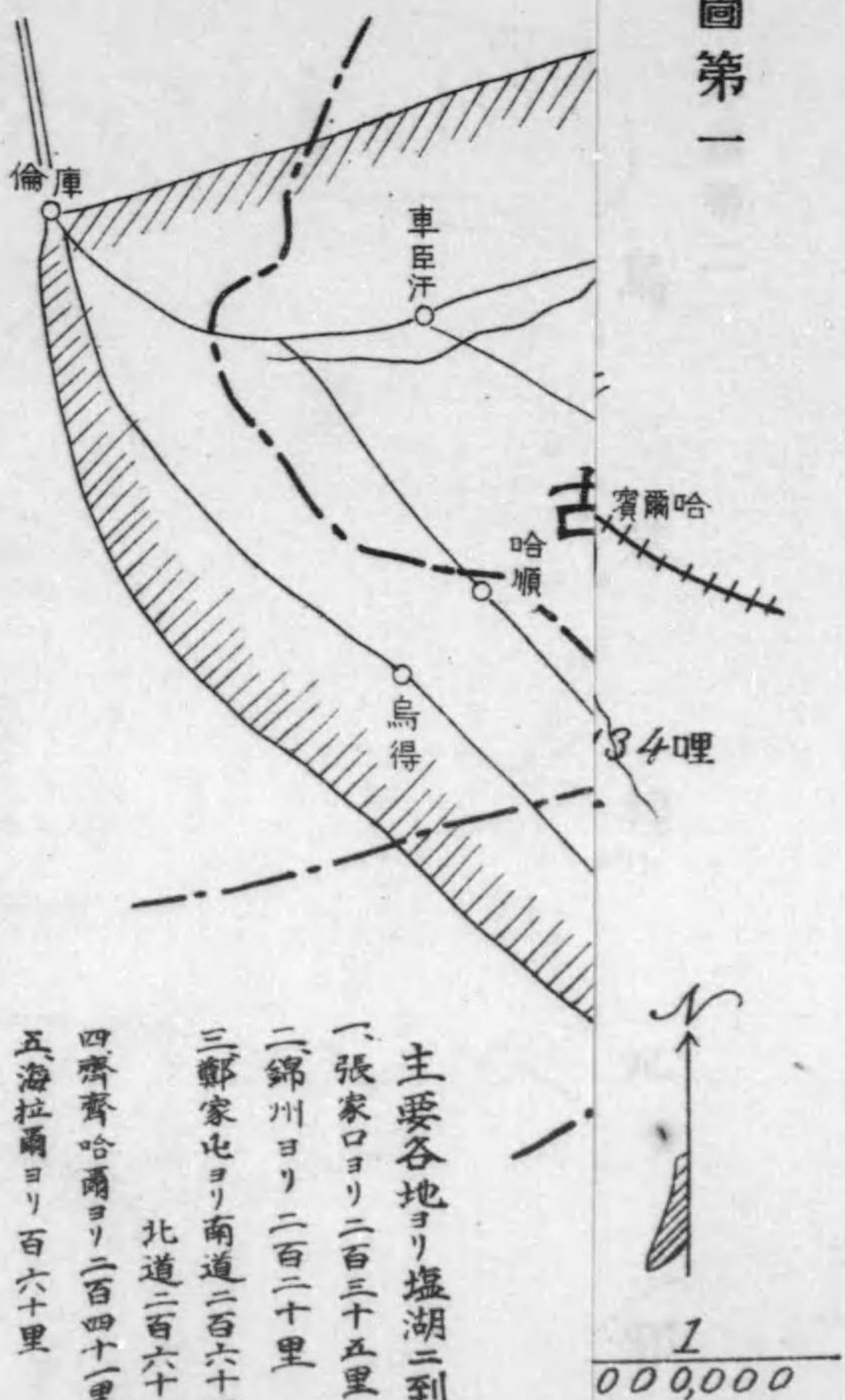
嘗テ某氏ノ旅行中赤峰ヨリ烏珠穆沁ニ達スル六日間日々百餘輛宛ノ食鹽運搬車輛三十組合計五千餘輛ニ會シタリト云フ以テ其盛況ヲ窺フニ足ラン

鹽湖ノ價値

十、鹽湖ノ價値

人生必須ノ食鹽以上述フルカ如ク多量ニ而モ海灣ニ遠キ大陸ノ内地ニ天然ニ産出シ販路ハ殆ト東部内

挿圖第一

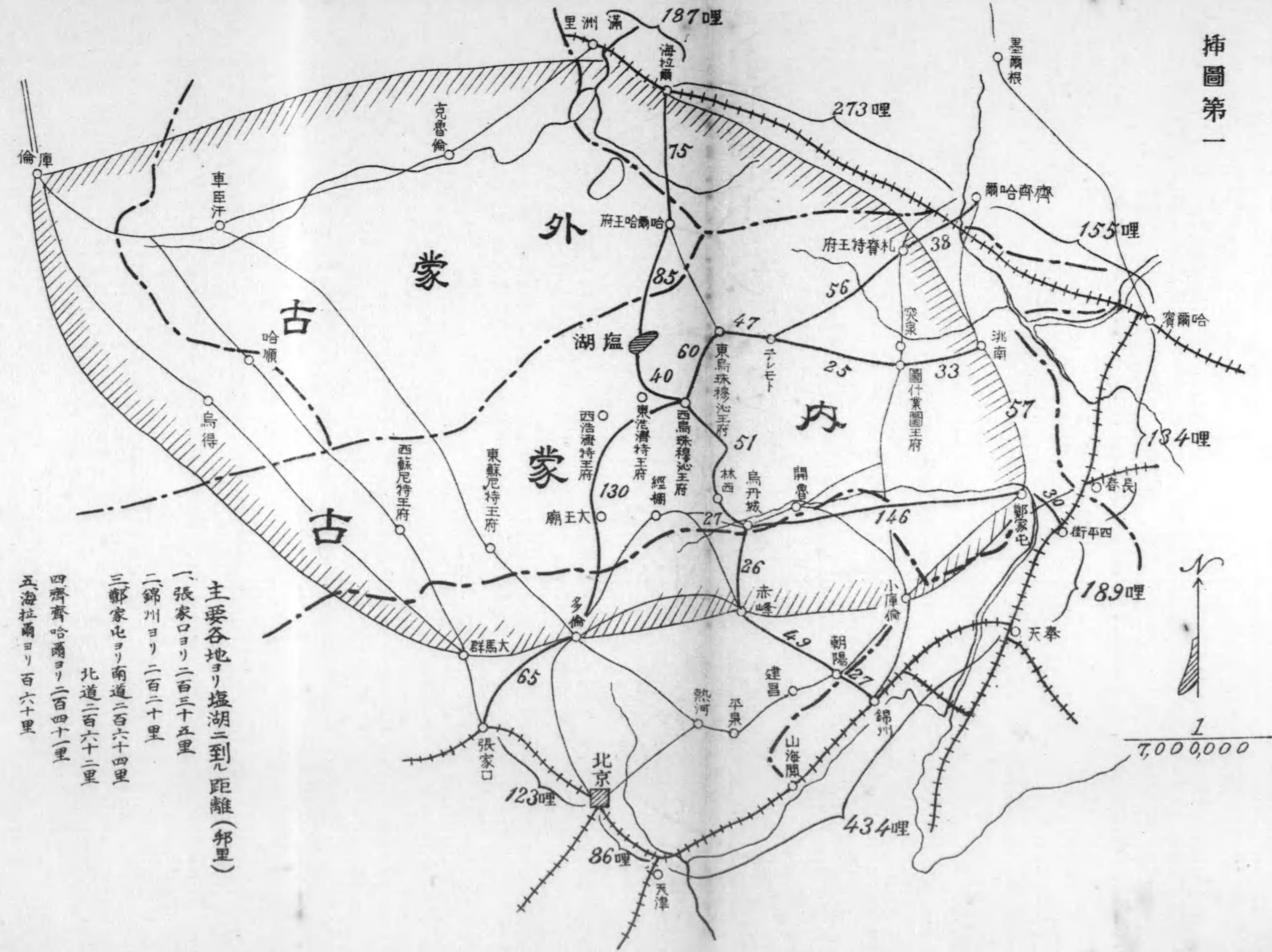


主要各地ヨリ鹽湖ニ到ル距離(邦里)

- 一、張家口ヨリ二百三十五里
- 二、錦州ヨリ二百二十里
- 三、鄭家屯ヨリ南道二百六十四里
北道二百六十二里
- 四、齊齊哈爾ヨリ二百四十一里
- 五、海拉爾ヨリ百六十里

圖要域區給供塩食及係關置位ルノスブタ

挿圖第一

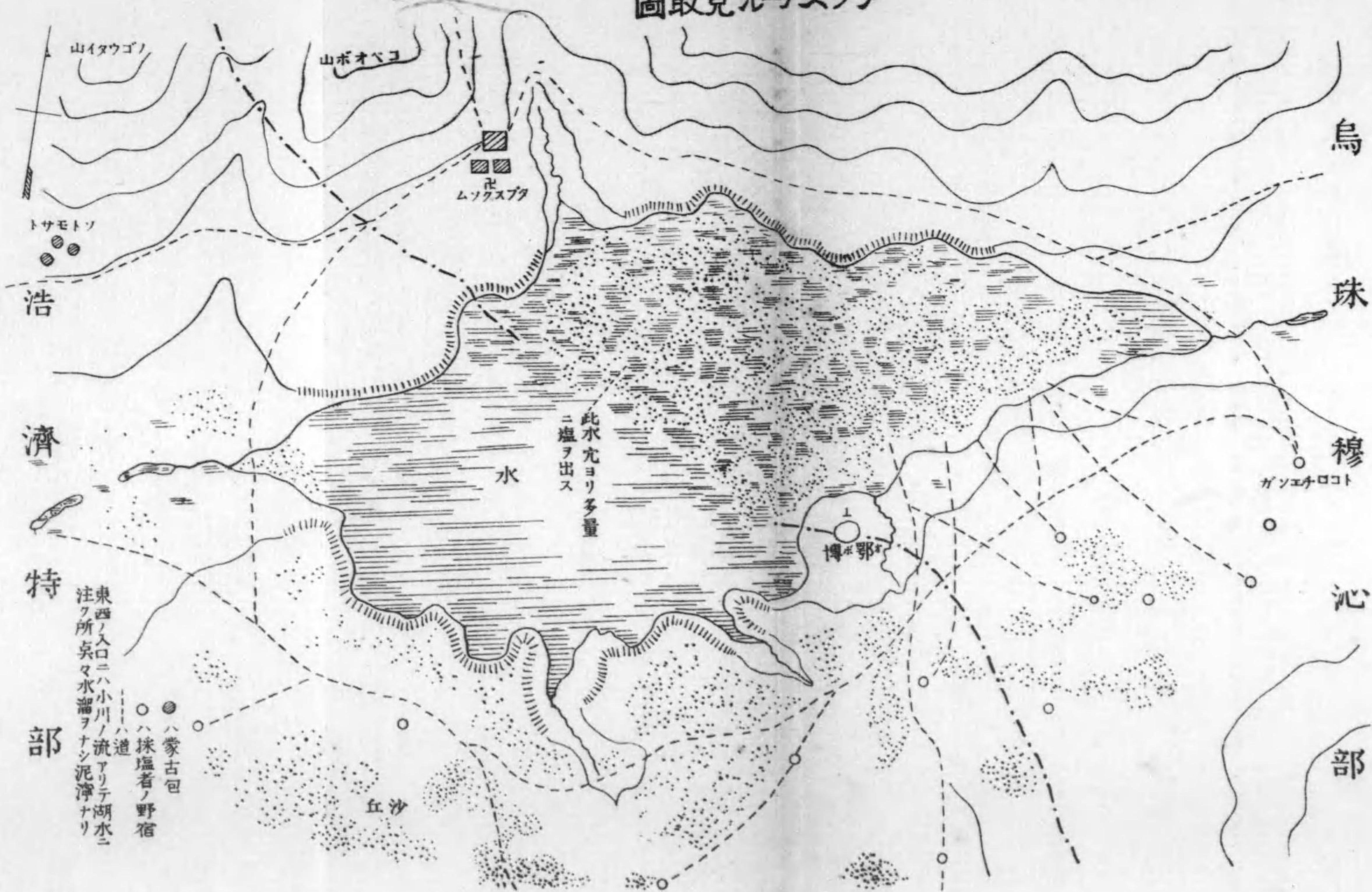


主要各地ヨリ塩湖ニ到ル距離(邦里)

- 一 張家口ヨリ二百三十五里
- 二 錦州ヨリ二百二十里
- 三 鄭家屯ヨリ南道二百六十四里
- 北道二百六十二里
- 四 齊齊哈爾ヨリ二百四十一里
- 五 海拉爾ヨリ百六十里

スタブルノ見取圖

第二圖挿



浩
濟
特
部

珠
穆
沁
部

● 八家古包
○ 八株塩者ノ野宿
ハ道
東西ノ入口ニハ小川ノ流アリテ湖水ニ注グ所矣々々水溜ヲナシ泥濘ナリ

地圖影二



皮囊



食鹽ノ容器



牛糞ヲ以テ表面ヲ塗ル

食鹽運搬圖



牛車ノ結合



一ハハハ
二ハハハ
三ハハハ
人車牛ノ乗ル車

第六「タプスノール」ノ食鹽

蒙古ノ全部、外蒙古、黑龍江省、滿洲、直隸等ノ隣接地ニ及ヒテ幾多ノ民ヲ養ヒ關係旗民ハ勿論其王府ハ之ヲ唯一ノ財源トシテ口糊ヲ凌キ財政ヲ處理シ烏珠穆沁王府ノ如キハ爲メニ富裕ヲ致セリ實ニ是レ東部內蒙古ニ於ケル天與ノ寶庫ニシテ又兩旗不滅ノ財源ナリトス
鹽湖ノ價值以上ノ如キヲ以テ外人ノ此レニ注目スルモノ多ク從テ王府ノ警戒漸ク嚴ラ加ヘツツアリト云フ

蒙古對露國貿易

第七 蒙古對露國貿易

千九百十四年ニ於ケル露蒙貿易ニ關シ恰克圖稅關ノ統計ニ依レハ張家口—恰克圖線ヲ中心トシタル外蒙古ノ對露貿易ハ歐洲戰亂ノ發生ヲ見シニ拘ラス之ヲ千九百十二年同十三年ニ比スレハ大體ニ於テ著シキ増加ヲ示セリ今之ヲ詳述セン

輸入

一、輸入

最近三ヶ年間ニ於テ露國重要品ノ外蒙古ニ輸入セラレタルモノハ千九百十二年、十八萬八千八百留同十三年、六十八萬三千五百八十留同十四年、百八十三萬四千八百九十二留即チ千九百十四年ニ於ケル露國重要品ノ外蒙古輸入ハ千九百十二年ニ比シ約十倍千九百十三年ニ比シ約三倍ノ激増ヲ示セリ今最近三箇年ニ於ケル露國重要外蒙輸入品ノ統計ヲ示シテ如何ニ露品ノ年々同地方ニ發展シツツアルカヲ示サン

品目	一九一四年	一九一三年	一九一二年
織物	一、二二七、一〇〇	三九四、〇〇〇	六三、〇〇〇
砂糖	二五〇、〇〇〇	一五三、三〇〇	九〇、〇〇〇
煙草	六二、一〇〇	四〇、九八〇	一五、二〇〇
鐵及鐵器	三八、一〇〇	二〇、九〇〇	—
銅器	三七、五〇〇	六、三〇〇	—
燐子	二〇、七〇〇	一五、二〇〇	一二、四〇〇
菓實	一四、九〇〇	—	—
蕘子	九、九〇〇	四、六〇〇	八、二〇〇
鑄鐵	二、六〇〇	四八、〇〇〇	—
鑄鐵	一、一〇〇	三〇〇	—
其計	一七〇、八九二	六八三、五八〇	一八八、八〇〇
計	一、八三四、八九二	—	—

ナリ此他右統計ニ漏レタル麥粉五十五萬留、燕麥一萬九千留、皮革四萬留、挽割麥二千留、雜品一萬五千百八十五留ヲ前記ノ百八十三萬百二十留ニ計入セハ昨年度ニ於ケル露國品ノ恰克圖ヲ經由シ外蒙古ニ輸入セラレタル數ハ約二百五十萬留ニ達スヘシ

輸出

二、輸出

最近三ヶ年間ニ於テ蒙古品及支那經由貨物ノ恰克圖ヲ經由シ露國ニ輸出セラレタルモノハ千九百十二

年、三百三萬千七百留、千九百十三年、三百七十五萬七千二百留、千九百十四年、三百二十五萬九千五百六十留ニシテ昨年ノ一昨年ニ比シ減少ヲ見シコト約五十萬留ナリ其減少物品中最モ多額ヲ占ムルハ駱駝及羊等ノ毛類ニシテ之カ減少ノ理由ハ歐洲戰亂ノ爲メ同方面ノ輸出杜絶ヲ見シ結果ナリトス之ニ次クハ烏龍茶ニシテ從來同品ハ張家口、恰克圖線ヲ經テ露國ニ輸入セラレツツアリシモ一昨年來漢口、浦鹽線航路開始ノ爲メ殆ント同線ヲ取ル事トナレリ左ニ千九百十二年以降同十四年ニ至ル三ヶ年間ニ於ケル蒙古品及ヒ支那經由貨物ノ恰克圖ヲ經由シ露國ニ輸出セラレタルモノヲ示セハ

品目	一九一四年	一九一三年	一九一二年
羊毛	一、一六六、〇〇〇	一、三五六、〇〇〇	四八八、一〇〇
羊皮	六五九、九五〇	三五九、七〇〇	二〇一、八〇〇
山鼠類	三八一、六〇〇	三九三、八〇〇	二一六、三〇〇
駱駝	三〇五、八〇〇	四〇八、五〇〇	五四二、八〇〇
牛油	二六二、一〇〇	四四〇、八〇〇	二九〇、七〇〇
板茶	一二七、六〇〇	一四六、九〇〇	九七、三〇〇
紅茶	九六、四〇〇	九八、七〇〇	六一、九〇〇
獸毛	三三二、二〇〇	四九、〇〇〇	一五〇、九〇〇
西藏藥材	二二三、三七〇	一五、七〇〇	二九、九〇〇
絹織物	一、〇九九	八〇〇	一〇〇
其他	一、〇一一	二、七〇〇	四、八〇〇

蠟	燭	其他
五七七	五〇〇	三〇〇
一六七	四〇〇	六〇〇
二〇一、七〇〇	四八三、七〇〇	九四六、二〇〇
三、二五九、五七四	三、七五七、二〇〇	三、〇三一、七〇〇

ナリ此他歐露輸出毛皮モ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケテ例年ニ比シ甚シク減少シ昨年ノ下半年期ニ於ケル之カ輸出羊皮、三十萬二百五十留、毛皮類、七千六百七十留ニシテ前年度ノ同期ニ比シ五十三萬七千六百七十留ノ減少ナリ

外蒙古ニ於ケル最モ大ナル富源ハ牛、豚、山羊等即チ食料ニ供セラルヘキ家畜業ナルモ是等家畜ノ恰克圖ヲ經由スルモノハ比較的大ナラス昨年度ノ如キ十八萬六千留ノ輸出ヲ見シニ過キス多クハモンデウイン(輸出年額二百萬留以上)ボルジャ(同額)コシ、アガチ(三萬留)ヲ經由シツツアリサレハ年々蒙古ヨリ露國ヘ輸出セラレツツアル是等家畜類ハ四百五十萬留ヲ下ラサルヘシ

第八 滿蒙經營ト山東出稼苦力(人夫)

一、緒言

今ヨリ百有餘年前ニ於ケル滿蒙ノ地ハ人口極メテ稀薄ニシテ農耕拓ケス殆ント寂寥タル荒野タリキ是レ清朝ノ初期ニ當リ政府カ滿洲種族ト其領土トヲ保護センカ爲メ漢人ノ移住及滿洲ニ於ケル土地領有

滿蒙經營ト山東出稼苦力

ヲ禁止シタルニ因ル然レトモ支那本土ニ於ケル耕地ノ不足ト滿洲ニ於ケル土地ノ過剩トハ自ラ漢人ノ秘密移住ヲ喚起シ滿洲官憲ハ各地ニ於テ漢人ノ新部落ヲ發見シ之ニ對シテ立退ヲ命スルコトナキニアラサリシモ終ニハ之ニ税金ヲ課シ且ツ隨意ニ耕地ヲ擴張セサルコトヲ條件トシテ現地ニ留マラシムルヲ常トセリ然レトモ此耕地擴張ノ禁止スラ正確ニ遵守セラレサル有様トナリ政府ノ各種妨害手段アルニ拘ラス移民ノ滿洲ニ流入スルモノ年々増加シテ頗ル莫大ノ數ニ達セリ

於是滿洲ハ滿人ノ滿洲ナリト謂ヘル古キ用語モ漸次其意義ヲ失ヒ今ヨリ約九十年前ニ至リテハ清國政府ノ意嚮方針全ク變革セラレ地方行政制度ノ改革ト共ニ法律上漢人ノ滿蒙移住ヲ公認シ土地所有權ヲモ許可スルニ至レリ

爾來滿蒙ニ於ケル移住漢人ノ趨勢ハ頗ル活潑ナル狀態ヲ呈シ滿蒙ニ於ケル大部ノ企業ハ漢人ノ掌握スル處トナリ年々滿蒙ニ移住又ハ出稼スル者頗ル多數トナレリ而シテ其漢人ノ主ナルモノハ山東、直隸、山西等ノ各省人ナリトス就中山東人其大部ヲ占メ滿蒙到ル處山東人アラサルナク毎年前記移住者ノ外滿蒙及露領ニ出稼スル苦力ハ約三十五萬ノ多キニ上ルト云フ以テ山東苦力ノ如何ニ滿蒙經營ト密接ノ關係ヲ有スルカ知ルヘキナリ是レ山東出稼苦力ニ就テ一言セサル可ラサル所以ナリ

出稼苦力ノ現況

一、出稼苦力ノ現況

最近ノ調査ニ依レハ毎年山東省ヨリ滿蒙及露領ニ出稼スル苦力ノ數ハ大約三十五萬人ニシテ主トシテ

山東半島部タル登州、萊州ノ二縣ヨリシ青州、沂州、膠州之ニ次キ西部山東ノ各縣ハ其數少シ今各縣毎ニ出稼苦力ノ概數ヲ掲クレハ左ノ如シ	登州縣	一五〇、〇〇〇人	萊州縣	六〇、〇〇〇人
	膠州縣	二〇、〇〇〇人	青州縣	六〇、〇〇〇人
	沂州縣	三〇、〇〇〇人	西部山東ノ各縣	三〇、〇〇〇人

但シ西部山東トハ主トシテ兗州、泰安、濟南ノ三縣ヲ云フ

而シテ是等ノ苦力ハ陰曆正月二十日頃ヨリ鄉關ヲ辭シテ各其目的地ニ向フモノニシテ舊二三月ノ候最も多ク四月ニ至ツテ止ム彼等ハ其目的地タル滿蒙及露領ノ各地ニ於テ勞役ニ服シ相當ノ貯蓄ヲナシタル後越年ノ爲メ陰曆十一月下旬ヨリ十二月二十日頃ニ歸郷スルヲ例トセリ

三、出稼苦力ノ經路及其範圍

出稼苦力ノ經路及其範圍

彼等出稼苦力ノ經路ハ略々一定シアリ山東角ヨリスルモノハ芝罘、龍口、青島ノ各港ヲ經由シテ海路滿洲ニ入り西部山東ヨリスルモノハ津浦鐵道ニテ天津ニ出テ其レヨリ海路滿洲ニ入ルモノト濟南ヨリ小清河ノ水運ニヨリテ羊角溝ニ到リ該地ヨリ小蒸汽船ニテ滿洲ニ入ルモノトアリ今各經過地毎ニ其吸收苦力ノ數及範圍ヲ述フレハ左ノ如シ

一、芝罘ヲ經過スルモノ 一一〇、〇〇〇人

此地ヲ經過スルモノハ登州縣ノ東部即チ榮城、文登、寧海、萊陽、海陽、福山、棲霞地方ノモノ大多數ヲ占メ遠クハ萊州、青州ノ兩縣管内ヨリ來ルモノニシテ之ヲ各縣毎ニ區分スレハ大約左ノ如シ

登州縣 九〇、〇〇〇人

萊州縣 二〇、〇〇〇人

青州縣 一〇、〇〇〇人

ロ、龍口ヲ經過スルモノ 一〇〇、〇〇〇人

此地ヲ經過スルモノハ登州縣ノ西部地方及萊州縣、青州縣ノモノニシテ之ヲ各縣毎ニ區分スレハ大約左ノ如シ

登州縣 五五、〇〇〇人

萊州縣 二五、〇〇〇人

青州縣 二〇、〇〇〇人

ハ、青島ヲ經過スルモノ 九〇、〇〇〇人

此地ヲ經過スルモノハ登州縣管内ノ海陽、萊陽地方ノモノ及膠州、沂州縣、萊州縣、青州縣ノモノニシテ沂州縣管下ヨリ來ルモノハ先ツ日照及濰維附近ヨリ民船ニテ此地ニ入ルモノニシテ之ヲ各縣毎ニ區分スレハ左ノ如シ

青州縣 二〇、〇〇〇人

膠州縣 二〇、〇〇〇人

登州縣 五〇、〇〇〇人

萊州縣 一五、〇〇〇人

青州縣 二〇、〇〇〇人

沂州縣 三〇、〇〇〇人

ニ、羊角溝ヲ經過スルモノ 二〇、〇〇〇人

此地ヲ經過スルモノハ青州縣ノ北部樂安地方ノモノ及西部山東ノ各縣(兗州、泰安、濟南)ヨリ小清河ノ民船ニテ羊角溝ニ來ルモノニシテ之ヲ各縣毎ニ區分スレハ大約左ノ如シ

青州縣 一〇、〇〇〇人

西部山東各縣 一〇、〇〇〇人

ホ、津浦鐵道ニヨルモノ 二〇、〇〇〇人

西部山東ノ兗州、泰安、濟南ノ各縣ヨリスルモノニシテ津浦鐵道ニテ天津ニ出テ其レヨリ汽船ニテ營口又ハ大連ニ到ルモノナリ

四、出稼苦力ノ就業場所

出稼苦力ノ大部分ハ滿蒙及露領ニシテ滿蒙ニ到ルモノハ主トシテ農業、工業、伐木業、鑛業ニシテ其他鐵道、獵業等ニ従事ス又露領ニ到ルモノハ極東ニ於ケル沙金ノ採取及金鑛ノ採掘ニ従事スルモノニシテ其多クハ夏季ナリ是レ露領ニ於ケル各鑛山ノ設備完全ニシテ排水工事良好ナル爲メ採掘シ易キ爲ニシテ黑龍江沿岸支那側ニアル各鑛山ノ排水工事不備ノ爲メ夏季ノ採掘困難ナルヲ以テ多ク冬季ニ至ルト云フ其他一部ハ從僕ニ使用セラルルモノナリ

五、出稼苦力ノ特性

出稼苦力ノ特性

イ、強健ニシテ如何ナル苦境モ賃銀ノ爲ニハ苦痛ヲ感セサルハ不文ノ内ニモ會得シアルカノ觀アリ
ロ、低廉ナル賃銀ニ甘ンシテ勞役ニ服ス

ハ、生活單調ニシテ給養ニ手數ヲ要セス且ツ勤勉ナリ

ニ、酒ヲ飲ムニモ度ヲ過ササルヲ以テ泥醉スルコト少ク且ツ喧嘩爭鬪スルコト稀ナリ

ホ、獸的欲望ハ先天的露骨ニアラス隨テ克制ニ強シ

ヘ、勞働セサル日即チ雨天等ノ休息日ニ生活費ノ増加ヲ要セス日本勞働者等ノ休養日ニハ反テ日常ニ

數倍セル飲食費ヲ要スルトハ正反對ナリ

ト、一定ノ期間内ハ懷郷心ヲ制シテ必ス勞役ニ從フ是レ習慣上郷黨ヨリ誘致ナキニ依ルナラン

チ、生活上ニハ炊事用ノ外水ヲ使用スルコト極メテ少ク入浴洗面等ヲ欲セス

リ、家畜ヲ愛シ能ク使役ス

斯ノ如ク勞働者トシテ適良ノ特質ヲ具有セリ唯其短所トスル所ハ不器用ニシテ敏捷ヲ缺キ一般公共心ニ乏シキコト等ナリ

右ノ外職工ニシテ自己ノ職業ナキトキハ人夫トナリ仕事ナシトテ徒食スルカ如キコト少ナシ

六、結論

結論

以上述ヘタル如ク滿蒙及極東露領ニ於ケル事業經營ニ要スル勞力供給ハ一ニ懸テ此山東出稼苦力ニアリト云フモ過言ニアラサルヘク而シテ其需用ニ對スル供給ハ或ル程度迄ハ無窮大ト云フヲ得ヘシ往年彼ノ露國ノ期年ナラスシテ東清鐵道ノ敷設旅順、大連ノ經營ヲ爲シ得タル等一ニ此山東苦力ニ負フモノナリト云フヲ得ヘク實ニ滿蒙經營ニ對シテハ唇齒輔車ノ關係ヲ有スルモノナルヘシ而シテ其性質習慣タル良好ニシテ勞働者トシテ最良ノ素質ヲ具備ス將來此滿蒙經營ニ任スヘキ邦人ハ須ラク是等苦力ノ使用法ヲ研究シ彼等天賦ノ長所ヲ發揮セシメ其美果ヲ收メサル可ラス殊ニ其山東ノ地タル今ヤ殆ント我カ帝國ノ勢力圈内ニ入りタル時彼等ヲ遇スルノ寬嚴ハ我帝國ノ施設上大ナル關係ヲ有スルコト大ナルヘシ

蒙古王公
支那官民
並ニ旗民
ニ對スル
勢力

第九 蒙古王公ノ支那官民並ニ旗民ニ對スル勢力

蒙古王公ノ清朝ノ爲ニ征服セラレタルハ康熙年間ノ事ニシテ今ヲ距ルコト二百餘年前ナリ當時清朝ハ專ラ力ヲ中國ノ戡定ニ用キタルヲ以テ蒙古王公ニ對シ懷柔撫御ノ政策ヲ取り賜フニ封爵ノ榮ヲ以テシ其土地人民ニ對シテハ全ク王公ノ支配ニ委任シ恰モ封建國ノ君主カ其諸侯ニ對スルト同一態度ヲ以テシタリ故ニ其當時ニ於テハ王公ノ勢力ハ極メテ絶大ナリシモ清朝ノ基礎漸ク堅ク又内顧ノ必要ナキニ至リテ領土統一上漸次蒙古王ノ勢力ヲ制限スルノ必要ヲ感シ之カ手段トシテ蒙地開放ヲ迫リ光緒末葉

第九 蒙古王公ノ支那官民並ニ旗民ニ對スル勢力

以來連ニ移民ヲ蒙地ニ送り開放地ニハ縣治ヲ設ケ地方政治ノ範圍ヲ擴張シテ蒙古ノ領土支配權ヲ蠶食セントセリ最近民國ニ至ツテ益々此政策ヲ擴張シ臨時約法ニ於テ蒙地ヲ以テ明ニ民國ノ領土ナリト宣言スルニ至リ一面外國ニ對シ蒙地侵入ヲ防遏スルト同時ニ他面蒙古王公ノ獨立外交權ヲ否認セリ此ニ於テカ王公ノ支那官憲ニ對スル勢力ハ益々縮少セラレ現今ニ於テハ殆ント支那官憲ノ願使ニ甘ンセサルヘカラサルノ憐ムヘキ状態ニアリ而シテ其主ナル原因ハ次ノ二ニアリ

- 1、支那官憲ハ強大ナル兵力(哲里木盟ニ於ケル吳俊陞ノ軍隊ノ如シ)ヲ配置シ威壓ヲ加フルコト
- 2、蒙古王ハ財、兵二力ニ於テ支那官憲ノ敵ニアラサルコト

支那官憲ノ蒙古王公ニ對スル態度ハ文官側ニ於テハ表面上力メテ懷柔主義ヲ取り居レリ即チ王公ノ市街ニ出ツル場合ハ必ス之ヲ衙門ニ招待シ饗宴ヲ張ル等ヲ例トセリ之ニ對シ軍隊側ニ於テハ絕對ニ威壓主義ヲ取り其王公ト同シク宴席ニ列スル時ノ如キハ目引キ袖引キ合ヒテ之ヲ嘲笑スル等殆ント王公ヲ眼中ニ置カサル如キ有様ナリ參考ノ爲メ聞キ得タル實際談ヲ左ニ掲ケン

洮南市街北方ニアル洮兒河ノ渡場ニハ僅ニ二十人ヲ載スニ足ルヘキ渡船一艘アルノミ或ル日洮南ヨリノ歸途此渡場ニ達セシ蘇鄂公旗公爺ノ一行(從者二、三人)ハ丁度北方ヨリ約二百ノ支那馬隊(大尉ノ指揮セルモノ)ノ同シク渡場ニ達セルニ遭遇シ馬隊ハ直チニ渡船ヲ占領シ逐次其隊ヲ北ヨリ南ニ渡シ始メタリ南岸ヨリ北方ニ引返ス時ハ空船ナルヲ以テ南岸ヨリ北岸ニ移ルヘキ蘇鄂公爺ノ從者

ハ其公爺ナルコトヲ申出テ空船ニ乗ルヘキコトヲ要求セルニ指揮官タル大尉ハ一喝ノ下ニ之ヲ却ケ「ソノナ事ヲスルト時間カ取レル」ト言ヒテ取合ハス遂ニ公爺ハ早朝ヨリ午刻ニ至ル約半日支那二百ノ馬隊全部渡河ヲ終ルマテ空シテ河岸ニ待テリト

右ノ如ク蒙古王公ハ支那官憲ニ對シテハ何等勢力ヲ認メラレサルモ數百年來因襲ノ久シキ其未タ開放セラレサル土地即チ自己ノ支配權ヲ有スル土地ニ對シテハ絕對的權力ヲ有シ支那官憲ト雖モ亦如何トモスヘカラサルモノアリ即チ支那政府ト雖モ蒙古王公ノ承諾ヲ得サレハ隨意ニ蒙地ヲ開放スルコトヲ得サルノ特權ハ今猶確實ニ保有セラレアリ今其著シキ例證ヲ舉クレハ

鄭家屯ヨリ白音他拉ニ至ル道路ハ夏季ニ至レハ氾濫ト泥濘トノ爲メ殆ント交通ヲ絶ツ然ルニ此期間ハ西遼河ノ水量増大スルヲ以テ之ヲ利用スルトキハ大ニ交通ヲ便ニスルヲ得ヘキモ鄭家屯ヨリ白音他拉ニ至ル西遼河ハ未開放地ヲ通スルヲ以テ蒙古王公ノ承諾ナケレハ航行ヲ得ス嘗テ夏季毎月二回支那官船ノミ交通ヲ許サンコトヲ交渉シタルニ旗長タル達賴罕王ハ之ヲ承諾セルモ土地ノ所有者タル卓哩克圖王ノ之ヲ承諾セサル爲メ遂ニ實行スル能ハスト云フ

前述ノ如ク蒙古王公ハ其旗下ニ對シテハ絕對ノ支配權(例令漸次浸蝕セラレツアリトハ云ヒナカラ)ヲ有スルヲ以テ其旗下ノ蒙民ニ對シテ依然無限ノ勢力ヲ有シ生殺與奪ノ權ヲ掌握シ居レリ然レトモ其旗下ニ居住ヲ許シアル支那人ニ對シテハ單ニ徵租ノ權ヲ有スルノ外全ク權力ナク恰モ外人ニ對スルカ

如シ
 蒙民ノ王公ニ對スル信用ハ數百年來連續セル君臣的關係ヨリ今日猶ホ未タ甚タシキ失墜ヲ來サス特ニ
 支那人ノ侵入セサル地方ニ於テハ王公ニ對スル尊敬ノ程度昔ニ變ラサルモノアリ然レトモ已ニ支那人
 ニ接觸シ其惡影響ヲ受ケタル蒙民ニ對シテハ王公ノ威信モ亦昔日ノ如ク行ハレサルモノ多シ最近時勢
 ノ推移ハ漸次此傾向ヲ増大シツツアルモノナリ

第十 滿蒙ニ於ケル通貨及金融機關

一、通貨及金融機關ノ狀況

支那ノ幣制タル錯雜紛糾シテ其統一ヲ缺キ甚タ危殆ナル狀態ニ在ルハ世人ノ熟知スル處ナリ現下東三
 省及蒙古開放地帯内ニ流通セル貨幣ノ種類ヲ見ルモ實ニ二十有餘ノ多キヲ算シ更ニ之カ内容ヲ窺ハン
 カ無形ノ手形ニ類スル營口ノ過爐銀、奉天ノ抹兌銀、長春ノ過碼錢アリ小貨ノ必要ニ應シテ削取使用
 スル銅銀俗稱馬蹄銀アリ或ハ地方官憲若クハ銀行、店舖、燒鍋等ノ濫發セル幾多ノ不換紙幣アリ外國
 銀行ノ發行ニ係ル紙幣アリ又所在外國銀行ノ發行ニ係ル兌換金銀券等各々其勢力範圍内ヲ流通シ硬貨
 ニ至リテハ小洋、大洋、墨銀等ヲ始メ外國銀行鑄造ノ金銀貨雜然トシテ流通シ何等ノ統一ナク取締モ
 ナシ而モ是等多種多樣ナル内外貨幣ハ各價格ノ單位ヲ異ニシ形狀、品質、信用、流通範圍等同シカラサ

滿蒙ニ於
 ケル通貨
 及金融機
 關
 狀況
 通貨及金
 融機關ノ

ルヲ以テ通商上不便甚シキノミナラス日常受授者ノ計算ノ困難若クハ他貨ニ換算スル場合ノ煩雜豫測
 スヘカラス

殊ニ鐵道沿線以外ノ地方ニ到ランカ金融機關完備セサルヲ以テ多額ノ爲替ヲ要スルモ取引不能ニシテ
 爲メニ馬背等ニ依リ運搬シ匪賊ノ横行セル危險地帯ヲ通行セサル可カラス既ニ通貨ノ移動ニ就テ此不
 便アルニ加ヘ其硬貨タルト紙幣タルトヲ問ハス銀貨本位ニシテ世界的銀位ノ變動若クハ市場流通額ノ
 多寡如何ニヨリ貨幣相場ノ騰落常ナキヲ以テ地方物貨ハ之カ爲メ動搖ヲ免レサルノミナラス偽造贋造
 品ノ混交シテ行使セラルルコト珍シカラス眞偽ノ鑑別ニ習熟セサル外商等ハ日常不安ノ念ニ驅ラレ通
 貨受授ニ最モ意ヲ用フト雖モ且ツ之ニ由テ被ル損失大ナルノ狀態ニアリ

故ニ完全ナル幣制ノ下ニ取引シタルモノ一度此地ニ足ヲ投センカ煩雜錯亂タルニ呆然タラサルモノア
 ラサルヘシ然レトモ因襲ノ久シキコレニ馴レタル士民ハ其計算ニ暗熟精通シ又之ニ適應スル機關ト計
 算トハ自然ニ發達セルカ故ニ通貨ノ紛雜ニ對シテハ彼等ハ毫モ痛痒ヲ感セサルノミナラス反テ之カ爲
 メ奇利ヲ其間ニ占ムル老猾者アルカ如キ現象ニシテ如何ニ外人ノ貨幣ノ確立統一ヲ唱導シ又支那官憲
 ニ於テモ貨幣統一ノ急ナルヲ説キ從來ノ弊ヲ一掃センコトヲ計ルニ拘ハラズ其實行尙々多數ノ年月ヲ
 要スルコトナルヘクコレカ根本的革新ノ時機ヲ待ツト同時ニコレカ研究ハ止ヲ得サル所ナリ

二、通貨ノ種類及流通區域

通貨ノ種
 類及流通
 區域

第十 滿蒙ニ於ケル通貨及金融機關

滿蒙ニ於ケル通貨ハ之ヲ大別シテ支那貨幣及外國貨幣ノ二種トシ更ニ之ヲ硬貨、紙幣ノ二種ニ區別ス而シテ以上ハ主トシテ東三省及蒙古開放地帯ニ於テ流通セルモノニシテ蒙古内部殊ニ遊牧地帯ニ到ラシカ殆ント物々交換ニシテ通貨ノ流通ヲ見ス稀ニ銀塊ヲ使用スルノミ之レ其必要ヲ認メサルニヨルヘシ然レトモ近時露領近接地方殊ニ興安嶺以西ニ於テハ露貨ノ流通愛用セララルルハ特殊ノ現象タルヘシ今左ニ一般通貨ニ就キ之ヲ述ヘン

A 支那貨幣

イ、硬貨

- 一、銀塊 銀塊ハ元來支那法貨ニ非ラサルモ民間ノ取引、官廳ノ收入、支出凡テ之ヲ拒マス最モ有力ナル本位貨幣タルノ地位ヲ占ム其鑄造ニハ公定ノ鑄式ナルモノヲ有セス各地ニ存在スル銀鑄(銀鑄造業者)ノ鑄造ニ係ル一種ノ銀塊ニシテ各地其量目純分ヲ異ニスルヲ以テ商取引ニ於テハ一々其量目ヲ秤定シテ授受決算ス其單位ハ兩ニシテ兩以下ハ錢、分、厘ニシテ共ニ十進法トス
銀塊ハ其大小ニ依リ左ノ三種ニ區分セララル
- 1、小顆 一塊ノ重量約五兩ニシテ扁平ナル饅頭形ヲナス
- 2、中錠 一塊ノ重量約十兩ニシテ扁平ナル饅頭形又ハ法馬形ヲナス
- 3、元寶 一塊ノ重量約五十兩ニシテ馬蹄形又ハ婦人杏形ヲナス所謂馬蹄銀是レナリ前二者ニ比シ

流通額多ク銀塊中ノ最モ普通ナルモノトス

- 二、銀元 俗ニ洋錢ト稱シ大洋錢及小洋錢ノ二種ニ分ツ共ニ各省銀元局ノ鑄造ニ係ルモノニシテ銀質重量一定セス殊ニ鑄造上ノ技術粗略ナルカ爲メ偽造多シ
大洋錢ハ我一圓銀貨ニ類似シ一元ヲ以テ單位トス小洋錢ニ比シ品質稍、良好ナルモ僅ニ京奉鐵道ノ運賃、支那郵便局其他外國人間ニ用ヒラルルニ過キス大洋錢ノ内、東三省鑄造ノ大龍元アレトモ其流通額多カラス
小洋錢ハ角(又毛ト云フ)ヲ以テ單位トシ流通額最モ廣ク滿蒙ニ於ケル重要貨幣ナリ其種類ハ五角(我五十錢ニ相當)、二角(二十錢)、一角(十錢)半角(五錢)ノ四種ニシテ二角、一角ノモノ最モ多ク五角半角ノモノハ極メテ少ナシ
本銀貨ノ鑄造ハ各省巡按使ノ監督ノ下ニ經營セララルモノナレハ其鑄造地方ニヨリテ其組成ヲ異ニスルヲ免レス吉林省鑄造ノモノハ奉天省鑄造ノモノヨリ品質不良ナリト云フ
近來小洋錢ノ拂底甚シキカ上ニ小洋錢票ノ濫發アリ殊ニ最近奉天省ノ鑄造ニ係ルモノハ純銀分著シク減シテ公定ノ重量ヲ有セスカ爲メ紙幣ト硬貨トノ間ニ甚シキ値開キヲ生シ多大ノ損害ヲナシタルモノ尠少ナラス
- 三、銅元 銅元又ハ銅子兒ト稱シ我國ノ銅貨ニ倣ヒ北京政府及各省ノ鑄造セルモノニシテ二仙、一仙

五厘ノ三種アリ一角以下ノ端數計算ニ用ヒラレ一角ニ付一仙銅元十個ノ割合ナリシモ十二個乃至十三個ヲ以テ計算セラレ主トシテ小賣商業ニ使用セラレ

四、制錢 我國ノ穴明キ錢ト同一ナリ土人之ヲ稱シテ分孔又ハ有眼錢ト云フ又制錢ト同形ニシテ私錢アリ私錢ハ長髮賊ノ亂ニ際シ民間ノ密造セルモノニシテ品質自ラ善惡アリ私錢ハ制錢ニ比シ形稍小ナリ

制錢ノ計算法ハ各地之ヲ異ニシ價格一律ナラサルモ通常左ノ三大別トスルヲ得ヘシ

- 一、百六十四個ヲ以テ一吊文トスル地方
- 二、百六十二個ヲ以テ一吊文トスル地方
- 三、百六十個ヲ以テ一吊文トスル地方

ロ、紙幣

中國銀行、交通銀行、東三省官銀號、黑龍江省官銀號、興業銀行、吉林官銀號、齊々哈爾廣信公司等ハ各々紙幣ヲ發行シ其他各店舖發行ノ帖子(手形)等各種流通シ居レリ

總テノ紙幣ハ銀元ヲ以テ兌換本位トシ發行シタルモノニシテ一角(一吊)、二角(二吊)、五角(五吊)、十角(十吊)、五十角(五十吊)、百角(百吊)又ハ一元(一圓)、五元(五圓)、十元(十圓)等ヲ單位トナス元來紙幣ハ銀元ヲ兌換本位トシテ發行シタルモノナル故硬貨トノ値開キナキ筈ナルモ各銀行共正貨準

備不充分ニシテ一々之カ兌換ニ應スル能ハス本來ノ性質ヲ變シテ不換紙幣ト選フナキニ至レリ故ニ紙幣ト硬貨トノ差ハ常ニ硬貨百元ニ對シ紙幣百十五元乃至百十元ナルモ中國銀行、東三省官銀號發行ノモノハ辛シテ同價ヲ維持シツ、アリ

吉林、黑龍江兩省ニ流通スル官帖ノ如キニ至リテハ暴落甚シク銀一元ニ對シ數年前ニアリテハ五、六吊ノ相場ナリシカ現今十五、六吊乃至二十吊ニ至ルノ狀況ニシテ實ニ危險ノ紙幣ト云フヘシ

B 外國貨幣

イ、日本貨幣

邦人ノ經濟的勢力發展ニ伴ヒ且ツ支那人間ノ信用厚キ爲メ日本貨幣ノ流通ハ延テ其數ヲ増スニ至レリ其流通區域ハ南滿鐵道沿線及鴨綠江沿岸ニ多ク使用セラレ其他日本人ノ取引上支那人間ニ費用セラレ南滿ニ於ケル外國貨幣中最モ多額ニ流通ス其種類左ノ如シ

日本銀行兌換券及補助貨、正金銀行金銀券、朝鮮銀行券及補助貨、圓銀及軍用手票

但シ圓銀及軍用手票ハ漸次回收セラレ流通極メテ少ナク圓銀ニ至リテハ殆ント市場ニ姿ヲ現ハサス軍用手票ハ五十錢以下ノ小札カ正金銀票ノ補助貨トシテ使用セララルルニ過キス

ロ、其他ノ貨幣

一、露貨 露貨ハ北滿ニ於ケル本位貨幣トシテ一般ニ使用セラレ流通範圍廣大ナリ蒙古ノ北部ニ於テ

モ近時使用セララルニ至レリ
北滿ニテハ元來支那官帖本位ナリシカ近年官帖濫發ノ結果相場ノ變動極マリナキヨリ漸次露貨本位ヲ採用スルモノ多キニ至レリ

歐洲戰爭ノ影響ハ露貨ノ暴落ヲ來シ經濟上ニ及フコト尠ナラス戰前一留ハ邦貨ニ對シ一圓二、三錢ナリシモノ現今ニ於テハ七十五錢乃至八十錢トナレリ

山東省内ニハ年々露領出稼苦力ノ持歸ル額少ナカラス故ニ錦州ニ於ケル確實ナル商取引ニハ主トシテ露貨ヲ使用ス

露貨ハ紙幣ヲ差帖、銀貨ヲ差錢ト稱ス其種類左ノ如シ

紙幣 五百、一百、五十、二十五、十、五、三、一留ノ八種

金貨 十五、十、七、五留ノ五種

銀貨 一留、五十、二十五、二十、十五、十、五哥ノ七種

銅貨 五、三、二、一哥ノ四種

二、墨銀其他 墨銀、香港銀等一時盛ニ流入シタルモ漸次減少シ現今ハ極メテ少ク北洋銀ト共ニ京奉鐵道運賃ニ使用セラル、ノミ此外上海、天津、北京等ニ於テ各外國銀行カ各其土地ノ通貨ヲ本位トシテ發行シタル弗札亦多少流通ス

C 特有ノ幣制

一、營口過爐銀 過爐銀ハ一種ノ信用ヲ交換ノ媒介ニ供シタル組織ニシテ實質ヲ具フル貨幣ニアラス換言スレハ元寶銀ニ對スル一種ノ定期債權即チ決算期ニ至リ銀爐ヨリ元寶銀ヲ受取ルヘキ權利ニシテ營口ニ於テハ貨幣ノ一種ニ代用セラレ重要視セララル

二、抹兌銀 營口ニ於ケル過爐銀ト同性質ノモノニシテ奉天ニ於テ使用セラル一定ノ成質ナク單ニ錢舖ノ記帖(振替勘定)ニ依リテ受授セララル銅銀ノ名稱ナリ

三、通貨ノ相場

通貨ノ相場

以上述ヘタル如ク滿蒙ニ流通スル通貨ニハ金銀ノ兩種アリテ市場取引價格ノ如キモ銀塊相場ノ高低及其他ノ原因ニヨリ變動極リナク且ツ各銀行錢莊(兩替店)等其建相場ニ多少ノ差違アリテ一律ナラス普通正金相場、正隆相場、市場相場、滿鐵相場、公定相場、海關相場ノ六種ニ區別スルコトヲ得

一、正金相場 正金銀行建相場ニシテ倫敦銀塊相場ニ基キ之ニ各種ノ情形ヲ加味シテ建ツルモノニシテ正金銀行滿洲各店ノ標準トスル處ノモノナリ其相場變動甚シキ時ニアリテハ一日二、三回建テ直スコトアリ

二、正隆相場 正隆銀行ノ建相場ニシテ同行ハ小銀貨ノ賣買ヲ爲スカ故ニ特ニ小銀貨ニ對スル相場ヲ建テ居レトモ金對銀ニ就テハ正金相場ヲ標準トシ別ニ相場ヲ建テス

- 三、市場相場 各地錢莊(兩替店)商務會等ニ於ケル建相場ニシテ錢莊及商務會等隨意定ムル所ニシテ各所相場ヲ異ニス其建相場タル多クハ吊文及小銀貨建ナリ
 - 四、滿鐵相場 南滿鐵道株式會社ニテハ銀ノ收支ニ際シ市場ノ建相場ニ係ラス同社特定ノ相場ニテ計算ノ標準トナス此相場ハ大體正金相場ニ準シ多少ノ斟酌ヲ加ヘラレタルモノナリ
 - 五、公定相場 關東都督府カ歳入歳出ノ整理ニ使用スル爲メ定メタル相場ニシテ在滿支金庫計算ノ標準トスル處ノモノナリ
 - 六、海關相場 關稅徵收ノ標準トシテ稅關ニテ定メタル相場ニシテ海關兩百兩ニ對シ銀百五十六圓八十仙ト定メ變動スルコトナシ
- 各種通貨ノ市場建相場ハ概ネ左ノ如シ(日本通貨金)
(百圓ニ對シ)
- 正金 銀 券 一〇七圓乃至一〇八圓
 - 小 銀 貨 一二三圓乃至一二五圓
 - 露 貨 一一五圓乃至一二五圓
 - 吉林 官帖 一、五〇〇吊乃至一、七〇〇吊
 - 黑龍 官帖 一、八〇〇吊乃至二、〇〇〇吊
 - 中國及交通銀行券 一二五元乃至一三〇元

金融機關

四、金融機關

イ、邦人經營ニ係ル金融機關

- 一、橫濱正金銀行 支店ヲ大連ニ出張所ヲ旅順、遼陽、奉天、鐵嶺、安東、開原、長春、哈爾濱ニ置ク
元來同銀行ノ業務ハ外國爲替ノ取扱ニアリト雖モ其本務ニ從事スルノ外一般銀行業務ヲ取扱ヒ又金銀兩券ノ發行店トシテ發行銀行ノ地位ニ立チ更ニ便利長期ノ特別貸付事務統轄店トシテ勸業、興業若クハ農工銀行ノ如キ特殊銀行ノ業務ヲ兼營スルノ現狀ニアリテ現今滿蒙ニ於ケル邦人發展ニ資スルコト大ナリ
- 二、正隆銀行 本店ヲ大連ニ支店ヲ營口、奉天、長春、旅順、開原ノ各地ニ置キ商業銀行トシテ一般業務ヲ營ミ日支商人ノ金融機關タル外關東都督府地方費ノ出納ヲ掌リ又貯蓄業務ヲモ取扱ヒ逐年發展ノ運ニ任シツツアリ
- 三、朝鮮銀行出張所 一般銀行業務ヲ取扱フ同行ハ開業日淺クシテ未タ見ルヘキノ成績ナシト雖モ將來ニ於テ發展ヲ見ルニ至ルヘシ
- 四、其他ノ銀行 南滿鐵道沿線重要市街ニハ邦人ノ經營ニ係ル銀行アリテ一般ノ銀行業務ヲ取扱ヒツツアリ

五、質屋及金貨業 滿蒙重要市街ニシテ邦人ノ居住スル處ニハ質屋及金貨業ヲ營ムモノ多シ一般ニ土人相手ニシテ相當ノ信用ヲ得利益ヲ占メツツアリ

ロ、支那人經營ニ係ル金融機關

一、東三省官銀號 本號ハ奉天財政總局ノ出資ニシテ純然タル官立銀行ナリ租稅其他官金ノ出納保管ヲ掌リ一般銀行業務ノ外質業及銀貨ノ鑑定ヲ兼業シ小銀貨及紙幣ヲ發行ス準備金ニ至リテハ兌換請求ニ應シ得サルノ狀況ニシテ一般ノ信用厚カラス

二、中國銀行 舊大清銀行ノ業務ヲ繼承シ洋錢票ヲ發行スルノ外創業日淺クシテ大ナル活動ヲ見サルモ中央銀行タルノ故ヲ以テ比較的信用厚シ紙幣發行者ニ對シ準備金少ナク前記東三省官銀號紙幣ト同一ノ事情ニ因リ信用厚カラス

三、黑龍江省官銀號 明治四十年十月ノ開設ニシテ資本洋銀三十萬元ト稱セラル洋錢票ヲ發行シ預金貸付、爲替等一般銀行業務ヲ營ム紙幣發行額、五十五萬元準備金、二十萬元ト稱スルモ亦確實ナラス前記二銀行ニ比シ信用最モ薄弱ナリ

四、奉天興業銀行 資本金百萬元ト稱ス實業振興ヲ以テ目的トシ一般銀行業務ヲ營ミ且ツ洋錢票ヲ發行ス其發行高百五十萬元以上ニシテ準備金四十萬元ト稱スルモ確實ナラス紙幣ハ信用薄シ

五、交通銀行 一般銀行業務ヲ取扱フ主トシテ官衙ニ貸付ヲナシ紙幣ヲ發行ス紙幣ハ信用薄キコトハ

上記各銀行ニ同シ

六、吉林官錢局 本局ハ吉林省管内ニ於ケル金融機關ノ首タルモノニシテ専ラ官帖ノ發行、貸付並ニ吉林省公金ヲ取扱フ所ナリ吉林省財政ノ窮乏ハ益々甚シク加フルニ貸出ノ不謹慎ニ因ル回收困難アリ整理其効ヲ奏スルニ至ラスシテ濫發ニ次クニ濫發ヲ以テシ遂ニ今日ニ及ヘリ發行總額ニ對スル準備金ハ不明ナルモ最近ノ調査ニ據レハ一億六十萬吊文ニ對シ準備金三百萬兩内外ナリト云フ

七、齊々哈爾廣信公司 本公司ハ黑龍江省ニ於ケル金融機關ナルモ其業務及一般信用狀態ハ前記吉林官錢局ト同シ尙ホ黑龍江省管内ハ露貨ノ信用厚クシテ殆ント露貨本位ノ感アリ

八、以上ノ外縣所在地タル市街ニハ各銀行ノ分號及私立ノ銀行其他錢舖(兩替店)質業等アリテ一地方銀行限リノ私票ノ發行貸付業務ノ取扱等小規模ノ金融ヲナシツ、アルモ蒙古未開放地方ニアリテハ何等金融機關ナシ

ハ、外人經營ノ金融機關

一、露亞銀行 露國人ノ經營ニ係ルモノニシテ東清鐵道會社ノ出納ヲ取扱ヒ兼テ内地ニ同工業及海外貿易上北滿ニ於ケル最要金融機關ニシテ内外人ノ信用厚シ南滿ニアリテハ大連、營口ニ北滿ニアリテハ東清鐵道重要地ニ支店ヲ置ク

二、香上銀行 外國人ノ經營ニ係ル唯一ノ銀行タリ爲替業務ノミニ從事シ預金ヲ取扱ハス大連哈爾濱

等ニ出張所ヲ設ク

三、第一、第二借款銀行 何レモ露國人ノ經營ニ係ルモノニシテ東清鐵道沿線重要地ニアリ株主ニ對スル貸出ヲ重ナル業務トシ兼テ露國內地ノ各銀行ト取引ヲナシ爲替其他一般銀行業務ヲ營ム兩銀行ハ組織同一ナルモ何等ノ關係ヲ有セス第二借款銀行ハ資本小額信用薄弱ノ故ヲ以テ業務振ハス

第十一 南滿洲ニ於ケル農事試驗成績

南滿洲ニ於ケル農事試驗成績

東蒙ノ地タルヤ由來肥沃ニシテ農耕ニ適シ之カ經營ノ有利ナルハ概ニ喧傳セララルル處ナリ然レトモ其土地タル日本内地トハ氣候風土ヲ異ニシ其品種收穫數量同シカラスシテ之カ經營ニ當リテハ研究ヲ要スヘキモノ甚タ多シ而シテ未タ蒙古ニ於ケル成績ノ特別ニ研究發表セラレタルモノナシ仍テ今東蒙ニ接壤シ其趣ヲ同フセル南滿洲農事試驗場ニ於ケル成績ノ概要ヲ述ヘテ之レカ參考ニ資セン

一、大豆 大正二年度公主嶺本場試驗成績ニ依レハ其收量最モ多キハ長春產ニシテ一段歩ノ收量一石五斗三升一合、公主嶺產之ニ亞キ一石四斗九升七合、四平街產又之ニ亞キ一石三斗二升、開原及昌圖產ハ最モ少量ニシテ共ニ一石一斗ニ過キス同三年度ニ於テモ長春產ノ品質最優良ニシテ收量亦最多ヲ示ス即チ一段歩ニ付一石八斗五升ナリ昌圖產ノ一石七斗七升、四平街產ノ一石六斗五升、開原產ノ一石六斗三升等之ニ次キ公主嶺產ノ一石六斗二升最モ少シ尙ホ昨年熊岳城分場ノ試驗ニ依レハ

收量ノ大ナル種類ハ黃豆、白角青豆、平項香、鐵角青豆等ナリト云フ

二、高粱 大正三年度公主嶺本場ノ成績ニ依レハ下二臺、雙廟子ノ產、品質優良ニシテ收量亦最モ多シ即チ下二臺產二石三斗八升、雙廟子產二石三斗ナリ鶯鶯樹產ノ二石三斗、八面城ノ二石二斗四升、黃穀緊穗ノ二石一斗九升等之ニ次キ黑穀矮身ノ一石九斗三升最モ少シ昨大正三年ニ於ケル熊岳城分場ノ成績ニ依レハ品質優良ニシテ收量多キ種類ハ黑穀蛇眼紅、牛芯樺子獲脖香等ナリ

三、粟 大正三年度公主嶺本場ノ試驗成績ニ依レハ各品種中最モ優良ナルハ白砂(粳)ノ反當收量二石八斗七升ヲ以テ第一トシ繩錦(粳)ノ二石六斗五升之ニ次キ、龍爪(粳)ノ二石六斗、青苗粘(粳)ノ二石四斗二升、黃(粳)ノ二石、五石取(粳)ノ一石九斗六升、大斗黃(粳)ノ一石九斗四升、窩里青苗(粳)ノ一石九斗二升等之ニ次ク而シテ同年熊岳城分場ニ於テハ秘時、混頂頭、五石取等其成績最モ優良ナリキ

四、陸稻 公主嶺本場ノ大正三年度試驗成績ニ依レハ其收量ノ大ナルハ灰稻ノ二石七斗三升鐵嶺產ノ二石六斗八升公主嶺產ノ二石一斗九升等ナリ

五、玉蜀黍 大正三年度熊岳城分場ノ成績ニ於テ「デントコーンホワイト」、大金頂、包米等優良種ト認メラレ夫々二石二斗乃至二石四斗ノ收量ヲ示セリ

六、小豆 大正三年熊岳城分場ノ試驗成績ニ依レハ紅小豆ノ收量最モ多ク一石一升ヲ示シ白小豆ノ九

斗五升之レニ亞ケリ

七、水稻 同分場ノ試験成績ハ早生大野(山形縣)ノ籾收量四石二斗二升、關山(秋田縣)ノ四石一斗八升、保村(東京)ノ四石六升等ヲ以テ優良品種ト認メタリ

八、甜菜 昨大正三年ノ公主嶺本場ニ於ケル試験成績ニ依レハ米國種「ホワイトシュガー」ノ根塊收量ノ九百四十七貫目ニシテ獨逸種「クライシワントレーベン」ハ千七百貫目ナリ而シテ其含糖率ハ最大數一二、九三%ナリ更ニ各國ノ甜菜反當收量ト含糖率トヲ比較スレハ左ノ如シ

國名	反當收量	含糖率	國名	反當收量	含糖率
獨逸	七八四	一五、四九	北海道	七九〇	一三、三四
佛蘭西	六三八	一五、〇二	朝鮮	八二七	一三、一八
露西亞	七四七	一二、八四	滿洲	三五〇	一三、〇〇
白耳義	三八一	一四、〇〇	滿洲	一、一〇三	一二、三九
	八〇五	一三、九七			

是ニ由テ之ヲ觀レハ南滿洲ハ大正三年滿洲一帶ニ降雨量多カリシ爲メ徒ラニ根莖大ニ失シ收量ノミ多カリシモ含糖率少カリキ然レトモ製糖原料トシテ最少限ト稱セラルル一二%以上ノ糖分ヲ含有シ純糖率又八〇%以上ニアルヲ見レハ栽培法其宜シキヲ得ルニ至ラハ更ニ優良ナルモノヲ生産スルハ敢テ至難ノ業ニアラサルヘシ

九、亞麻 南滿ニ於ケル亞麻ノ有望ナルコトハ大正二年度ノ公主嶺試驗成績ニ依テ世人ノ知ル處トナリシカ大正三年ノ試験ニ於テ更ニ其工藝作物タリ得ヘキコトヲ確證シタリ尙ホ製品ノ品質成績等ニ就テハ目下調査中ニ屬スレトモ大正三年ノ試験成績ハ左ノ如シ

品種	各反當收量	反當收量	品種	各反當收量	反當收量
ベルギー種	一六、二二〇	五四八・三	露西亞種一號	七、〇八〇	六七八・三
米國種一號	一八、二三〇	五七一・七	ベルギー種一號	一二、三二〇	六三三・三
米國種三號	一五、四七〇	六六九・二	在來種	一、三二四	五三七・一

右ノ成績ニ依ルニ乾莖ノ收量最モ多キハ「ロシア」種一號ニシテ米國種三號「ベルギー」種順次之ニ次ク然レトモ品質ノ點ニ至リテハ「ベルギー」種最モ優良ニシテ米國種一號同三號在來種等之ニ次ク而シテ乾莖平均收量ハ六百八斤ニシテ之ヲ本邦唯一ノ亞麻生産地タル北海道ノ五百九十四斤ニ比シ約十四斤ノ多量ヲ示セリ

十、薄荷 大正三年ニ於ケル公主嶺本場ノ試験ニ依レハ反當乾草收量ハ百五十三貫三百九ニシテ取卸歩合ハ一・二八%ナリ而シテ目下試験繼續中ニアリ

十一、其他ノ特用作物 大正三年熊岳城分場ノ成績ニ依レハ草綿中「キングススイリ」種ハ實綿收量二十二貫目「シンキングススイムブルー」種ハ十九貫ニシテ其適否ハ未定ナリ

大麻ノ收量最モ大ナルハ在來種ニシテ乾莖反當百十貫目ナリ其他大長種ノ八十貫野州種ノ七十七貫等之ニ次ク

落花生ハ立莖種ノ反當收量九石八斗三升八合ニシテ伏莖種ハ五石七斗五升六合ナリ

赤峰官民ノ親日的傾向

第十二 赤峰官民ノ親日的傾向

由來支那人ノ心裡ハ排日ナリト云ヒ親日ナリト云フモ是レ皆自己ノ利害ヨリ打算シタル御都合主義ノ排日又ハ親日ニシテ飽クマテ自己本位ナル彼等ハ自己ノ營利榮達ニ利益アリト思惟スル時ハ直ニ變シテ昨ノ排日ハ今日ノ親日トナル怪シムニ足ラサルナリ彼ノ熱河官憲ノ排日等ハ姜桂題ノ排日ヲ標榜スルコトニヨリ中央政府ニ對シ自己ノ位置ノ安固ヲ保タントスルモノニシテ即チ自己ノ利益ノ爲ニスル排日ニシテ其他ノ諸官憲又姜桂題ノ意ヲ迎ヘ自己ノ利益ヨリ打算シタル排日ニ外ナラス一般支那人ハ自己利益ノ前ニハ國家ナク朋友ナク親戚ナク父母妻子ナキコトハ已ニ識者ノ觀破セル所ナリ故ニ赤峰官民ノ親日モ同シク自己ノ利益ヨリ打算シタル御都合主義ニシテ敢テ奇トスルニ足ラスト雖モ眞ノ親日ヲ要求スル能ハサル支那人ニ向テハ御都合主義ニテモ親日ハ排日ニ勝ルト謂フヘシ
赤峰ハ數年前ヨリ邦人一、二名駐在シ又一時開店シアリタル所ナルヲ以テ市民ハ勿論官憲中ニモ御都合主義ノ親日派少カラス特ニ近來同地ノ開放モ近キニアラントシ利ニ敏ナル彼等支那人ハ開放後ノ收

益ヲ夢想シツツ一般邦人ニ親近セントスル傾向アルモノノ如シ同地ニ於テ排日派ノ主魁ト目セラレツツアリシ葉縣知事ノ如キモ近時邦人ノ時々同地ニ來ルト近ク同地ニ日本領事館設置セラレ日本兵三四十名駐屯スルニ至ルヘシ等ノ說ヲ信スルトニヨリ是レ亦自己本位ヨリ打算シタル御都合主義ナルヘキモ從來ノ態度全ク一變シ邦人ノ旅行、視察等ノ爲メ來往スル者アルニ際シテハ其旅宿ニ來訪シ又出發ニ當リ夕晚贈物(ビール、罐詰等)ヲ持參スル等眞ニ好意ヲ表シアルモノノ如シ既ニ知事斯ノ如ク其他ノ雜輩官憲亦勉メテ吾人ニ親近セントスルノ風アリ市民有力者亦同様ニシテ漸次親日ニ傾キツツアルハ疑ナキ所ナリ

第十三 滿蒙移住ニ就テ

滿蒙移住ニ就テ

抑、荒漠タル內蒙古ニ開墾ノ基礎ノ初メテ開カレタルハ清朝順治ノ頃ニアリ當時蒙民ハ猶ホ未タ悉ク遊牧ノ時代ニシテ青草ヲ逐ウテ東西ニ放浪シ悠々トシテ何等他ノ侵略ヲ受ケサリシカ當時支那内地ニ於ケル人口ノ充溢ハ其貧民ヲ驅ツテ生計ヲ異郷ニ求ムルニ至ラシムルモノヲ生シタリ而シテ内地ニアリテハ最下級ナル彼等貧民モ無智蒙昧ノ遊牧民間ニ在リテ其生活ヲ營ムニ容易ナルヲ知ルヤ彼等貧民移住ノ勢ハ滔々トシテ水ノ低キニ就クカ如ク又防壓ス可ラサルニ至レリ足一度南滿ノ地ヲ踏メル邦人ニシテ昌圖ヨリ長春ニ到ル列車ノ車窓遙カニ豐沃ナル平野ヲ望ミ高粱、大豆乃至ハ麥、粟ノ洋々トシ

テ繁茂スルヲ見ルモノ誰カ之ヲ蒙古地帯ナリト想像スルモノアランヤ何ソ計ラン此豐沃ナル平野モ僅ニ五、六十年前マテハ芳草一面ニ生茂レル牛羊馬群ノ放牧地ナラントハ蒙古開發ノ先鋒ハ官憲ニアラス富豪ニアラス實ニ流落零丁ナル支那流民ニ依テ基礎ヲ作ラレタルモノト云フヘシ今日尙ホ或ハ獨リ未ヲ負ヒ或ハ一輛ノ牛車ニ全家ヲ載セテ鄭家屯ヨリ洮南若クハ白音他拉ノ街道ヲ北進スル多數ノ勞働者若クハ移住民ハ實ニ當時ノ倂ヲ殘スモノニシテ西遼河及洮兒河一帶ノ地亦久シカラスシテ長春、昌圖附近ノ如ク豐沃ナル耕地ト化シ去ラントシツアルコトハ疑フヘカラサル事實ナリ

支那政府ハ乾隆以降漸ク移民ノ數ヲ増スニ及ンテ禁令ヲ下シテ之ヲ止ムルニ至リシカ清朝ノ末葉ヨリシテ時勢ニ鑑ミ邊疆防備ノ必要上益、開墾ヲ獎勵シ縣治ヲ布キテ漢民ノ便ヲ計リ漢蒙ノ雜婚ヲ許ス等諸種ノ方法ニ依リ便宜ヲ計レルヲ以テ益、移民ノ隆盛ヲ來スニ至レリ

此ノ如ク内蒙古特ニ哲里木盟一帶ノ地ハ其興安嶺山脈ニ屬スル一部不毛ノ地ヲ除クノ外農耕地トシテ適當ナルコトハ已ニ從來諸種ノ調査發表ニ徵スルモ明瞭ナルヘク今更喋々ヲ要セサルヘシ

我國ニ於ケル年々人口ノ増加ハ支那ノ其レヨリモ大ナリ而シテ其溢出ノ場所ヲ見出ササルヘカラサルノ必要ニ迫リ居ルハ支那ヨリモ更ニ一層急ナルヘシ而シテ如何ナル地方ニ之ヲ求ムヘキカ最モ手近カニシテ最モ容易ナル此滿蒙方面ヲ措キテ他ニアラサルヘシ今次締結セラレタル日支條約ハコレカ實現ノ曙光ヲ與ヘタルモノト謂フヘシ

開魯附近ノ狀況

第十四 開魯附近ノ狀況

概況

一、概説

イ、戸口

開魯縣管下全戸口ハ大正四年一月現在左ノ如シ

人口	縣城	一、五四二	縣下	一〇、〇三二	合計	一一、五七四人
戸數	縣城	二五七	縣下	一、九九四	合計	二、二五一戸

ニシテ本人口ニハ軍隊及巡警、期節勞働者ヲ含マス又大正四年三月以後ニ於テ人口約二割ヲ増加セリト云フ

ロ、季節勞働者數

叙上人口ノ外季節勞働ヲ目的トシテ南方關裡地方ヨリ來ル處ノ春來、秋歸ノ出稼人アリ其數ハ約七百人ニシテ彼等ノ過半ハ農業時期ノ結了ト共ニ歸去ス

ハ、面積及耕地積

開魯縣ハ光緒三十三年ノ奏請ニ依リ東、西札魯特、阿爾科爾沁三旗ノ南部一萬三千頃ヲ開放セシ土地ニシテ開放ト共ニ荒務局ヲ設ケ一萬三千頃中ヨリ水窪、砂沱地ヲ除キタル可耕荒地八千頃(約我四萬八

千町歩ノ拂下ニ著手セシモノナリ
丈量ハ一畝ヲ二百四十弓(一弓ハ我五尺二寸平方ナリ)トシ一晌ヲ十畝一頃ヲ百畝ト定メ之ヲ地質ノ肥
瘦ニヨリ等級別トシ上中下ノ三トナス即チ

上地ニ屬スルモノ 約 一、六〇〇頃
中地ニ屬スルモノ 同 二、八〇〇頃
下地ニ屬スルモノ 同 三、六〇〇頃

而シテ此拂下地價ハ之ヲ改正スルコト三度ニ及フ即チ一頃地左ノ如シ

等級	光緒三十三年地價	光緒三十四年地價	民國二年度地價(現地)
上地	七〇	六二	四二
中地	五〇	四〇	二四
下地	三〇	二〇	一〇

其他城基(市街地)及屯基(村落地)ヲ設定シ之ヲ正副ノ兩地トナシ城基地價ハ一畝正地四兩副地三兩ト
ナシ地租ハ第三年度ヨリ徵收スルモノトシ每頃上地三兩中地二兩下地一兩ト定ム
開放後五年間ハ地味ノ豐沃ナルト地價ノ低廉ナルトヲ以テ資本家ノ投資ヲ促カシ農商相次テ來リ形勢
頗ル新進ノ氣運ニ充實セシモ民國元年十月蒙人ノ反黨一時占領スル所トナリ住民狂奔四散シ全市悉ク
兵燹ニ包マレタリ同二年漸ク之ヲ回復シ得タリト雖モ墾務書類ハ皆火舌ノ甜ムル所トナリ情形全ク不

物資集散
概況

明ニ歸シ暗中探物ノ嘆ヲ來シ開墾事業ハ一時全ク挫折ノ止ムナキニ至レリ
其後再ヒ墾務局ヲ設ケ令シテ土地所有者ノ地契ヲ登録シ紛失者ハ證人ヲ具シテ地券ヲ證明セシメ或ハ
又委員ヲ地方ニ派シテ調査セシムル等善後ノ辦法ヲ商量セシモ未タ幾何ノ進捗ヲ見ス目下ニ於ケル既
拂下地及農耕地ハ

既 墾 地 一、四二八
未墾地(拂下未墾地) 二、七七六
未拂下地 三、七八六
計 八、〇〇〇頃

二、物資集散概況

イ、農產物

(1) 產出額

開魯縣下ニ於ケル產出額左ノ如シ

種類	作付歩合	總面積	一畝收穫量	總收穫量
高粱	三八	五四六	五	二七、三〇〇
粟	二五	三六〇	四・五	一六、二〇〇
瓜子	八・五	一二二	三	三、六六〇
糜子	七・五	一〇八	四・五	四、八六〇
豆类	八・五	一一五	三	三、四五〇
蕎麥	五	七二七	四	二、八八〇
總計				八五

小麥	包米	白麻	葱	其
一五	〇八	〇三	〇四	〇五
七二	一四	一一	五	七
二、一六〇	四二〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇

當地一斤ハ我百四十クニニ石ハ我一石九斗ニ相當ス

(2) 農作物播種、收穫期及播種量

高粱	粟	糜	瓜	豆	蕎麥	麥	麻	白	葱
播種期	播種期	播種期	播種期	播種期	播種期	播種期	播種期	播種期	播種期
穀雨(舊三月八日)ヨリ立夏(三月二十三日)前後	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期	收穫期
秋分(八月十六日)前後	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
播種量	播種量	播種量	播種量	播種量	播種量	播種量	播種量	播種量	播種量
三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四	三、四

- 一、本表ハ陰曆ニヨル
- 二、白菜及葱ハ二毛作ヲナスヲ得ヘク其時期ハ後節ニ記載セルヲ以テ之ヲ略ス

(3) 消費額

イ、食料

一、當地方現在人員即チ縣下住民、軍隊、巡警、出稼人(三月ヨリ十二月ニ至ル)等ヲ合シ約一萬五千五百人トシ之レカ老若男女一人一ケ年平均食料高ヲ雜穀一石八斗ト假定スレハ二七、七〇八石トナルヘシ

今此需要高ヲ産額ノ割合ニ照シテ按分スレハ即チ左ノ如シ

種類	割合	食料高	摘要
高粱	四〇	一一、〇八三	高粱ハ飯又ハ粥トナシテ食ス
粟	四〇	一一、〇八三	同
麥	九	一、一〇八	粉ニ磨キテ饅頭及餅トシテ食ス
蕎麥	四	二、四九四	磨シテ粉トナシ麵ニ作りテ食ス
糜	五	一、三八六	支那人ハ粟ト同シク乾飯又ハ粥トナス
包米	二	五四	之ヲ攪割リ小豆、綠豆ヲ加ヘ粥トナシ又ハ之ヲ粉トシ餅ニ蒸シテ食ス

ロ、飼料

第十四 開魯附近ノ狀況

(a)、馬 當地方ニテハ馬糧トシテ高粱ヲ用キルヲ常トス今飼養馬數ニ對スル馬糧ヲ計上スレハ左ノ如シ

種類	頭數	飼料額
耕馬	一、五七九	一年 三石
軍馬	五〇〇	一日 一升
巡警	一〇〇	同
其他	二〇〇	同
計		七、六一七

(b)、牛 牛ニハ黃豆又ハ黑豆ヲ與フルモ當地方ニテハ專ラ黑豆ノミトス普通農家ニ於テハ一ケ年一頭ニ對シ約五斗ナリ即チ之ヲ牛數三、六二七頭ニツキ計上スレハ約一、八一三石ノ黑豆ヲ要スルモノトス

(c)、驢及騾 馬ト同シク高粱ヲ飼料トナシ一ケ年一頭約一石五斗トス即チ其總數ニヨリ計上スレハ左ノ如シ

驢	一、八四三頭	二、七六四石
騾	一〇七頭	一三二石
計	一、九五〇頭	二、八九六石

(d)、製造原料 當地ニ於テ製造用トシテ消費セララルモノ左ノ如シ

種類	總額	摘要
高粱	一、三〇〇石	燒鍋カ釀造用ニ使用ス
小麥	五〇〇	燒酎製造ノ糶ニ混ス
小豆	五〇〇	燒酎製造ニ用フ
黃豆	二二三	味噌ノ製造原料ニ用フルモノニテ其割合ハ二十人ニツキ一年約三斗トシ一萬五千五百人分ヲ計上セリ
綠豆	七七五	粉條子ノ製造原料ニシテ一人一年約五斤ノ粉條子ヲ食スルモノトシ又一石ヨリ約百斤ノ粉條子ヲ得ルモノトシ計上セリ

前產出額ト消費額トノ差即チ剩餘品ハ之ヲ他ニ輸出スルコトヲ得ル數量タルヘク本年度ニ於ケル輸出ノ豫想左ノ如シ

種類	小	白音他拉、鄭家屯	蒙地	合計
高粱	五〇〇石	三、六〇〇石		四、一〇〇石
粟	三二〇	三、七七〇		四、〇九〇
糜子	一、二〇〇	二、三三〇	三、二〇〇	三、二〇〇
瓜子	一、三〇〇	三〇〇		三、五七〇
小豆	三〇〇	二〇〇		四三〇
麻豆	三〇、〇〇〇斤	二一、五五〇斤		五一、五五〇斤

一、穀物ノ輸出時期ハ之ヲ第一期(自十一月至三月)第二期(自四月至七月)第三期(自八月至十月)

ノ三期ニ分ツヲ得ヘク其輸出ノ比例ハ七、二、一ノ割合トナス
但シ白音他拉ヘノ割合ハ八、二、〇トス

二、本表ハ大正四年四月以降ニ於ケル當地徵稅局ノ輸出課稅額ヲ按照セリ

ロ、畜產物

開魯ニハ未タ畜產物取引ノ曙光ヲ見ルニ至ラス阿爾科爾沁、東、西札魯特地方ヨリ輸出スル畜產物ハ課稅ヲ恐ルルカ故ニ當地ヲ通過セスシテ直接義州又ハ鄭家屯市場ニ赴クヲ以テ其輸出額ヲ知ル能ハス暫ク之ヲ後日ノ調査ニ俟タントス

ハ、輸入品

當地輸入品ノ經路ハ之ヲ三大別スルヲ得ヘシ即チ(一)營口、新民屯又ハ奉天ヨリ小嘩倫ヲ經テ輸入セラルルモノ(二)鄭家屯、白音他拉ヨリ輸入セラルルモノ(三)蒙地ヨリ輸入ニ係ルモノ是レナリ内前二者ニ由ル貨物ハ布疋、雜貨、鐵器等ノ内外製品ニシテ蒙地ヨリノモノハ食鹽及皮類トス

商業

三、商業

當地ノ商業ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セスシテ他地方ニ於ケルカ如キ整然タル分業制度ヲ見ルニ至ラス其商賈ハ主トシテ雜貨店ニシテ洋貨、京貨、山貨、磁鐵器等日用凡百ノ貨物ハ悉ク此種商店ノ取扱フ所ナリ而シテ其數ハ大小五十餘戸ノ多キニ達スト雖モ其小ナルモノニ至リテハ僅ニ二、三零碎ナル商品ヲ

販賣スルニ止リ是ニ商店ノ名ヲ付スルヲ躊躇セサル能ハサル程度ノモノアリ其稍、大ナルモノト雖モ只管小嘩倫及各地ノ本店ニ依頼シ未タ固定セル地盤ヲ有スルモノ稀ナリトス當地ニ於ケル商賈別ヲ示セハ左ノ如シ

種類	戶數	摘要
雜貨舖	五	概ネ小嘩倫ヨリノ分行ニ係ル
藥舖	四	錦州義州等ヨリ分派セルモノナリ
棧店	一	目下休業中
燒鍋舖	二	昨年以來休業中ナリシカ近々其一班子ヲ再興スヘシ
飯店	二	概ネ四五十間ノ房子ヲ有シ何レモ二十人以上ヲ收容シ得
飯館	二	
鞍舖	二	
成衣舖	四	
肉舖	五	其下ニ工人五六人ヲ有シ泥工ヲ兼請買ス
瓦盆舖	一	一班(磨)個ヲ有シ一日百五十斤内外ノ作業力アリ
柳罐舖	八	
木匠舖	八	
磨坊舖	二	
羅圈舖	一	小嘩倫ヨリノ出張員アリ
皮匠舖	三	
鐵匠舖	三	

當地ニ於ケル主ナル商店、業種、資本高等左ノ如シ

商店名	業種	本店所在地	資本金	賣上高	店主又ハ掌櫃の氏名	年齢	籍貫	總計數(店員)
體泉	燒鍋	本街	一、二〇〇元		孫桂垣	三八	蓋平	一
啓祥	燒鍋	同			買濟川	三八	同	二
萬和	雜貨行	同	五、〇〇〇	二五、〇〇〇	李萬年	三七	梨樹縣	五

第十四 開魯附近ノ狀況

運搬具及
運賃

開魯縣下ニ於ケル運搬具左ノ如シ

四、運搬具及運賃

裕豐昌	雜貨行	小輝倫	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	楊樹德	五二	三
萬順增	同	同	四、五〇〇	二五、〇〇〇	石耀廷	三二	五
同合永	同	同	三、五〇〇	一五、〇〇〇	李菓崗	三五	三
寶恒永	同	同	六、〇〇〇	三〇、〇〇〇	趙振聲	五〇	五
公玉隆	同	同	三、〇〇〇	九、〇〇〇	湯瑞臻	三四	三
永和盛	同	同	九〇〇	二、〇〇〇	買興慶	三九	二
同發合	同	同	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	楊春岡	五一	三
謙恒益	同	同	二、〇〇〇	八、〇〇〇	王允恭	三四	二
義泰長	同	同	四、〇〇〇	二〇、〇〇〇	張裕民	三七	州
北盛隆	同	本街	三、〇〇〇	一五、〇〇〇	李茂林	三二	五

各車輛一日ノ行程ハ冬季結氷期ニ於テハ大車百支里、轎車百二十支里ナリト雖モ其他ノ季節ニハ大車

種類	縣城車輛數	縣下車輛數	合計	冬季積載量	夏季積載量
大車	五四	二七〇	二七四	二千斤乃至三千五百斤	五百斤乃至一千五百斤
牛車	四〇	一〇〇	一四〇	五百斤乃至一千斤	二割減
木頭車	一	三六〇	三六〇	二百斤	二割減
轎車	三	一	四	千斤	二割減

六七十支里轎車八、九十支里ヲ普通トス
其運賃率次ノ如シ

地名	冬季運賃	積載量	夏季運賃	積載量	備考
鄭家屯	二元	四、〇〇〇斤	三元半	一、五〇〇	積載量ハ七頭曳大車トス
赤峯	三元	四、〇〇〇斤	五元	一、五〇〇	同
小輝倫	八十仙	一、〇〇〇斤	一元二十仙	五〇〇	大手車トス

雜貨運賃ハ件建ニシテ一件ハ百二十斤乃至百斤トシ穀物ハ石建又ハ麻袋建ナレトモ普通百斤建トナス
開魯、小輝倫間ノ交通ハ夏季ニ於テハ驢馬ヲ用ヒ秋末ヨリ牛車ヲモ使用ス、驢馬ハ毎月二回ツツ二十頭
内外ヲ一團トシテ來往スルモノトス

五、家畜數

開魯縣下ノ家畜現在總數左ノ如シ

種類	馬	牛	豚	羊	鷄	驢
縣城	二三四頭	二〇頭	三〇〇頭	三〇〇頭	五〇頭	二〇頭
縣下	一、〇五九	二、五〇七	二、八〇〇	三、〇〇〇	四、三〇〇	二、七六四
合計	一、二九三	二、五二七	三、一〇〇	三、三〇〇	四、八一〇	二、七八四

一、以上ノ外ニ百七頭ノ騾ト二頭ノ駱駝トアリ

二、旗下ノ蒙古人ハ開魯縣開放ト共ニ移リテ縣外ニ去リ僅ニ六家子ノ一村落ニ其寥々ヲ止ムルノミ
 從ツテ牧畜トシテ何等見ルヘキモノナキモ只羊ノミハ飼養ノ容易ナルカ爲メ往々之ヲ飼フモノアリ

六、野菜

開魯縣城ニ於ケル狀況左ノ如シ

種類	畝數	一畝收穫高	總數	播植期	收穫期
白菜	四〇	二、〇〇〇斤	八〇、〇〇〇斤	三月下旬	五月
葱	四〇	一、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三月下旬	五月
韭菜	一五	一、五〇〇	二二、五〇〇	三月下旬	五月
大根	一〇	一、五〇〇	一五、〇〇〇	白菜ト同シ	五月
茄子	二〇	二、五〇〇	五〇、〇〇〇	四月下旬	七月
馬鈴	四	一、五〇〇	六、〇〇〇	四月下旬	七月
蕃薯	二〇	五〇斤	一、〇〇〇斤	四月下旬	七月
其他	二二	五〇斤	一、一〇〇斤	四月下旬	七月

七、人夫

當地方ニ於ケル勞働者ハ之ヲ大別シテ常備及臨時備ノ二トナスヘシ其概數及徵用シ得ヘキ數左ノ如シ

種類	勞働者數	徵用可能數	摘要
常備	二、九〇〇	一、四五〇	常備八十頃地ニ約二十人ノ割合ヲ有ス、而シテ其中ニハ豚追ヒ、馬夫賄方等
臨時	七〇〇	六〇〇	臨時業務ニ從フモノアレハ之ヲ除キテ約半數ヲ徵用シ得
合計	三、六〇〇	二、〇五〇	臨時備ハ農事繁忙期又ハ家屋ノ建築等ニ際シ臨時手不足ヲ補ハシカ爲メ雇

一、臨時備勞働者ハ春來秋歸ノ季節勞働者ニ係ルヲ以テ十一月未ヨリ翌年二月ニ至ル間ハ歸去スル
 モノ多ク常備者中ニモ亦歸國スルモノアリ從ツテ此時期ニ於テハ勞働者數ハ著シキ減少ヲ來スモ
 ノトス
 二、土人ノ言ニ據レハ冬期以外ニ於テハ城内ノミニ於テモ約二百人ノ勞働者ヲ隨時徵用シ得ヘシト
 云フ

八、開魯縣下ニ於ケル民間有力者

氏名	年齡	籍貫	住所	城內ヨリノ 方向距離	在住年限	職業	財產額	備考
胡振剛	三一	建平縣	胡家崗	四二十支里	八年	農	一〇、〇〇〇元	百家長
胡振水	三〇	同	同	同	同	同	六、〇〇〇	同
葉春	五一	朝陽	札羅營子	同	同	同	八、〇〇〇	十家長
魏海	四八	赤峯	同	同	同	同	六、〇〇〇	同
王君運	五二	建平	同	同	同	同	五、〇〇〇	同
劉錫立	三八	綏東	同	同	同	同	九、〇〇〇	同

第十四 開魯附近ノ狀況

白音他拉ノ狀況

一般狀況

第十五 白音他拉ノ狀況

一、一般狀況(第四白音他拉市街圖參照)

白音他拉ハ蒙古人ノ稱スル小街基ノ地名ニシテ蒙語ニテ「富ミタル平野」ノ謂ナリ支那人ハ蒙匪變亂後小街基ノ西方約五百米ニ大街基ト稱スル市街ヲ建設シ之ヲ通遼鎮ト呼ヘリ鄭家屯ヲ距ル二百四十支里「モリ」廣ヲ距ル六十支里博王府ヲ距ル百二十支里ニ位置ス附近ハ西遼河沿岸ノ地味肥沃ナル平野ナルヲ以テ將來ノ發展上極メテ有利ナル狀態ニ在リ元來此地ハ大正元年八月希照王府(卓理克圖王府)カ荒務局ニ拂下ヲナシタルニ基因シ建設日尙ホ淺キモ天然ノ沃野ト其地理的位置ノ良好ナルトハ其發展ヲ著シク助長シ今後數年ヲ出テスシテ鄭家屯ヲ凌駕セントスルノ狀態ヲ示シツツアリテ西遼河沿岸ニ於ケル最モ重要ノ地トス

二、通遼鎮行政區域

通遼鎮ハ遼源縣ニ屬シ警察分區及捐稅局アリ其管轄區域ハ大街基ヲ基街トシテ東方ハ六道木(村名)ヨリ東北方孔家窩棚ニ亘ル八十支里西ハ餘糧堡ヨリ西南胡家園子、莫里店附近ニ到ル七十支里南ハ花鄧堡ニ至ル五十支里北方ハ遼河沿(村名)ヨリ西北溫都花ヲ經テ安心店ニ到ル六十支里トス其管内ノ村落ヲ四區ニ區分シ各區ニ巡警ヲ配置シアリ

人口及戸數

三、人口及戸數

大正四年六月下旬ノ調査ニヨレハ管内ノ戸數二、二六六、人口一四、一〇二ニシテ右ノ内大小街基ノ戸數人口ヲ示セハ左ノ如シ

戸數	人口
四三五	二、三三四

以上ハ客年六月下旬ノ調査ナルヲ以テ現今ニ於テハ尙ホ増加シツツアルハ勿論ナリ而シテ大正三年六月ノ戸數二百人口一千ナリシト云ヘハ如何ニ其發展ノ盛ナルヤヲ推知スルニ難カラサルヘシ

四、大小街基ノ狀況

大小街基ノ狀況

大街基ハ東西ニ通スル三道ト南北ニ通スル一道トヲ主ナルモノトシ小街基ハ東西ニ通スル二道ト小街一道トナリ大小街基ノ地積ハ九方地ニシテ大街基ハ大正三年以來開設セラレ主要大街ハ東西ニ通スル三道中ノ中央ニ位置ス

大街基ハ日々家屋ノ増築セララルアリ貨物ノ出入稍、盛ナルモ小街基ハ家屋ノ新築セララルモノナク且ツ空家多ク借家料ハ大街基ニ比シ約一割低廉ナリト云フ蓋シ官憲ニ於テ小街基ニハ家屋ヲ新築スルコトヲ禁シ一意大街基ノ發展ヲ企圖シツツアルヲ以テナリ

目下日々此地ニ往來スルハ蒙古人三分支那人七分ノ割合ナリ以テ支那人移住ノ景況ヲ推知スルコトヲ得ヘシ

大街基中央道ハ大商店多ク其商品ハ蒙古人トノ取引ヲ主トセルモノニシテ各店共著ルシキ品種ノ差ナシ而シテ其商家カ奉天ノ者多キハ東三省實業公司ヲ奉天ニ設置シ其出張所ヲ此地ニ有スルニ關係アルモノノ如シ

官公所

五、官公所

- 通遼鎮警察分所
- 歩兵第七營(吳統領ノ管轄)
- 卓理克圖王府管帶官蒙古人取締所
- 捐稅局

六、主ナル商家ト其財産額並ニ小商店

- | | | | | |
|-----|-----|-------------------|-----|---------------------|
| 裕盛當 | 隆興玉 | 東太興 | 福興恆 | 義合永 |
| 和興 | 福盛合 | 永盛隆(牛馬千ヲ有シ牧畜業ヲ兼ス) | 復興泉 | 發元大 |
| 寶興元 | 天發東 | 燒鍋ヲ經營ス | 發源湧 | 連盛長(市街ニ約二百餘間ノ貸家ヲ有ス) |
- 各土地十萬地ヲ有シ商業以外農業ヲモ經營ス

主ナル商家ト其財産額並ニ小商店

以上ハ何レモ財産十萬元以上ヲ有シ綿布其他ノ吳服、葉煙草、陶器類、雜貨及穀類ヲ以テ商品トス其他小商店ハ大小街基ヲ合シテ約二百餘戸ヲ算シ茶舖、藥舖、書籍舖ノ外ハ概ネ大商店ト同一ノ商品ヲ販賣ス

特殊ノ店

七、特殊ノ店舖數

- | | |
|----------|--------------------------------------|
| 煉瓦製造所 | 二戸 |
| 鍛冶工(錢匠舖) | 八戸 |
| 木工(木匠舖) | 十二戸(内荷車専門五戸、箱、戸棚、机等ノ製造四戸家具、桶類一戸其他一戸) |
| 鞋舖 | 三戸 |
| 毡子舖 | 三戸 |
| 皮舖 | 五戸 |
| 縫工(成衣舖) | 五戸 |
| 燒鍋 | 二戸 |

燒鍋ハ大街基ニ發源湧小街基ニ天發東アリ發源湧ハ蒸溜釜三個、天發東ハ二個ノ設備アリ大正四年初夏迄ハ三個アリシモ一戸ハ協同事業ニシテ且ツ資本ハ負債ヲ以テ充當シタル爲途ニ解散スルニ至リシナリ發源湧ハ鄭家屯ニ於ケル陳錫武(少將)五萬元ヲ出資シ吳統領所要ノ家屋ヲ建築シ協同出資ニテ經營シ居ルモノニシテ現今販路益々擴張シ事業ノ發展ヲ見尙一個ノ蒸溜釜ヲ増加スル爲メ煙突ノ築設ニ著手セリ

第十五 白音他拉ノ狀況

製粉場(磨坊)

十六戸

1011

小規模ニシテ石臼一個又ハ二個ヲ驢馬ニテ挽カシメ一日ニ蕎麥又ハ小麥五斗乃至一石ヲ製粉シ得ルニ過キス多クハ小穀物商ノ兼業ナリ

蕎麥一石(三百五十斤)ヲ粉ニスレハ三百二十斤ヲ得一斤三角五分

小麥一石ヲ粉トスレハ二百六十斤ヲ得一斤ノ價格銅子兒拾錢ナリ而シテ外ニ鉄子五斗ヲ出シ其鉄子ノ價格ハ一斗五角ナリ

旅館(客棧)

七戸

天合棧、復昌店、順興棧、福興恒、德隆棧等ヲ主ナルモトス内天合棧ハ旅客、馬車夫、田舎ヨリ來ル客多ク能ク百人ヲ收容スルコトヲ得ヘシ而シテ旅館ニ最モ客多キハ十一月下旬ヨリ十二月ニ亘ル期間ナリト云フ

飲食店

二十二戸(各店共小ナルモノニシテ大ナルモノナシ)

兩替店

一戸(露店ナリ)

湯屋(洗澡堂)

一戸(大根基ニアリ第七管管官張凱文經營ニシテ一萬元ヲ出資シ管理人ハ部下ノ兵ナリ)

商品

八、商品

商品ハ殆ント支那内地ノ製品ニシテ外國品ヲ見ルコト少ク日本製品ハ食器類(陶器、瀬戸引鍋)化粧品(香油、齒磨粉、石鹼類)及煙草(朝日、ハネビー、スター)ノ少量ニ過キス

商習慣

九、商習慣

各商店同業者ノ取引ハ現銀買賣ハ殆ント行ハス相互ニ物品ノ融通ヲ行ヒ一ケ年三回(舊曆五月、八月、十二月)之カ精算ヲナス又中以下ノ商店ニ在リテハ滿鐵沿線ヨリノ出張店若クハ支店ノ外貨物仕入期

ニ於テモ大商店ニ依頼シテ貨物ヲ借受ケ取次商ヲナス故ニ鐵道沿線又ハ營口方面ヨリ直輸入ヲナス商店ハ五、六戸ニ過キス而シテ是等小商店ノ代價支拂ハ三節ノ外穀物家畜等ノ臨時入手シタル時ニ於テスルヲ例トス

市民一般ノ取引モ一元内外ノ小賣ノ外ハ多クハ掛賣ニシテ若シ開墾地々方ノ移住民五元以上ノ物品ヲ購買セントスル時ハ地主等ノ紹介ニヨリテ信用アル商店ニ於テスルヲ普通トス

蒙古人モ亦少額ノ物品ハ現銀ヲ仕拂フモ家畜又ハ生皮ヲ携帶シ來リ多額ノ物品交換ヲ行ハントスル時ハ財主ノ紹介ニヨルカ信用アル商店ニ就テ購求スルヲ常トス

狀況此ノ如クナルカ故ニ商家ハ殆ント現銀ノ收入ナク爲メニ市中流通銀ノ乏シキヲ常態トス

商業地トシテ有望

然レモ一般ニ同一狀況ナルヲ以テ敢テ現銀ノ必要ナク且ツ薄利多賣ノ必要モナキモノニシテ從テ物價高キハ止ムヲ得サルコトトス此狀態ハ附近ノ土地ニ於ケル農業ノ大發展ヲ見農民富裕トナルニ至レハ或ハ變化ヲ來スナランカ今若シ大資本ヲ有シ大商店ヲ開設シ品質良好ニシテ廉價ナル物品ヲ供給シ農民及蒙古人ノ顧客ヲ吸收シ更ニ進ンテ金融機關ヲ設置スルニ至ラハ此地商業界ニ於ケル牛耳ヲ執ル敢テ難キニアラサルヘシ

唯蒙古人ヲ顧客トスル商業ニ於テハ賣上金ノ回收意ノ如クナラサルコトニ注意シ且ツ豫メ覺悟セサルヘカラス即チ農民ハ其收穫期マテ牧畜業者ハ約束ニ基ク數ヶ月ノ後ニアラサレハ代金ヲ入手シ得サル

ナリ又賣上價格百元ニモ達スル場合ニ於テハ單簡ナル接待ヲナスノ習慣アリ然レモ是等ハ大資本ヲ利
用シ賣買ノ原價ヲ可及的低廉ナラシムルノ手段ヲ講シ且ツ暴利ヲ貪ラサル如クスルニ於テハ廉價販賣
ハ敢テ實行困難ナラサルヘシ

各種傭人
職工給料

十、各種傭人職工給料

- 通常ノ商店員 一箇年二十元乃至百元一日二食ニシテ高粱、粟ヲ常食トシ一箇月二回肉及麵粉ヲ給ス衣類ハ各自辨トス
 - 客棧ノ傭人 一箇年帳場八十元外廻リ(外櫃)四十元乃至六十元 厨子三十元乃至五十元、苦力四十元、ボーイ十五元
 - 鍛冶職工 一ケ年四十元乃至五十元、食料ハ主人持(一ケ年約五十元)
 - 木工(大工ヲ除ク) 一ケ年四十元乃至六十元、食料ハ主人持
 - 鞋職工 一ケ年五十元、食料ハ主人持
 - 毯子職工 一ケ年二十五元乃至四十元
 - 縫工 一箇年裁チ方、ミシン方ヲ受持者百元乃至百二十元 一箇年手縫ノ者六十元乃至八十元
 - 大工 一日七角半三食ヲ雇主ニテ給スレハ五角
 - 左官職 大工ニ同シ
- 十一、借家料
- 平房ニシテ總壁子建築ノモノハ一間房一ケ年二十五元ヲ普通トス而シテ此家賃支拂方ニ三種アリ(一)

借家料

一ケ年ヲ二期ニ分チ(舊二月、八月)先拂トシ(二)一ケ年分先拂トシ(三)一ケ月先拂トス此内(二)ハ低廉ナリ

半煉瓦半壁建築(白音他拉ニハ此建築多シ)ノ平房ハ位置ニヨリテ差アリ大街道ニ在リテハ一ケ年一間房七十元後街又ハ小街ハ其約半額トス

借地料

十二、借地料

借地ヲナシテ家屋ヲ建築スレハ一田地ニ付キ一ケ年四元(上地)ナルモ現時ハ此ノ如キ借地料ヲ以テハ借地スル能ハス通常一田地六十元内外ニテ契約シ其借地料ヲ現銀ニテ支拂フコトナク六ケ年又ハ八ケ年ノ後家屋ヲ地主ニ引渡ス如クスト云フ

十三、街基ニ於ケル宅地ノ價格

左ノ價格ハ一號地(間口十丈奥行六十丈、我約千六百五十坪)ニ就テ示スモノトス

- 大 街 基 一等地(中央街全部) 二千六百元
- 後 街 二千五百元
- 小 街 基 一等地(街基中央) 千三百元
- 後 街 千五百元

此宅地ノ賣買ハ旅館ノ主人番頭等其口入ヲナスモ是ヲ專業トナス者ヲ姚濟三ト稱シ小街基ニ住居ス

十四、運賃

鄭家屯—白音他拉間ノ車馬運賃ハ夏季道路不良ノ場合ニ於テハ穀物一石ニ付三元ヨリ三元五角冬季ニ

運賃

在リテハ二元ナリ穀物一石（我一石九斗五升）ノ量ハ平均四百斤ナルヲ以テ大車一臺ノ積載量ハ夏季六、七石冬季十石トシ形狀大ナル箱類又ハ破損ノ恐レアル貨物ハ一割ヲ増加シ木材ハ穀類ノ倍額トス開魯—白音他拉間ハ夏季雜穀百斤ニ付キ一元四角餘冬季ハ八角内外トス

通貨

十五、通貨

イ、種類 流通貨幣ヲ分チテ左ノ六種トス

大洋 銀 奉天省造ノ元寶ノミナルモ殆ント之ヲ見ス
小洋 銀 二角一角ノ二種ナリ

銅貨(銅子兒) 二錢、一錢ノ二種ナリ

制錢(穴錢) 殆ント見ス偶、銅子兒ノ剩錢ニ使用セラルルノミ

官帖 東三省官銀號及中國銀行兌換券ニシテ一百角、五十角、十角、五角、二角、一角ノ六種トス

市帖 一私帖ニシテ券面ノ額ト小洋銀トノ計算左ノ如シ

三十三吊	小洋銀	五元	二十六吊四百	小洋銀	四元
十九吊八百	同	三元	十三吊二百	同	二元
六吊六百	同	一元	三吊三百	同	五角
交換率					

大洋銀	一元	小洋銀	一元二角
同	一元	銅子兒	七吊九百二十
同	一元	小洋票	一千三百二十文
同	一元	市帖	一元二角
同	一元	銅子兒	一元三角
小洋銀	一元	制錢	百十文
同	一元	市帖	千百個
同	一元	市帖	一元六厘

市帖ハ信用アル商人ニテ發行スル融通機關ニシテ資本金一萬圓以上ヲ有スル者ハ發行スルコトヲ得ルモノトス而シテ此帖子ヲ發行シ一般ニ流通スルニ至レハ其商店ハ既ニ確實ナル基礎ヲ有スルモノト見ルコトヲ得ヘシ此ノ如ク信用ニヨリテ流通スルモノナルヲ以テ流通區域ハ自ラ制限ヲ受ケ多クハ行政區域内百支里内外トシ白音他拉ノ帖子ヲ開魯ニ於テハ使用困難ナルモノトス今鄭家屯及白音他拉ニ於テ帖子ヲ發行シ居ル商店ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 鄭家屯 裕勝當、長興太、永盛隆、議合興、義和永、福順店
- 白音他拉 發源湧、東太興、復興泉、發源太、福興恒

度量衡

十六、度量衡

商店用彩尺 一尺 日本尺 一尺一寸
 木工鐵工ノ彩尺 一尺 同 九寸七分
 土地丈量用 一尺 同 一尺六分強
 量 五升辨(半斗)一升辨ノ二種アリ一升ハ日本ノ一升九合五勺
 衡 五斤量、三十斤量、五十斤量、百五十斤量、三百斤量、四百斤量ノ六種、一斤ハ日本斤百四十八分弱

度量衡ハ甚タ不正確ニシテ辨ニモ買辨、賣辨等ヲ作成シアリ又衡ニモ分銅或ハ秤提ニ加減ヲ加ヘアルカ特ニ賣買兩場合ニ使用スル各特殊ノモノヲ製造シアリ白音他拉官憲ハ大正四年十月十三日辨ヲ新調シ極印ヲ附シテ五十三戸ノ商店ニ配布シタルモ依然不正確辨ノ使用ハ行ハレアルモノトス

白音他拉ニ於ケル日本人

十七、白音他拉近傍ニ於ケル日本人

此地日進月歩ノ狀況ハ到底數ヶ月ニ視察シタルモノ豫想シ得サル所ナリトス然ルニ翻テ邦人ノ狀態ヲ見ルニ未タ振ハサルコト夥シ即チ當地定住ノ日本人ハ男子四名女子一名ニシテ内二名ハ賣藥業、一名ハ醫師、一名ハ質商、一名ハ蒙地行商計畫中ナリ此外時々鄭家屯ヲ經テ來往スルモノアルモ悉ク無資本ニシテ企業ノ計畫アルモノナシ轉々嘆聲ヲ發セサルヲ得ス蓋シ當地發達ノ狀況並ニ農商工業地トシ

ラ有望ナルヲ詳カニセサルニ依ルナルヘシ

白音他拉近傍ニ於ケル農業ニ就テ

十八、白音他拉近傍ニ於ケル農業ニ就テ

イ、大正三年度ニ於ケル農作物
 大正三年度ニ於ケル行政區域内ノ耕地ハ大正四年度ニ比シ約三分ノ二以下ニシテ且ツ各種農作物ハ旱魃ノ爲メ收穫量ヲ減シタリト云フ其出產額ハ正確ナラサルモ同年度間各糧店ニ於テ取扱ヒ輸出シタル雜穀數量約一萬二千石、燒鍋ニテ消費シタルモノ七千二百石、粉房ノ消費額二百石、計一萬四千九百十石、其他現今各糧店所有高約七千餘石、區域内ニ於ケル住民ノ消費額ヲ一人平均一石五斗ト見積ル時ハ計二萬千四百五十三石即チ以上ノ合計四萬四千七百七十三石ハ其產額ト見ルヘキモノナリ

ロ、大正四年度產額豫想(此產額ハ過小ニ失スルハ明カナルモ參考ノ爲掲記ス)

高粱	一八、〇〇〇石	玉蜀黍	五、〇〇〇石	小麥	五、〇〇〇石	大麻子	五、〇〇〇石
大豆	二、五〇〇	粟	一〇、〇〇〇	綠豆	三、〇〇〇	小麻子	二、〇〇〇
黍	五、〇〇〇	大麥	五〇〇	小豆	一、五〇〇	瓜子	五、〇〇〇
合計	五八、〇〇〇石						

ハ、野菜ノ種類及收穫量ノ基準

野菜ハ豌豆、茄子、白菜、黃瓜、法蓮草、葱、馬鈴薯等ニシテ其收穫量ノ基準ハ概ネ左ノ如シ

上地一畝ニ付 白菜 五千斤 上地一畝ニ付 葱 一千五百斤
同 馬鈴薯 五千斤

大正三年度ハ馬鈴薯ノ産額多ク白音他拉ニ出廻リタルモノ約百萬斤ニ達シタリト云フ
ニ、耕地質ニ應スル雜穀收穫量

良好ナル地質ハ各地ニ分散點在スルモ概シテ通遼鎮西南方面ニハ上地多ク北方ニハ下地多シ而シテ平
作一天地ノ收穫量ハ左ノ如シ

種 類	種 類			種 類		
	上 地	中 地	下 地	上 地	中 地	下 地
高粱	七石	五石	四石	包	四石	三石
穀 子	五	四	四	小	三	二
黃 豆	六	五	四	黃	四	二
蕎 麥	四	三	二	綠	二	一
糜 子	五	四	三	豆	三	二
子(黍)				米	五	四
				豆	三	二

ホ、種子ノ數量(一天地ニ要スル分)
高粱(蜀黍) 五升乃至八升 大豆 一斗 粟 三升

舊曆三月初旬播種 高粱、大豆、粟、大麥、小麥、小麻子、大麻子、黍
ハ、播種ノ時季

同五月節旬前後 小豆、玉蜀黍、綠豆、蕎麥
ト、土地購買價格

荒務局ノ公示セシ價格ハ一天地荒地ニ就キ左ノ如シ(一方地ハ四十五天(响)
ニシテ我約三十三町步)

上 地 庫平銀 六兩六錢
中 地 同 四兩四錢
下 地 同 二兩二錢

以上ノ如クナルモ此外手数料一割五分ヲ要スルヲ以テ之ヲ積算スレハ拂下當時ノ一天地ノ價格ハ左ノ
如シ

上 地 庫平銀 八兩餘(一方地三百四十二兩五錢五分)
中 地 同 五兩餘(一方地二百二十六兩九錢)
下 地 (下地ハ多ク中地ニ繰リ入レタリト云フ)

然ルニ此地價ハ大正二年ニ於テハ左ノ如ク暴騰セリ

熟 地(既耕地) 一方地 庫平銀 千四百兩(小洋二千三百六十元)
荒 地 一方地 同 九百兩(小洋千三百九十五元)

而シテ現今ハ左ノ價格ヲ示ス

熟地		上地	一方地ニ付キ	小洋銀	二千元
中地	同	同	同	同	千二百元
下地	同	同	同	同	七、八百元
荒地		上地	同	同	千五百元
中地	同	同	同	同	千五百元
下地	同	同	同	同	五百元

此價格ヲ以テ見ル時ハ現時地價低廉トナリシ感アルモ同
 一、地ニ對シテノ價格ニアラサルヲ以テ直チニ地價低廉ト
 ナリシモノト判斷スルヲ得ス反テ騰貴シツワアルハ疑フ
 ヘカラサルコトトス

チ、行政區域内ニ於ケル地積

總地積、五十二萬三千五百天地

内 既耕地、十八萬五千天地(内六萬五千餘天地ハ野菜類ヲ栽培シアリ)

本年二月以降ノ新開地約三萬天地

可耕地見込面積、十五萬千四百五十天地

リ、地租

開墾後六年間ハ之ヲ要セス然レトモ現今養兵捐錢ト稱シ熟地一天地ニ付キ三元五毛ヲ徵シツツアリ

ヌ、水質、風向、氣溫、雨量

水質、含曹達量少ク概シテ良好ナリ穿井ハ約五、六尺ニシテ地下水ニ達ス

風向、春季西南風強烈、秋季ハ西北風強シ故ニ作物ノ成熟力ヲ弱ムト云フ

氣溫、

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	溫度ハ攝氏
五・三	一四・五	一八・六	二三・三	二一・五	一四・〇	六・五	冬季ノ寒氣ハ強シト云フ

雨量、概シテ少シ例年六、七月ニ於テ三、四回ノ大雨ヲ見ルノミ(大正四年度ハ雨量多カリシ爲メ甚タ
 豊作ナリシナリ)

奉天省錦縣ニ於ケル石綿製造利用有限公司ノ有製ケル綿石利用公限狀況

第十六 奉天省錦縣ニ於ケル石綿製造利用有限公司ノ狀況

奉天省錦縣ニ於ケル石綿製造所トシテ支那人朱忠格(公司總理)外數名ノ株式組織ニ係ル利用有限公司
 ノ狀況左ノ如シ

所在地 錦縣京奉鐵道停車場南方約一丁

創立 宣統二年十一月

資本 三萬七千元

組織 株式經營ナリ合資人氏名及其出身地左ノ如シ

直隸省人朱忠格、弼良、郭繩先、三瑞堂、馬彬元、孫占先、齊桂芬、馬毓珍、吳學棧、萬宗藻、齊守拱、

第十六 奉天省錦縣ニ於ケル石綿製造利用有限公司ノ狀況

劉恩培、董雲湘、齊煥章、吳書記、魏宗周、張建民
奉天省人、福源當、何成楷

職員及職工 本公司内現在人員ハ總協理、監査、庶務、會計、書記各一名ノ外傭人若干名職工三十七名アリ但シ目下ハ作業殆ト中止ノ状態ナルヲ以テ職工ハ六、七名ヲ殘留シ餘ハ盡ク解散シ居レリ

建物 公司建物ハ純然タル支那家屋ニシテ合計四棟アリ此内總協理室、監査室、庶務室、會計室、書記室、應接室、見本陳列室、成品貯藏室各一、製造室二及傭人厨房等ノ數室ニ區劃サレアリ

製產高 本公司監査朱相軒ノ談ニ依レハ公司每一ケ年ノ製產高ハ約十七萬斤内外ナリト謂フモ容易ニ信ヲ措キ難ク現今實際ノ製產額ハ著シク減少シ居レルモノノ如シ

製品種類 本公司ノ製品ハ全部外國輸入品ニ模造セルモノニシテ比較的精巧ニ作ラレツツアリ而シテ其種類ハ普通左記五種ニシテ更ニ各一種ノ内大小數様ニ區別セラル

石綿紙、長サ英尺三十九寸三分幅同厚サ半分ヨリ三分ニ至ル合計六種

石綿布、幅三十六寸

石綿繩、徑一分ヨリ十二分ニ至リ合計十二種

石綿帶、幅四分ヨリ十六分ニ至ル合計十三種

石綿碎、(火爐用)

產地 公司使用ノ石綿原料ハ専ラ東蒙朝陽ノ東南平頂山ニ供給ヲ仰キ居レリ同山產出ノ原料ハ其質純白佳良ニシテ本公司ハ之カ採掘權ヲ有スト謂フ今參考ノ爲メ公司内ニ陳列セラルル滿蒙其他各地ニ於テ蒐集セル石綿見本ノ產出地名ヲ擧クレハ左ノ如シ鑛區所在地及里程等明カナラス括弧内ノ文字ハ探開セルモノニ係ル

- 第一種、平頂山(朝陽ノ東南)第二種、金家杖子(朝陽ノ北金廠溝梁ヲ距ル北方約四十支里)第三種、鑛洞山(建昌ノ南方約二百二十支里)馬架子(朝陽管内金廠溝梁ヲ距ル約五十支里)第四種、唐密(建昌管内)第五種、臺營(朝陽管内)以上東部内蒙古
- 第六種、香爐溝(海龍管内)第七種、寬甸以上奉天省
- 第八種、水泉山(北京附近)第九種、石板溝(北京附近)第十種、密雲(北京ヲ距ル約百二十支里)以上直隸省
- 第十一種、胥各莊、第十二種、李道溝、以上所屬不明

製造法 (附圖參照)石綿品ノ製造方法ハ先ツ產地ニ於テ豫メ土砂ヲ除去シ來レル石綿原料ヲ苦力ヲシテ再ヒ精選セシメ之ヲ淡水ヲ混シテ輓馬一頭ヲ以テ曳行スル曳臼(第一圖)ニ入レテ粉末ト爲シ後該粉末ハ沈澱器(第二圖)ニ投シテ石綿泥ヲ作り本石綿泥ハ之ヲ火爐(第三圖)上ニ設ケラレアル鐵製鍋ニ送り淡水ト折半シテ充分沸煮シタル後更ニ壓搾器(第四圖)ニ入レテ水氣ヲ去ルヤ扁平ナ

ル石板(第五圖)上ニ置キ石材製「ローラー」ヲ以テ石綿碎若クハ石綿紙ヲ作製ス
名稱ノ石綿碎、石綿紙等ハ蓋シ本器械(第五圖)於テ製作セラレタルモノヲ稱シ其厚薄大小ニ依リ
テ碎、紙ノ名稱ヲ異ニス

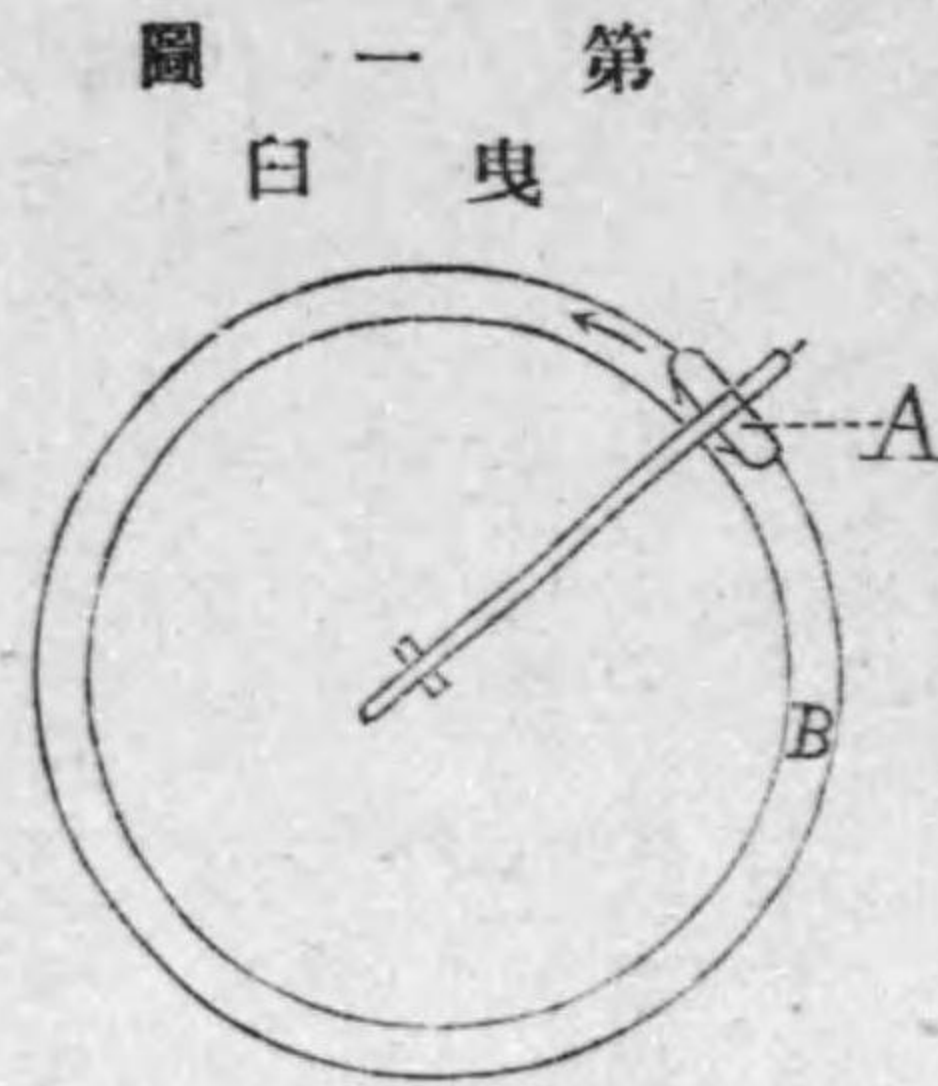
又第五圖石板上ニ於テ仕上ケラレタル石綿碎ハ火爐(第五圖)ニ接シテ設ケアル石板臺(第六圖)ニ
送り圖中Bノ如キ石綿管ヲ作ル是レ單ニ取扱上ニ便ナラシムル目的ニ外ナラサルナリ
石綿繩及石綿布ハ石綿紙ヲ斷チテ作りタル石綿糸ヲ以テ製作スルモノニシテ特ニ石綿布ハ之ハ同
地ニ於テ經營セル土布製造工場ニ依托シ織布器械ヲ以テ製作セシメ居レリ

成品價格 本公司ハ顧客ニ對シ原料ノ仕入レニハ一切應セサル規定ニシテ又成品ハ各種共斤量ヲ以
テ發賣シ大口ノ注文ニ對シテハ左記普通價格ヨリ約一割五分内外ヲ割引スヘシト謂フ

- 石綿紙 每一磅大洋 三角
- 石綿繩 同 六角
- 石綿碎 同 一角八分
- 石綿布 每一磅大洋 八角
- 石綿帶 同 一元五角

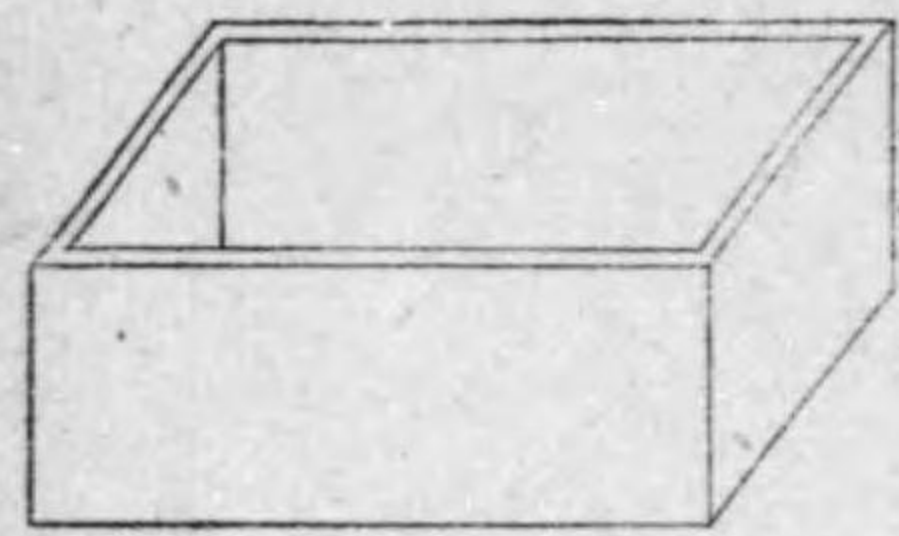
販路 公司ハ分銷所ヲ天津東站露國租界五號路ニ經售處天興店ヲ奉天小西關ニ置キ其成品ハ京奉
鐵道及京張鐵道兩公司ノ外地各地ノ器械工場ニ供給シ居レルモ而モ常年ノ販賣高ハ約一萬五千元内
外ニ過キス最近公司ハ歐洲戰爭ヲ見越シ外國商ヨリ新式器械二臺ヲ購入シ之ニ依リ從來ノ土法ヲ

舊式石綿品製作機見取圖



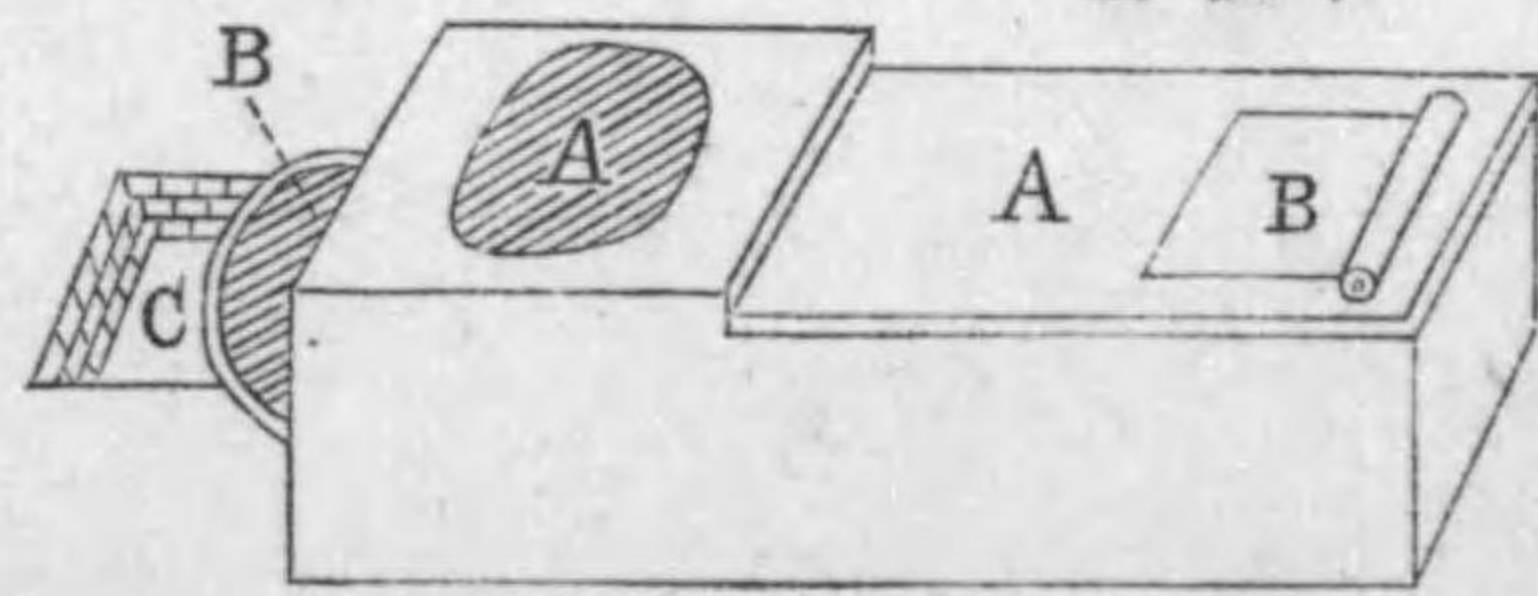
Aハ矢ノ方向に廻
轉ス
Bハ石材ニテ
造リBハ中央部
凹底ニシテ溝ヲ
成ス

第二圖
沈澱器



材ヲ以テ造ラ

第六圖
石板臺

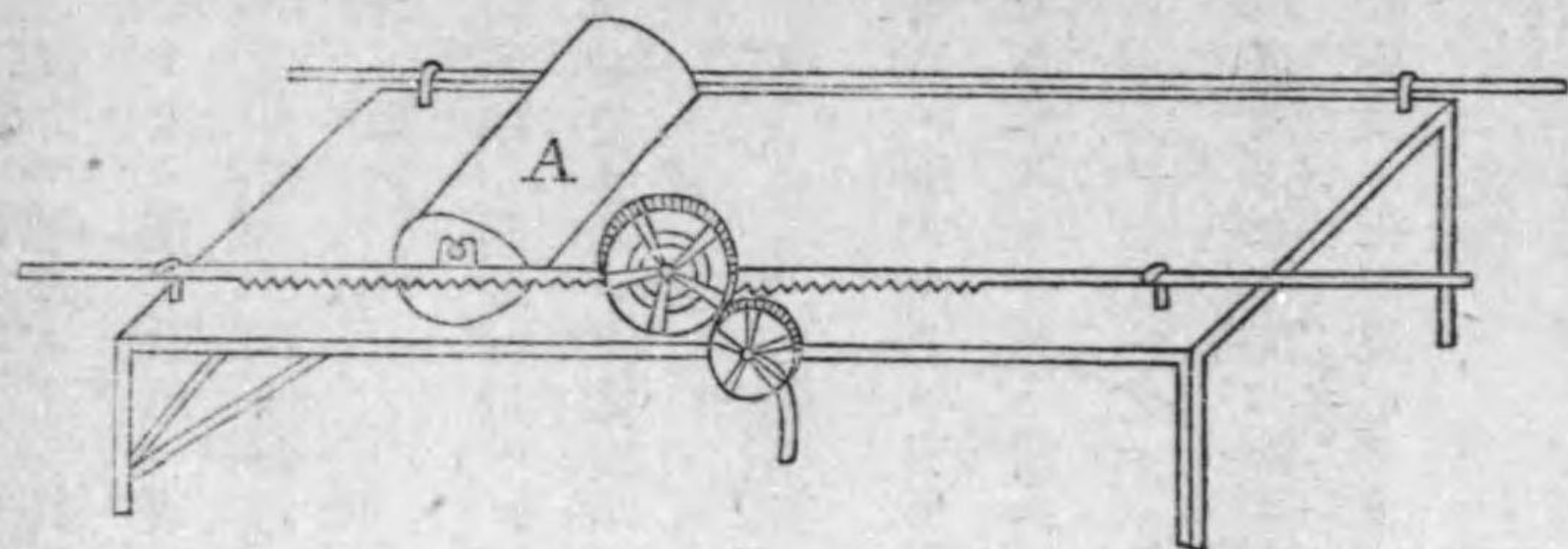


Aハ石板
Bハ石綿碎

第三圖
火爐

Aハ鐵製鍋
Bハ焚口
Cハ灰落

圖 一 第
(シ同用應ト圖五第器式舊)

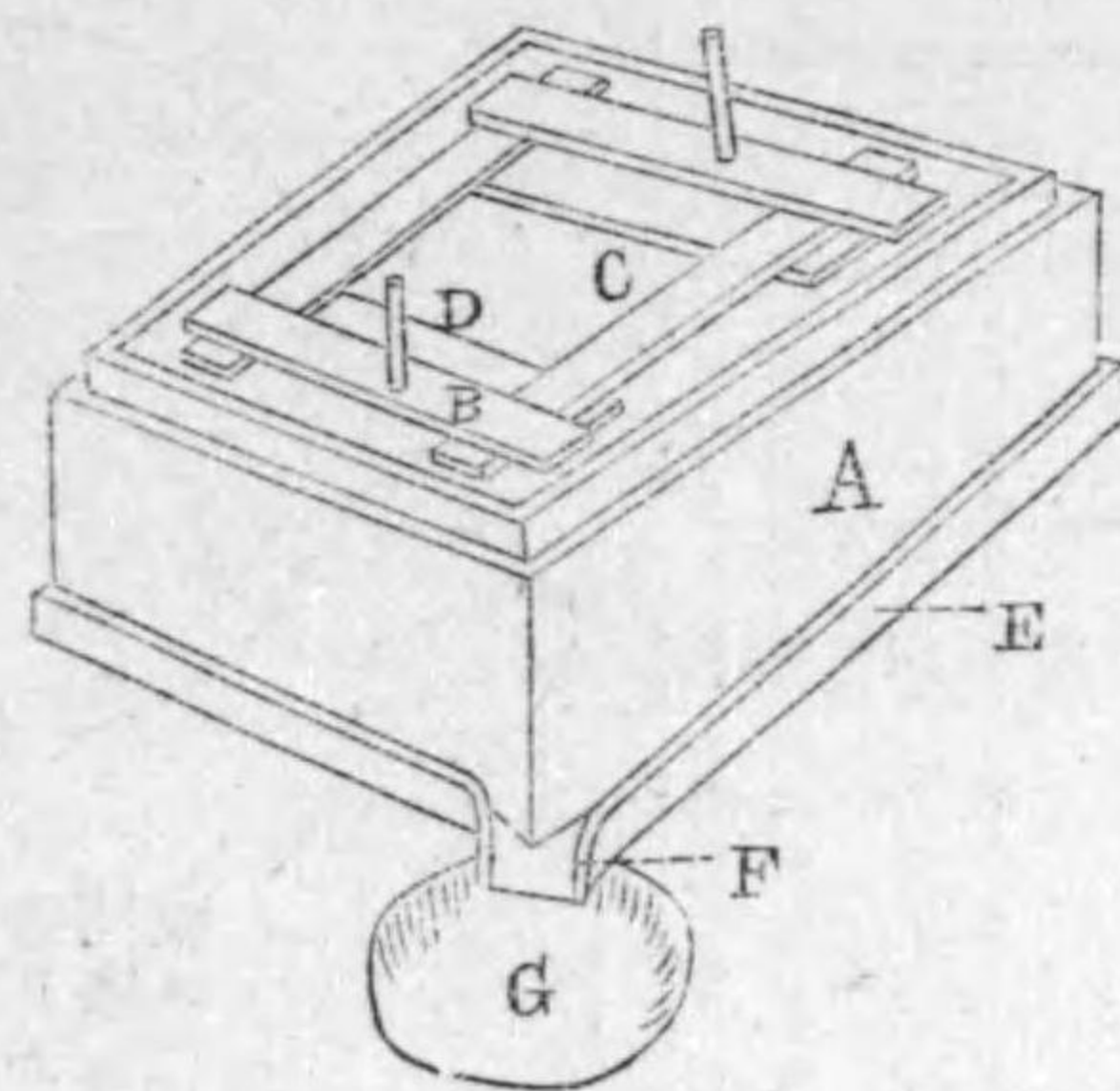


Aノ石材ヲ以
テ造ラレ
ル外ハ全部
鐵製ナリ

新式石棉品製作機見取圖

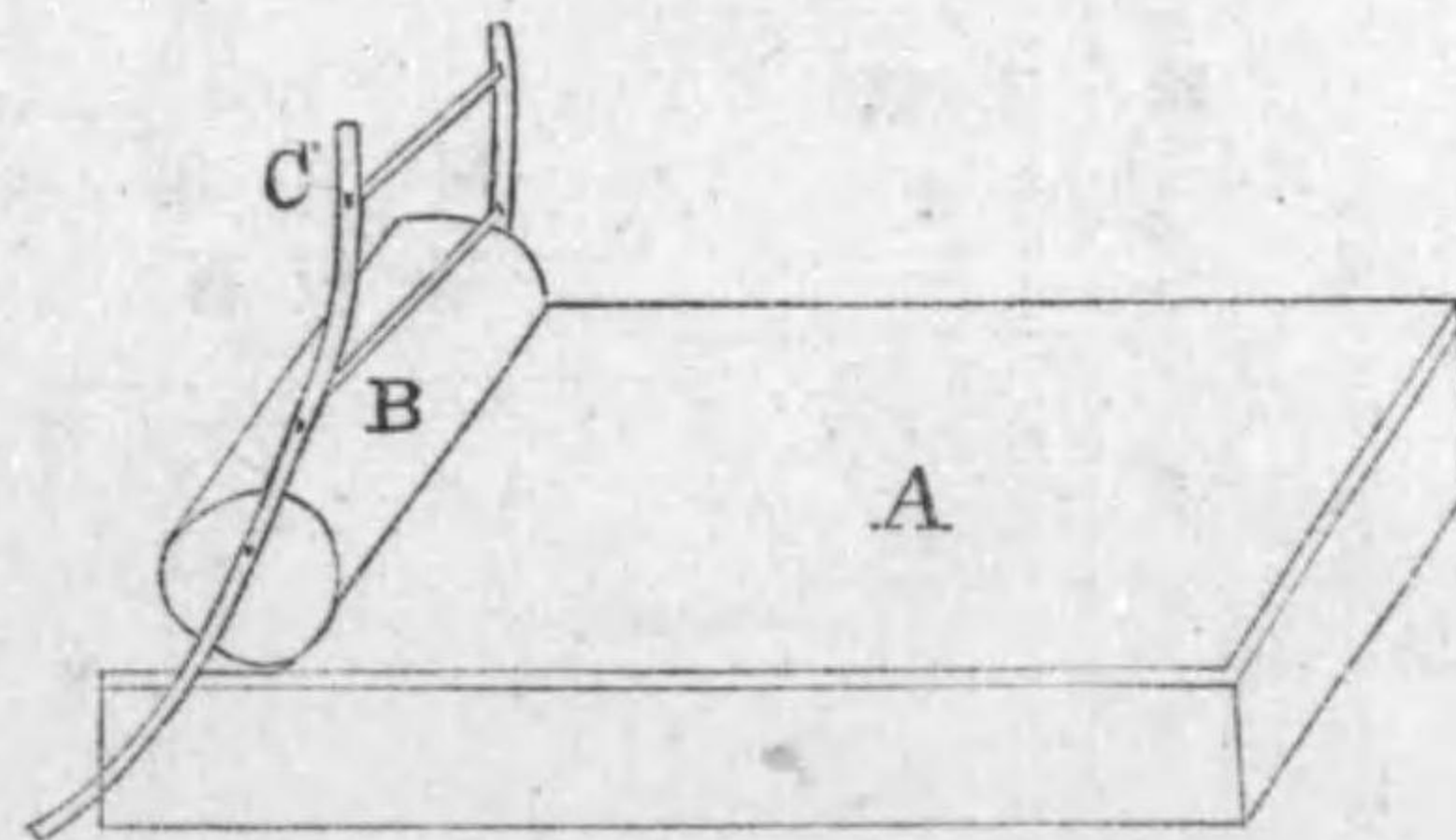
第十六 奉天省錦縣ニ於ケル石棉製造利用有限公司ノ狀況

圖 四 第
器 榨 壓



Aハ容器
B、C、Dハ壓搾用板木
Eハ船
Fハ排水口
Gハ水落

圖 五 第
器 上 仕 碎 綿 石 紙 綿 石



Aハ石板
Bハ石材製
ローラー
Cハ廻轉用
ハンドル

圖 二 第

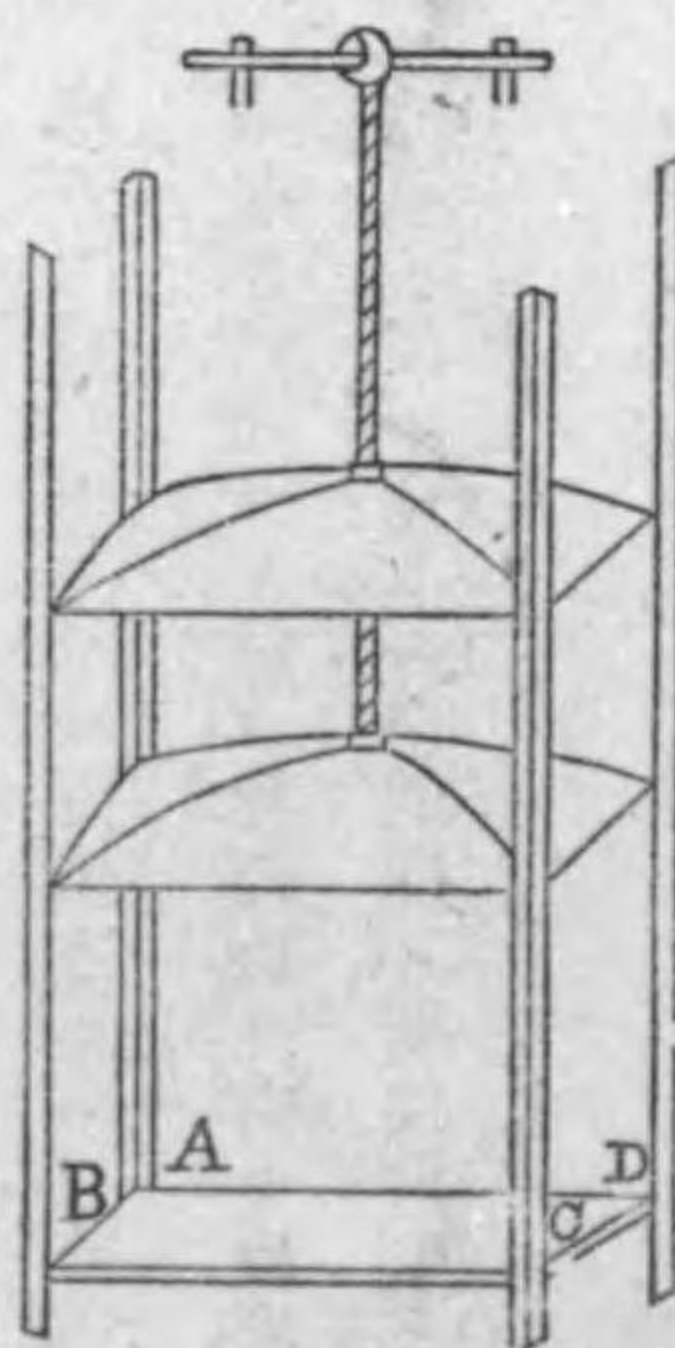
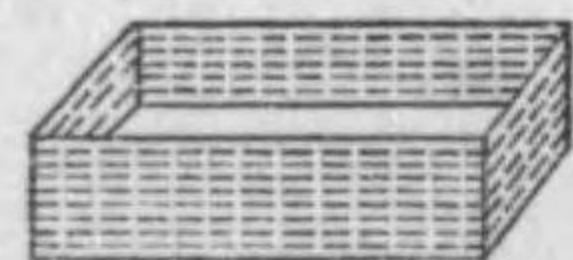


圖 三 第



第二圖
第三圖 壓搾器

第三圖ニ示ス四角形ノ鐵器ハ第二圖ノ
A、B、C、Dノ位置ニ按裝セラル
第三圖鐵板面ニハ無數ノ排水孔穿タル

廢シ製造能力ヲ増進スルト共ニ大ニ販路ノ擴張ニ努メント圖リタルモ外國輸入品ノ勢力依然旺盛ナルヲ以テ未タ能ク改革ニ著手スルニ便ナラス殊ニ製産過剩ノ結果在貨亦尠カラサルニ依リ昨今作業ヲ中止シ居レリ其他公司ハ成品ノ取引ニ當リ運賃ハ全部顧客ノ負擔ト爲スモ税金ハ司公ニ於テ負擔スト謂フ

產地及原料運搬 產地ニ於ケル石綿ノ探掘狀況ハ明カナラサルモ原料ハ總テ產地ニ在リテ土砂ト區別シ之ヲ麻袋ニ入レテ搬出スルモノニシテ其輸送ニハ驢駝子ヲ使用シ居レリ

第十七 滿蒙ニ關スル支那新聞ノ所論

滿蒙ニ關スル支那新聞ノ所論

左ニ二、三掲クル所ノモノハ支那側新聞ニ掲載シアリタルモノニシテ其所論當ヲ得サルモノナルハ勿論ナルト雖モ亦參考トシテ一讀スルノ價值ナキモノニアラサルヘシ

東蒙ノ區域

一、東蒙ノ區域

日支新條約ハ東蒙方面ニ於テ既ニ日本人ニ農業及附隨工業ノ合辦權ヲ允許セリ但シ其細目ハ尙ホ政府審議ノ後日本公使ト折衝規定セラルヘシ吾人以爲ク先決問題ハ地域ニ在リ日本人營業權ノ廣狹ニ至テハ其次ナリ

第一ニ東蒙ハ南滿ト分割セサルヘカラス新條約ニ定ムル所ハ對蒙、對滿ノ條件ヲ異ニスルヲ以テ範圍

定ラサレハ將來官吏カ許可スヘキ各事項ノ判定ニ苦ムヘシ但シ此問題ハ我國歷史政治及近年ノ交渉事例ヨリ研究セハ遼河ヲ境界ト爲スニ堅確ナル證據アリ想フニ交渉當事者間ニ異議ノ容ルヘキナカラン

東部内蒙中ニハ蒙旗ヲ介スルモ決シテ蒙地ニアラサル區域ヲ知ラサルヘカラス即チ熱河及察哈爾都統所轄ノ各旗是ナリ按スルニ熱河離宮ノ所在地ハ古ノ奚斤、契丹ノ避暑地ニシテ明ノ中葉ニハ烏梁海ノ朶顏衛ニ屬シ後ニ土默特(今内蒙中ノ土默特及喀喇沁ハ皆烏梁海民タリ蓋シ明ノ中葉以後今日ニ至ル迄朶顏ノ遺裔ニシテ未タ曾テ主ヲ易エス)ニ屬セリ清ノ聖祖ノ初歲湯河ニ狩ス地、狹隘ニシテ且ツ山川ノ勝少ナキニ苦ム因テ土默特部ハ其牧地ヲ獻ス即チ東ハ白岔山脈ヨリ灤水ノ南ニ到ル、後清帝馬蘭營ニ東陵ヲ建ツ即チ東拓近傍ノ各旗地ニシテ府縣ヲ設置シ直隸省ノ布政使ニ屬シ以テ外ハ諸蒙ヲ撫シ内ハ陵邑ヲ衛ル既ニ二百二十餘年總テノ治政内省ニ同シ是レ今ノ熱河道尹所轄ノ諸縣ハ其他札薩克所管ノ既ニ開放シタル地ト同シカラサル所以ナリ(蒙旗開放設治ノ方法ニニアリ吉林省ノ長春縣等ノ如キハ開放ノ當時支那官吏之ヲ經理シ既ニ其地價ヲ蒙旗ニ交付シ蒙旗ハ僅ニ蒙租ヲ徵收スルノ外已ニ何等ノ處分權ナシ、奉天省ノ昌圖縣等ノ如キハ蒙旗自ラ農民ヲ招募シ開墾セシモノニシテ決シテ其土地ヲ賣却セス故ニ蒙旗ハ今尙ホ地主ニシテ居民ハ傭人タレハ蒙王ノ權力ハ今尙ホ存セリ)條約文ニ東部内蒙ト明言ス然ルニ熱河ハ蒙旗ト久シク關繫ヲ脱シテ内省ト爲リ内蒙ニアラ

ス故ニ開クヘキ商埠ノ外ハ所謂農業及附隨工業合辦權ハ存立ノ地ナカルヘシ
 察哈爾ノ内省ニ隸セシハ熱河ノ先ニ在リ康熙十四年察哈爾、林丹汗ノ遺裔ヲ驅逐シ其故地ヲ空ウシ
 牧廠ト爲シ内務府ト太僕寺ニ分屬セシム西ハ其民ヲ宣化邊外ニ移セリ是レ内蒙ト全ク關繫ヲ脱セシ
 ノミナラス蒙民モ亦遺留スルモノナシ清ノ中葉後ニ至テ漢蒙ノ制限稍、弛ミ遂ニ變シテ燕薊流民ノ
 新墾地トナリ甌廬ノ俗ハ久シク除カレ耕鑿ノ風ハ廣ク被リ今ニ至テハ時異リ世易リテ治スルニ漢官
 ヲ以テシ純然タル中土ノ如シ其地主ヲ按スルニ實ニ御料地ト官有地ノ二種タリ其地理ヲ考フレハ首
 都ニ密接シ今京張線ノ通スル要點タリ此ノ如クナレハ決シテ内蒙ト併セ論スヘカラス
 然リト雖モ日支新條約ニハ只東部内蒙ト云フテ未タ區域ヲ指定セス若シ北京東方ノ各旗ヲ以テ東蒙
 ト爲サンカ察哈爾ハ張家口外ニ在リ北京ノ正北ニ當リ吾人カ嚮キニ云々スル所ハ已ニ論スル必要ナ
 カラン夫レ東西ノ名、本ト確定ノ解釋ナシ故ニ輿地圖ノ經線ハ世界各國共ニ英京ヲ中線ト爲ス而シ
 テ吾國ハ嚮キニ京師ヲ中線ト爲シ偏東偏西ノ二線ニ分ツ東部内蒙ノ境界說モ必此ヲ標準トセン
 虛心平意ニ論スルニ日本ハ我奉吉兩省ニ於テ十年以來漸ク經濟上ノ關係アリ今回日本政府ハ企業ヲ
 伸張シ滿洲ヨリ蒙古ニ及ホサントシ遂ニ東蒙ニ涉ル新條約アリ東蒙地點ハ無論奉吉二省所轄ノ蒙地
 ニシテ已ニ設置セシ各縣ヲ限ト爲シ哲里木盟四部十旗ノ内ヲ出テサルヘシ若シ我政府國交ヲ重シ退
 讓ヲ示サンカ遼河以西ヨリ察哈爾ニ及フ東部中、熱河道尹所屬ヲ除キ北京偏東ヲ引テ以テ東蒙ノ說

ヲ爲サハ國際上應ニ満足ノ態度ヲ表スヘシ

吾人ハ農業及附隨工業合辦ノ地域ニ就テ主張スル此ノ如シ以テ之ヲ當世ニ質ス

二、遼西事件近聞

遼西事件
近聞

遼西事件ノ内容ヲ聞クニ日本人カ日支新條約ヲ利用シ遼西ヲ南滿ノ範圍内ニ屬シ以テ日本居留民ノ居
 住及營業上ノ權利ヲ擴張セント欲スルニ因リ各處日本居留民カ遂ニ範圍ヲ軼出スル行動アルヲ免レサ
 ルニ至リシナリ、過日錦縣知事朱氏ハ曾テ該地ノ居留日本民ニ對シ正當ノ制限ヲ加ヘタルニ日本領事
 ハ之カ爲メ遼瀋道尹榮氏ニ向テ抗議ヲ提起シタルハ榮氏ハ理ニ依テ力爭セリ其略ニ曰ク南滿北滿ハ原
 ト露國東清鐵道時代ニ外人カ隨意ニ使用セシ名稱タルニ過キスシテ支那地理上固有ノ區別ニアラス又
 遼西ノ地域ハ滿洲ニ屬セサレハ即チ南滿洲ト謂フヲ得ス若シ遼西ヲ南滿洲ノ内ニ屬スト爲サハ此例ニ
 依リ之ヲ推廣メハ勢將ニ直隸省及其隣接ノ地方ヲモ南滿洲ニ編入スルヲ得ン是レ斷シテ支那ノ承認シ
 得ル所ニアラサルナリト日本ハ又奉天官憲ニ向テ同一ノ理由ヲ以テ交渉スルモ未タ要領ヲ得ス日本ノ
 意見ハ此問題ヲ北京ニ移シ外交部ト正式ニ談判セントスト云フ

三、日本人滿蒙警察權ヲ覬覦ス

日本人滿蒙
警察權ヲ覬覦ス

日本人ノ滿蒙ニ對スル其勃々タル野心ハ常ニ事實上ニ表現ス殊ニ今回日支新條約成立ノ後ハ愈、益、其
 猛威ヲ逞ウシ支那ノ主權ヲ認メサルモノノ如シ今ヤ日本新聞紙ノ論調ハ公然支那ヲ以テ已レノ有ト爲

スノ情形アリ又自ラ其背信ヲ覺ラサルカ如ク常ニ枝節ノ生スヘカラサル處ニ種々無理ノ要求ヲ爲シテ枝節ヲ生ス是等ノ態度ハ吾人ヨリ之ヲ觀レハ其實際上ノ利益ト感情上無形ノ損害トハ得失相償ヒ難シ且ツ堂々タル一等帝國ヲ以テ此零碎ニ堪ヘサル舉動ニ出テ而モ之ヲ省ミサルハ殊ニ其文明ノ聲光ヲ損スルアラシク、語ニ曰ク利ハ智ヲシテ昏マシムト彼ノ當局者ハ蓋シ自ラ其迷ヲ覺ラサルナリ最近ノ間島問題ハ日支新條約文ノ解釋ヨリ爭端ヲ生セシニ過キス滿蒙警察ノ如何トハ絶エテ關係ナシ且ツ政府ハ在滿蒙日本人ヲ保護センカ爲メ滿蒙ノ特別警察法令ニ對シテモ非常ニ注意研究シテ務メテ慎重周詳ヲ期シ敢テ輕卒ニ從事セス現在滿蒙ノ警察現狀ハ既ニ十分ニ完備シ往來居住ノ日本人不安全不便利ノ狀況ニアラス然ルニ最近某日本新聞ノ社説ニハ滿蒙警察ハ獨リ日本人ヲ保護セサルノミナラス反テ迫害ヲ加フト間島ノ朝鮮人問題ヲ引テ證ト爲シ憲兵及駐屯軍ヲ各處ニ派遣シ警察官ト爲シテ支那警察ノ不足ヲ補フコトヲ主張セリ按スルニ日本人ノ滿蒙警察權ヲ覬覦スル既ニ一日ニアラス一タヒ間隙アレハ勢ニ乘シテ要求スルヲ免レサルナリ

第十八 雜件

内蒙兵備ノ實況

一、内蒙兵備ノ實況

或ル消息ニ據ルニ蒙古ノ兵制ハ喇嘛僧侶及老衰疾病者ヲ除ク外十八歳以上ヨリ終身軍籍ニ編入セテレ

一旦有事ノ場合ニハ何レモ兵役ニ當ル由ナリ今蒙古各盟ノ兵數ヲ調査列記スレハ左ノ如シ

- | | | |
|---------------------|--------------------|----------------|
| 甲、哲里木盟 合計一萬五千六百八十人 | 一、科爾沁 九千六百六十人 | 二、杜爾伯特 二千四百四十人 |
| 一、科爾沁 九千六百六十人 | 三、札賚特 九百六十人 | 四、郭爾羅斯 三千四百二十人 |
| 乙、卓索圖盟 合計一萬八千六百二十人 | 一、喀喇沁 八千五百八十人 | 二、土默特 一萬四十人 |
| 丙、昭烏達盟 合計二萬二千四百八十三人 | 一、敖漢 三千〇三人 | 二、奈曼 三千人 |
| 三、巴林 一千五百六十人 | 五、阿魯科爾沁 三千人 | 四、札魯特 一千九百二十人 |
| 五、阿魯科爾沁 三千人 | 七、克什克騰 六百人 | 六、翁牛特 三千四百人 |
| 七、克什克騰 六百人 | 丁、錫林郭勒盟 合計六千七百八十八人 | 八、喀爾喀左翼 六千人 |
| 一、烏珠穆沁 一千八百人 | 一、烏珠穆沁 一千八百人 | 二、浩齊特 七百二十人 |
| 三、蘇呢特 一千九百八十人 | 三、蘇呢特 一千九百八十人 | 四、阿巴哈 六百六十人 |
| 五、阿壩噶 一千三百人 | 五、阿壩噶 一千三百人 | |

戊、烏蘭察布盟 合計三千二百二十人

一、四子部落 一千二百人

二、茂明安 三百四十人

三、烏喇特 一千四百四十人

四、喀爾喀右翼 二百四十人

己、伊克昭盟合計一萬六千四百四十人

以上六盟ノ總合計六萬三千二百二十三人

內蒙警察
創設ノ計畫

二、內蒙警察創設ノ計畫

支那政府ハ內蒙政治ノ漸次改良ト地方治安ノ維持トヲ圖ル爲メ各盟旗ニ警察ヲ創設スヘシトノ議アリシコトハ豫テ聞ク所ナルカ近時之ヲ實行スルコトニ決シ蒙古ノ實情ヲ斟酌シ警察創設法ヲ左ノ如ク定メタリト云フ

一、警察官ニハ漢蒙人ヲ併用シ漢蒙ノ兩語ニ通スルモノヲ採用ス

二、先ツ內蒙ノ各盟ニ警察講習所ヲ設ケ警察官ヲ養成ス

三、各盟旗警察ノ組織ハ其實況ヲ斟酌シ固定警察及遊動警察隊ノ兩種ヲ用フ

四、各盟旗ノ警察ハ純然タル軍隊式操練ヲ施シ大部隊ノ盜匪ヲ防禦攻撃シ得ル如ク養成ス

其後更ニ聞ク所ニヨレハ已ニ各旗札薩克トノ協議ヲ經テ本年一月ヨリ內蒙警察ヲ普及スルコトニ決セリト云フ

赤峰商埠
開設及交渉
員設置ノ近聞

三、赤峰商埠開設及交渉員設置ノ近聞

赤峰商埠開設ニ關シ前ニ同縣ノ蒙漢紳商ヨリ速ニ開設シ商業ヲ振興セシメラレンコトヲ政府ニ電請セリ當時大總統ハ財政、農商ノ二部ニ協議スヘク命令セリ又赤峰縣知事ヨリ赤峰ハ內蒙各旗ノ中樞ニシテ重要地點ナルヲ以テ近來日本人ノ赤峰ニ來リ商業ヲ調査スルモノ日ニ増加スルニ因リ赤峰ニ交渉員ヲ設置シ專ラ交渉ニ任シ國權ノ侵害ヲ防カンコトヲ姜都統ニ請ヘリ姜都統モ之ヲ必要ト認メ交渉員ノ設置ト商埠ノ開設ヲ中央政府ニ請求シタルニ大總統ハ外交、財政、內務、農商諸部ニ協議ノ上施行スヘク命令セリト云フ

四、內蒙學區ノ區劃

內蒙學區
ノ區劃

支那政府ハ蒙古人民ノ教育ニ關シテ深ク注意ヲ拂ヒ前日教育部ニ命シ蒙藏院ト合議シテ他日實施ノ準備ヲナサシメタリト云ヘルカ今聞ク所ニ據レハ其方法トシテ先ツ學區ノ區分ヨリ著手シ內蒙全部六盟五十旗中ニテ六盟ヲ六中學區、五十旗ヲ五十小學區トシ內蒙ノ適當ナル地點ニ高等專門學校ヲ設立シ中學卒業生ノ入學ニ便セシメ尙ホ各中學區ニ師範學校ヲ設立シ小學教員ノ養成ヲナスヘシト云フ

五、察、熱、綏三特別行政區域教育振興策

察、熱、綏、三特別
行政區域
教育振興
策

客年十月下旬北京教育部ニ於テ開催セラレタル蒙邊教育研究會議ハ豫テ該部ヨリ察哈爾、熱河、綏遠ノ三特別行政區域ニ派遣シタル教育調査員ノ報告ニ基キ叙上三特別區域內ニ於ケル教育振興策ニ就テ

討議スル所アリタルカ其概要左ノ如シ

一、報告事項

- 1、察哈爾調查員報告 本區域内ニ於ケル學務ハ張家口ヲ以テ冠トス但シ中學一、高等小學二、單級初等小學二十ヲ有スルノミ多倫諾爾ニハ高等小學一、其餘ノ各地ニハ初等小學ノ設ケアルモ皆完全ナラス蒙旗ハ半ハ蒙語ヲ操リ半ハ漢語ヲ操リ居レリ
- 2、熱河調查員報告 圍牆ノ學校課程ハ完全ニシテ赤峰、灤平之ニ次キ其餘ノ隆化、豐寧、林西、經棚等ハ財政困難ノ爲未タ整頓セス蒙旗ハ多ク漢人ニ化セリ
- 3、綏遠調查員報告 綏遠ノ蒙古人ハ已ニ漢人ニ同化シ漢文ニ通シ蒙語蒙文ニ通セサルモノアリテ北京ニ於ケル蒙古人ニ同シ

二、建議事項

- 1、師範ノ籌設 察哈爾、熱河、綏遠ノ三特別行政區域三十縣ヲ合シテ張家口ニ師範學校ヲ設ケ初年ニ每縣ヨリ十名ノ學生ヲ入學セシメ經費ハ各縣ニ於テ分擔セシム
- 2、小學校ノ擴張 先ツ學齡兒童ノ調査ヲ第一著手トシ第一年ハ首縣ニ普及ヲ求メ第二年ニハ各縣城ニ推及シ第三年ニハ各旗ニ普及セシメ第四年ニハ各鄉ニ推廣セシムルコト(議決)
- 3、縣學田ノ劃留 每縣ニ三千畝、之ヲ四鄉ニ各五百畝宛、縣城ニ一千畝ヲ分配シ民團ヲシテ開墾セ

シメ各縣ヨリ各學校ニ分辦シ設立セル學校ニハ一律學校園ヲ設ケ農業科ヲ課セシム(議決)

三、準備事項

- 1、巡回講演員ノ添派 孔教會ヲシテ辦理セシムルコトトナシ蒙古學生ニシテ蒙古語ニ精シク漢學ニ通スル者ヲ選拔シテ愛國興學ノ巡回演說ヲナサシムルコト
- 2、商務印書館ノ増設 商務印書館ヲシテ先ツ張家口ニ支店ヲ設ケシメ漸次熱河、綏遠ノ兩特別區域内適當ノ場處ニ分店ヲ設ケシムルコト
- 3、漢蒙合璧ノ教科書編輯 此教科書ハ曾テ東三省學務公所ニ於テ編輯セシモノヲ増補改訂スルコト

六、勝福ト呼倫貝爾副都統ノ任命

勝福ト呼倫貝爾副都統ノ任命

露支蒙恰克圖會議ニ依リ外蒙獨立取消ノ結果曩年渾倫ノ獨立ニ倣ヒテ獨立ヲ宣言シタル黑龍江省呼倫貝爾總監勝福モ亦勢獨立ヲ取消ササルヘカラサルコトトナリ十七旗王公ノ反對アリシニ拘ラス遂ニ恰克圖會議ニ倣ヒ三方面ヨリ委員ヲ選派シ取消ニ關スル條件ヲ協定中ナリシカ已ニ調印ヲ終リ袁總統ノ批准ヲ經タルカ右ニ付北京政府ハ該條件ニ基キ客年十一月十六日附ヲ以テ勝福ヲ呼倫貝爾副都統ニ任命シ同地ヲ特別行政區域トナセリ

協定條件ノ概要左ノ如シ

- 一、呼倫貝爾ヲ特別區域トシ中央政府ノ直轄トシ黑龍江省將軍巡按使ノ監督ヲ受クルコト
- 二、呼倫貝爾ニ都統一人ヲ設置シ其下ニ兩廳ヲ置キ均シク本地職ヲ擇ヒテ之ヲ任命ス
- 三、呼倫貝爾全部收入ハ關稅鹽稅ヲ除キ須ラク中央ニ歸スヘシ其餘ハ均シク留メテ地方ノ用ニ充ツ但シ年末中央政府ニ詳報スヘシ
- 四、呼倫貝爾若シ事變アルニ遇ヘハ中央ヨリ兵ヲ派シ防勦スルコトヲ得但シ事平ケハ撤回ヲ請求スルコトヲ得
- 五、呼倫貝爾地方ニテ漢人ハ自由ニ居住商業ヲ營ムコトヲ得但シ蒙旗ノ生計ヲ妨害スルコトヲ得ス
- 六、呼倫貝爾ノ農工業興辦ノ爲借款セント欲スル時ハ先ツ露國ニ商辦スヘシ
- 七、呼倫貝爾ト露人トノ間ニ訂約セル各種契約ハ中央政府ニ於テ審査ノ上有効トスヘシ

七、三特別區ノ道尹新設

支那塞北ノ熱河、綏遠及察哈爾ハ民國三年七月六日大總統令ヲ以テ特別行政區域トナシ熱河都統ノ管下ニ熱河道尹一名、綏遠都統ノ管下ニ綏遠道尹一名、察哈爾都統ノ管下ニ興和道尹一名ヲ置キ各道尹ハ管下ノ縣知事ヲ指揮監督シテ行政事務ヲ執リ來リシカ先頃日支新條約締結以來該地方ハ政治的ニ重要ナル地點トナリ殊ニ近來山東浙江ノ各省ヨリ移住開墾ニ從事スル者頗ル多ク從前ノ如ク一地方ニ一道尹ヲ置クノミニテハ萬事不都合ナリトシ此次內務部ハ關係都統ト協議ノ結果熱河ニ赤峰道尹一名、察

三特別區
ノ道尹新
設

哈爾ニ多倫道尹一名、綏遠ニ東勝道尹一名ヲ添設スルコトニ決シ其新道尹ノ人選モ左ノ如ク決定シタリ

- 赤峰道尹ニ 舒和均 (熱河都統公署參謀長)
- 多倫道尹ニ 龍 驥 (多倫墾務局總辦)
- 東勝道尹ニ 聶樹屏 (綏遠墾務局總辦)

八、長春殖邊銀行支店開業

長春城內北大街ニ大家屋ヲ得テ内外ヲ修築中ナリ殖邊銀行長春支店ハ其工事意外ニ遅レタルモ設備及裝飾ニ小洋一萬元以上ヲ投シタル由ニテ漸ク完成シ去ル十一月八日ヨリ營業ヲ開始セリ同行ハ北京ニ本店ヲ有シ資本金二千萬元目下ノ拂込四百萬元ノ株式會社ニシテ其株主ニ有力ナル官吏多キ爲メ一見恰モ半官半民ノ性質ヲ帶フルカ如キ觀アリ國內約二十箇所ニ支店ヲ有シ東三省ニ於テ既ニ支店ヲ開設シ又ハ開設セントスルモノ七箇所ニ及フ而シテ其長春ニ用フル資本額ハ正貨二十萬元ニシテ之ヲ標準トシテ紙幣ヲ運用スルモノノ如シ而シテ長春支店開業後ノ狀況ヲ視ルニ其人員行員使用人等ヲ合シ約五、六十名ニ及ヒ建物ノ外觀裝飾美麗ニシテ堂々タルモノアリ然レモ其經營振等ハ今後ニ徵スルノ外ナシ

吉林省ニ於テ既ニ殖邊銀行支店ノ開設セラレタルモノハ前記長春ノ外吉林及哈爾濱ニシテ尙ホ年月ヲ

長春殖邊
銀行支店
開業

殖邊銀行
ノ紙幣發行

追ヒ延吉、寧古塔、密山、依蘭其他ノ各地ニモ及ホサントスルノ希望アリト云フ

九、殖邊銀行ノ紙幣發行

長春殖邊銀行ハ今回小洋建兌換券ヲ發行流通セシムルニ至レリ其種類ハ一元、五元、十元ノ三種ニシテ吉長兩地ノ流通額ハ各、二十萬元位ナリト
紙幣ノ額果シテ斯ノ如クンハ正貨準備ハ二十萬元ニアラスシテ或ハ數萬元ニ過キササルヤモ知ルヘカラス

營蓋輕便
鐵道敷設

十、營蓋輕便鐵道敷設

營口商人李仙洲等ノ發起ニ係ル營口、蓋平間輕便鐵道ハ交通部ヨリ委員ヲ派遣シ實地調査ヲ行ヒタルカ民業鐵道タル各條件ヲ具備シ且ツ他ニ何等ノ故障ナキモノト認メ此程奉天巡按使公署經由同人ノ出願ニ對シ敷設許可ヲ與ヘタリ右ニ付李等ハ既ニ蓋平海山塞ニ事務所ヲ設ケ目下起工ノ準備中ナルカ工事見積費約二百萬元ニシテ技師長ニハ英人「ゴルシヤン」ナル者傭聘セラレヘシ本計畫ハ日本ノ勢圍タル大連ノ繁榮ヲ營口ニ吸收セント企テタル清代東三省總督徐世昌ノ遺策ノ一部分ヲ實現セルモノニ係リ奉天將軍段芝貴ノ腹心商人ヲ介シ裏面的援助ヲ與フル所少カラストノ風説北京ニ於テ專ラナリ

鐵嶺縣外
五縣ノ電
話架設

十一、鐵嶺縣外五縣ノ電話架設

奉天省鐵嶺縣知事陳藝ハ其管内各官公署就中警察事務ノ敏捷ヲ期センカ爲客年六月縣費ヲ以テ電話機

械ヲ購入シ既ニ管内全部ノ架設ヲ終リタルカ開原及昌圖兩縣知事モ亦之ニ倣ヒ去ル十月在長春邦商和登洋行ヨリ各一萬元ヲ以テ電話機多數ヲ購買シ二者共ニ昨今漸ク縣城内ノ架設ヲ竣セリ其他猶ホ聞ク所ニ依レハ東豐縣、鄭家屯及洮南ノ各縣モ架設ヲ行ヒ此內鐵嶺、開原、昌圖ノ三縣ハ互ニ相聯絡スヘシト云フ

十二、支蒙感情融和策

支蒙感情
融和策

支那政府ハ蒙古ニ對シ一家ノ如クスルモ十分親密ヲ見ル能ハサルヲ以テ此弊ヲ除カンカ爲蒙藏院ノ某氏ハ左ノ如キ支蒙感情融和策ヲ建議セリ

- 一、蒙人ヲシテ多ク内地ニ入り居住セシメ禮法習慣ニ嫻ハシメハ必ス異見消滅セン
- 二、現在漢蒙人間ノ結婚者甚タ少シ滿漢結婚ノ方法ニ倣ヒ先ツ政府ヨリ漢蒙人ノ任意結婚ヲ提唱セハ支蒙間ノ感情ハ自ラ日ニ其厚キヲ見ルニ至ルヘシ
- 三、支蒙人互ニ相往來スルモノ少キハ實ニ言語ノ不通ニ因ルヲ以テ蒙古各地ニ支那語學校ヲ設クヘシ將來必ス疎隔ノ患ナカルヘシ
- 四、蒙古ノ產物ハ甚タ豊富ナルニ現在其内地ト交易スルモノハ僅ニ支蒙交界ノ地點ニ限り内地ニハ之ヲ見ス政府ハ蒙人ノ内地ニ入り商業ヲ經營スルヲ獎勵セハ彼我ノ情日ニ篤キヲ加フヘシ

十三、蒙古ニ於ケル露人ノ事業

蒙古ニ於
ケル露人
ノ事業

東清鐵道御用商人ニシテ木材業者タル「ウヲロンツヲフ」氏ハ大正三年蒙古官憲ヨリ「ラルグーン」河上流地方ニ於テ木材伐出ノ權利ヲ得昨年既ニ東清鐵道ニ納付スヘキ枕木ノ伐出ニ著手セリ斯クシテ伐出セル木材ハ河流ニ依リテ「ヤケシ」驛迄流送シ同驛ヨリ河流間約七露里ノ間ニハ支線ヲ敷設スルナラ

ン
森林ノ外尙ホ「ウヲロンツヲフ」氏ハ「ラルグーン」河上「ヤケシ」驛ヨリ上流ニ亘リテ漁業權ヲ獲得セリ「ウヲロンツヲフ」氏ト蒙古官憲トノ契約ハ過日露國公使ト支那外交部總長ノ間ニ調印セラレタル協約ニ基キテ支那政府之ヲ認可セリ露支協約ハ支那主權ノ下ニ巴爾虎ノ自治制ヲ承認シタルモノトス

達賴罕王
旗下ノ土
地拂下

十四、達賴罕王旗下ノ土地拂下

達賴罕王ノ有スル白音他拉附近ノ土地ヲ近ク拂下クル筈ニテ其一部ハ既ニ申込ミヲ終レリ位置ハ東「バンヂヤールン」ヨリ西孔家窩棚ニ到ル約百支里間ニシテ南北約四十支里中央ニ遼河ヲ挾メリ面積三千四百方地(實測約四千方地アリト云フ)ノ既墾地ナリ土質河南ハ河北ヨリ肥沃ニシテ拂下ケントスル一方地ノ價格河南ハ上八百兩、中七百兩、下六百兩、河北ハ上六百兩、中五百兩、下四百兩ナリ張作霖吳俊陞等ノ既ニ拂下ヲ申込メル面積千五百方地ニ及フト

尙ホ聞ク所ニ依レハ支那農夫ハ多ク拂下ヲ希望セス何トナレハ蒙人ニ使役セラルル支那人ハ許可ヲ得テ王旗下ノ他荒地ヲ開墾シ其半部ヲ納ムルトキハ之ヲ使用シ得ルヲ以テ一方地數百兩ノ金ヲ投スル必

要ナケレハナリ

開魯ト白音他拉トノ中間ニモ未墾ノ拂下地アリ面積約四百方地ニシテ價格一方地二百兩乃至四百兩ナリト云フ

蒙古荒地
無届賣渡
禁止通則

十五、蒙古荒地無届賣渡禁止通則

(大正四年十一月二十二日
政 府 公 報)

第一條 本通則ハ各蒙旗公衆ノ土地保全ノ爲大總統ノ命令ヲ奉シ規定セシモノニシテ凡ソ蒙旗ノ荒地ヲ無届賣渡セシモノハ本通則ニ依テ處分ス

第二條 凡ソ蒙旗ノ荒地ヲ賣渡スニハ公有地ト私有地トヲ問ハス統テ札薩克ヨリ所管地方行政長官ニ照會シ中央政府ノ許可ヲ經テ條例ニ按照シテ政府ヨリ賣渡スヘシ然ラサレハ無届賣渡シヲ以テ處分スヘシ但シ蒙荒開墾獎勵法第三條ニ載スル章程ニ按照シ指定シテ許可狀ヲ受領セシ地ハ此限ニ在ラサレハ舊ノ如ク蒙旗ニ於テ自ラ開墾スルヲ許スモ所管地方長官ニ報告スヘシ

第三條 凡ソ荒地ヲ無届賣渡セシモノ臺吉壯丁等ノ行爲ナレハ所管札薩克ニ引渡シ處分ス其他ハ事情ノ輕重並故犯ト失察トヲ區別シ左ノ各項ニ按照シテ處分スヘシ

- 一、降 爵
- 二、罰 俸
- 三、罰 牲

第四條 前條臺吉壯丁ノ前記ノ罪情ヲ犯セシモノハ所管行政長官ヨリ所管札薩克ニ照會シ事實ノ輕重ニ依リ處分ヲ擬定シ地方長官ニ通告シテ執行ス其降爵、罰俸、罰牲ノ各處分ハ所管行政長官ヨリ事

實ニ據リ内務部財政部農商部ニ照會シ該各部ハ蒙藏院ト協議ヲ遂ケ大總統ニ稟申シテ執行ス

第五條 凡ソ無届ニテ荒地ヲ賣渡セシモノハ前條ニ依テ處分スル外該荒地ヲ政府ニ歸シ更ニ之ヲ處分シ並荒地代金ヲ追徴ス

第六條 本通則ハ大總統ノ批准ヲ奉シ公布ノ日ヨリ施行ス

第七條 本通則ニ盡ササル事項ハ兼轄蒙旗ノ奉天、吉林、黑龍江、甘肅、新疆、熱河、綏遠、察哈爾、阿爾泰等各巡按使都統辦事長官ヨリ各處ノ情形ニ就テ別ニ施行細則ヲ定メ中央政府ノ認可ヲ經テ施行スルヲ得

東蒙旅行者ノ談片

十六、東蒙旅行者ノ談片

一、農業 東蒙ノ地タル波狀地帶並ニ沙漠地等ノ一部分ヲ除クトキハ農耕ニ適セサルノ地ナク早熟性ノモノナル限リ何物ノ播種ニモ適セサルナシ素ヨリ蒙民ハ今猶ホ遊牧ノ境涯ヲ脱セサル者アルハ勿論ナルモ漸ク其境ヲ去リ一地ニ定住シ放牧ノ半面ニ於テ猶額大ノ地ナカラモ漢人ノ方法ニ則リ農耕ヲ試ミ純農民ニ轉スルノ準備中ニアルモノモ亦少カラサルハ彼等カ時世ヲ解スルニ至リシ表徴ニシテ吾人ノ注目ニ價スヘシト思惟ス

二、商業ハ目下ノ處支那行商ノ手ニ依リ多クハ物々交換的ニ行ハレツツアルモ今ヤ蒙民中ニハ金錢ノ價值ヲ認識シ又品質ノ善惡技術ノ巧拙等ヲ鑑別スルノ能力アルモノ日ニ多キヲ加フルニ至リシヲ以

テ行商ノ手ヨリ商權ノ離ルルモ遠キ未來ニアラサルヘク現ニ吾人携帶品ヲ目シテ其堅牢優美ヲ賞美シ賣却セサルカヲ質セシ者僅ノ旅行間ニ二、三ヲ見タル如キ其一例證タラスンハアラス彼等ニ日本品ヲ需要セシムルト否トハ一ニ邦人ノ努力如何ニ在リト稱シテ可ナルヘク尤モ現在ニ於テ支那行商トノ競争ハ不能ナルヘシ故ニ主要ノ市邑ヨリ進入スルノ外ナカルヘシ然ルニ現今ニテハ開魯、洮南以西ノ地ニ日本煙草スラ其影ヲモ認メサル如キ洵ニ浩歎ニ堪ヘス

三、支蒙兩民モ今日トナリテハ總テノ點ニ於テ融和シ結合スヘキ關係裡ニ在ルニ拘ラス何故カ犬猿ニ似タル間柄ニアル實狀ニシテ彼等ノ多クハ日人ト聞ケハ何用モ喜ンテ相辨スルモ支人ト知ルトキハ取リ合ハサルヲ通例トス此關係コソ見通スヘカラサル所ナリ

經費問題ノ伴フ事業ナルヲ以テ實行ハ容易ナラサルモ所要所ニ敏腕ナル醫師ヲ配置シ此手ニヨリ一面我カ文物ヲ紹介シ他面其本業ニヨリ彼等ヲ牽引スルハ實ニ急務ノ一トス蒙界ニハ各種患者中々多ク而シテ今ヤ彼等モ喇嘛ノ祈禱ニヨリ疾病ノ治セサルコトヲ知リ多數者ハ既ニ醫術及醫藥ノ効果ヲ認メ居リ予ノ旅行中大抵日ニ二、三名ヲ下ラサル患者ヲ診察(醫師ニ非サルコトヲ表明ノ上)シテ投藥セシ如キ如何ニ彼等間ニ患者多ク又我醫藥ヲ認メ居ルカヲ推知スルニ足ルヘシ患者中ニハ老人アリ小兒アリ婦人アリ外科内科ニ屬スルアリ眼科婦人科ニ屬スルアリ著宿後及滞在日是等ノ者ニ診ヲ乞ハレ又投藥ヲ迫ラレ爲ニ貴重ナル時間ヲ失ヒ大ニ閉口セリ

四、最後ニ一言スヘキハ蒙男子ノ多クハ懶怠ニシテ牧畜ノ如キ外部ノ業務スラ女子ノ手ニ委シツツアル者少カラサル状態ナリ惟フニ生存競争ノ圏外ナル永キ遊牧生活カ此固性ヲ成スニ至リシモノニシテ從テ勞役者トシテハ價值少キ民ナレハ前言ノ如ク農耕ニ轉セントスルモノ多クアリト雖モ勞役ニ於テハ到底支人ノ敵ニアラス此儘經過センニハ現可耕地ノ最大部分ハ擧ケテ支人ノ有ニ歸スヘキカ故ニ吾人カ牧畜以外ノ事業ヲ經營スル場合ニ於ケル勞働者ハ之ヲ支人ニ求ムルノ外ナカルヘシ尤モ女子ノ頗ル勤勉ニシテ家庭ノ内事ハ勿論男子ノ任スヘキ荒仕事ヲモ處辨シツ、アル點ヨリ考察スルトキハ若シ一大醒覺ヲ促スニ於テハ若干ノ望ナキニアラサルヘシト雖モ斯カル希望ハ早急ニ遂ケ難ク詮スル所彼等ハ一年凋落ニ赴クモノニテ其前途ヲ思ヘハ實ニ愷然タルモノアリ

十七、奉天省支那官憲ノ日支新條約ニ對スル態度

日支新條約實施以來在滿邦人ノ滿鐵沿線以外ニ發展ヲ試ミントスル者漸次其數ヲ増シツツアルハ蓋シ條約ノ保障ニ據リ安意隨處居住營業シ得ラルルノ便アルヲ以テナリ然ルニ事實ハ之ニ反シ邦人ノ居住ハ到ル處支那官憲ノ妨害排斥ニ遭ヒツツアルノ状態ニシテ各縣知事ハ巡按使ノ内命ニ依リ一般人民ニ諭告スルニ邦人ニ對スル雜居防遏竝ニ土地賣買嚴禁ヲ以テシ團總ヨリ保衛團長ニ飭令シ其實行ニ努メシメツツアリ而シテ奉天省ニ於ケル各地團總ハ曩ニ該命令到達ト共ニ其所屬保衛團長ヲ召集シ秘密會議ヲ行ヒタル由ニテ今某氏ノ談ニ依レハ奉天西路三十鄉團總三十名ノ秘密會議ハ去十月二十四日ヲ以

奉天省支那官憲ノ日支新條約ニ對スル態度

テ一律舉行セラレタルカ此内西路第五區ニ開催サレタル該會々議ニ於テハ團總富明源ハ其所屬二十屯每屯正副保衛團長各一名ヲ團公所ニ召集シ概要左ノ如キ演說ヲ爲シ各團長等又交々起テ排日的演說ヲ試ミタル後警察及教育費徵收ニ關スル協議ヲ行ヒ散會セリト云フ

土地家屋ノ賣買出租禁止ハ愛國ノ精神ニ基ク官憲ノ内命ニシテ不文ノ律ニ等シ故ニ若シ管内人民ニシテ本命令ニ服セス敢テ家屋ノ出租土地ノ賣買ヲ爲スモノアルヲ發見シタルトキハ官憲ノ命ニ從ヒ之ヲ官署ニ告發スヘク官憲ハ賣國奴又ハ胡匪同罪ヲ以テ本犯ヲ處罰スヘシ各團長ニアリテハ宜シク住戶ニ對シ禁令ヲ傳ヘ事ヲ未然ニ防止スヘシ云々

團總ニ對スル土地賣買家屋出租ノ禁止命令ハ奉天巡按使ノ專斷ニ出テタルヤ將タ中央政府ノ内訓ニ基ケルヤハ詳カナラサルモ奉天省支那官憲叙上ノ行爲タルヤ明カニ日支協約ヲ無視シ我權利ノ實行ヲ阻害防遏セントスルモノニシテ之ヲ條約實施以來頻發ノ遼西居住其他各種問題ニ對スル彼等ノ態度ニ徵スレハ其政策一ニ此趣旨ニ依リテ行ハレツツアルコトヲ推知スルニ難カラス

十八、袁世凱ノ密諭ニ就テ

日支交渉完了後輿論ハ沸然トシテ昂騰シ排日ノ氣勢一時ニ成リ終ニ日貨ノ抵制トナリ又救國儲金大會ヲ北京中央公園ニ於テ開催セラルルヤ各地ノ總會此ニ響應シテ大會ヲ開キ人民ハ熱狂シテ此ニ趨キ會場ハ爲ニ市ヲ爲シタリキ熱河道地方モ後レ馳セニ是ニ加ハリ排日熱モ亦盛ナリトノ情報アリシモ聞ク

袁世凱ノ密諭ニ就テ

所ニヨレハ事實ハ全ク豫想ニ反シ官憲等カ陰ニ陽ニ邦人旅行者等ニ對シ妨害ヲ加ヘタルニ拘ラス一般ノ人民ハ有識者無識者ノ別ナク有力者ト無力者トニ論ナク到ル處概シテ好意ヲ表シ居ルハ恰モ數月前ノ怨恨ヲ全ク忘却シタルカ如キ觀アリテ頗ル奇異ノ感ヲ抱シムルモノアリト然レモ其裏面ヲ窺フニ元來支那ノ地方ニ在リテハ人民農トナク商トナク商業ヲ以テ中心トナシ日々營々トシテ唯利金ノ道ヲ講シアルノミニシテ政治問題ノ如キ眞ニ直接自己ノ利害ニ波及シ來ルモノアル以外ハ恬トシテ顧ミス換言スレハ自己ニ損害ヲ及ホササル限り自國政治ノ狀態カ如何ニ變化スルモ吾關セス焉テフ感念ヲ有スルカ如シ故ニ熱河、赤峰等大都會ノ一部人士ヲ除ク外地方ニ在テハ支那地方制度ノ習慣上地方自治ノ中心トモ見ル可キ各地商務會ノ會長サヘ北京發行ノ漢字紙ヲ見ルモノ稀ニシテ日支交渉カ如何ニシテ發生シ如何ナル結果トナリタルヤ帝制問題カ目下如何ナル景況ヲ呈シツアルヤ又其國家ニ對スル利害如何等ヲ知ルモノトテハ殆ント皆無ナリキ況ンヤ爾他ノ所謂讀書人資産家以下ノ輩ニ於テ

上記ノ如キ國民ヲ以テシテ政事上ニ對シ支那政府ノ所謂民意、輿論公憤等ノ發スヘキ筈ナク若シアリトスレハ寥寥タル一部人士ノ私論ニシテ決シテ多數民意ヲ代表スルモノニ非ス寧ロ官憲自身ノ製造ニ係ルモノタラサル可ラス在熱河英國宣教師「バルネット」ハ該地方ニ在ルコト十八年頗ル地方ノ民情風俗ニ通セルモノナルカ同人ノ言ニ曰ク凡ソ支那人程盲從性ニ富ミタル國民ハ他ニ見サル可シ彼等ハ唯

々トシテ是ト無ク非ト無ク無意味ニ官憲ノ指導ニ從ヒ地方官憲ハ又一モ二モ無ク中央ノ命令ニ盲從ス故ニ支那ノ地方ニ在テ事業ヲ興サントセハ先ツ中央要路ノ人物ヲ動かササル可ラス現ニ日支交渉完了スルヤ熱河ノ商務總會ハ北京總會ヨリ來電アリタリトテ救國儲金大會ヲ開キ集ルモノ數萬頗ル盛況ヲ呈シタリキ然レトモ彼等群集中殆ト其何ノ爲ナリヤヲ知ルモノナク唯々巡警來リテ本日本地點ニ集合セサレハ嚴罰ニ處ス可シト威嚇セラレタルカ故已ム無ク來レルモノナリト概ネ斯ノ如シ蓋シ欺カサルノ言ト謂フ可シ此ニ於テカ一時喧囂ヲ極メタル排日モ日貨排斥モ乃至救國儲金モ皆支那官憲カ故意ニ寧ロ威壓的ニ作成セル一時ノ現象ニシテ決シテ民意ニ非ス輿論ニ非ス故ニ威壓一度去レハ冷却シテ其痕跡ヲ留メサル決シテ怪ムニ足ラサルナリ

十九、奉天省興京縣在留邦人ノ現狀

從來興京縣ニ於ケル邦人ノ居住營業者トシテハ僅ニ賣藥商一戸人口三ヲ有スルノミ餘ハ概ネ木材購買ノ目的ヲ以テ往來スルニ、三商人ニ過キサリシカ今夏締結ノ新條約實施以來居住者俄ニ増加シ昨今其人口ハ男女合計十四名戸數ニ在リテハ特產物兼賣藥業一、味噌醬油類釀造業一、賣藥業三、飲食店一計六戸ヲ算スルニ至レリ而シテ同地支那官民ノ是等邦人ニ對スル感情ハ極メテ良好ニシテ未タ曾テ排斥ノ態度ニ出テタルコト無ク其他興京ヲ中心トシ附近ニ於テ農業ニ從事スル移住朝鮮人ハ約一千名内外ニシテ更ニ是ヨリ通化縣管内ニ至ル一帶ニ亘リ散在セルモノヲ合スル時ハ其ノ數約クモ五、六千ヲ

奉天省興
京縣在留
邦人ノ現
狀

下ラサルヘク彼等ハ每一百戸ニ付百戸長一名ヲ置キ戸長ヲシテ統治ノ任ニ當ラシメ居レルハ支那屯村ノ制ニ倣ヒタルモノニシテ猶當初興京支那官憲ハ入境ノ朝鮮人ニ對シ多少壓迫ノ傾向アリシト雖モ彼等ハ克ク官憲ノ命令ニ服從シ官憲及同地駐屯巡防馬隊長ノ歡心ヲ求ムルニ努メタル結果漸次其壓迫ヲ緩和セシムルヲ得タリト謂フ

東蒙事情 第二號終

大正五年二月一日印刷

印刷所

元

眞

社

東京市麴町區紀尾井町三番地

電話番町 二三九番
四四三五番

終